



平成24年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

# 暮らし復興支援ハートネットプロジェクト事業 県外避難者支援活動レポート

厚生労働省認定 認定個人情報保護団体  
特定非営利活動法人  
医療ネットワーク支援センター

# 目次

はじめに	3
県外避難生活の背景	4
県外避難の現状	6
平成24年度事業概要と成果	8
活動レポート	
ワークショップ	12
人づくり講座	16
コミュニティイベント	20
ハートネットTV	24
医療との関わり方及び健康自己管理意識の啓発	28
ヘルスパスポート	30
資料	
波及効果(マスコミ取材)	3
コミュニティイベント 参加者アンケート総計	9
県外避難者の課題 (東京・新潟コミュニティイベントでのアンケートより)	15
人づくり講座 ボランティアアンケート 総計	19
第1回 人づくり講座	21
第2回 人づくり講座	23
第3回 人づくり講座	25
第4回 人づくり講座	27
第5回 人づくり講座	29
コミュニティイベント 各回参加者アンケート 第1回 コミュニティイベント(東京都江東区)	33
第2回 コミュニティイベント(東京都台東区)	37
第3回 コミュニティイベント(福島県郡山市)	41
第4回 コミュニティイベント(福島県須賀川市)	44
第5回 コミュニティイベント(新潟県新潟市)	47
広報・告知活動	51
協力先一覧	57

# はじめに

平成23年3月11日に発災した東日本大震災より、2年が経過いたしました。大津波が多く命を奪い、福島第一原子力発電所の事故では、周辺の市町村が自治体機能ごと避難を余儀なくされるという未曾有の事態を経て、いまだ、復興への道程は半ばです。避難生活の長期化に対し、官民挙げて、様々な形での支援の取組が必要であり、また、いかに支援を維持していくかが重要となっております。

医療ネットワーク支援センターでは、京都大学大学院医学研究科 健康情報学分野 中山健夫教授と立ち上げた健康情報ネットワーク研究会と共に、平成23年5月より、活動拠点の東京都にて県外避難者の支援活動を開始し、現在に至るまで、東京都、埼玉県、新潟県、福島県にて活動してまいりました。

県内避難者、および全国に及ぶ県外避難者、それぞれに避難の背景（原発事故による強制避難、自主避難、津波被害など）が異なり、また、高齢者の引きこもりの心配、二重生活の母子など、避難受入れ地域によっても求められる支援が異なっています。

活動の中で明らかになったこのような課題を踏まえ、今後も長期的な支援が必要とされる県内外避難者の支援に取り組んでまいりたいと考えております。

また、今年度より、ボランティアの裾野の拡大を目指し、ボランティア講習会を行っております。自分にも何か出来ればという思いを抱えながら、その方法を見つけられないでいる大勢の方々と避難者をつなぎ、長く寄り添っていくことができるネットワークを構築してまいりたいと存じます。

そして、それぞれの避難者の生活再建に向け、新たなコミュニティづくり、地縁づくりへと向かえるよう、これからも多くの民間団体がそれぞれの特性を活かした支援を継続していけるよう情報発信してまいります。今後も団体、企業、自治体、個人ボランティア等、多くの方々と連携し、支援活動を行ってまいりたいと存じますので、引き続きご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成25年3月31日

厚生労働省認定 認定個人情報保護団体  
特定非営利活動法人  
医療ネットワーク支援センター

## 県外避難生活の背景

### 1. 福島県から県外への避難者は全国に5万7千人

2013年3月で震災から2年を迎えるが、福島県における復旧・復興には岩手県、宮城県と格差がある。特に県外への避難者は6万6千人、そのうち福島県からの県外への避難者は5万7千人が存在する（福島県内外で避難生活を送る被災者は約16万人にのぼる。）

### 2. 避難指示区域の再編と「仮のまち」構想

原発と隣接する大熊、双葉、富岡、浪江の4町による帰還までの暫定的な「仮のまち」構想として集合住宅を各地に点在させる「分散型」で計画が進み、同時に帰還促進策として住宅補助が進んでいる。

### 3. 帰還意志の変化と家族の分断

復興庁と富岡町が2012年12月3日から18日にかけて、満18歳以上の富岡町全住民13,191人を対象に行った「富岡町住民意向調査」（回答数7,634人）では、調査時点で帰還の意思を持つ町民の割合は15.6%にとどまった。「戻らないと決めている」人の割合が40.0%と高い一方で、「判断がつかない」人の割合も43.3%にのぼり、意思決定の難しさがうかがえる。仮に帰還できたとしても、インフラが整わず、医療機関などが整備されない状況の中で戻っても、町として機能せず生活ができない、また放射線被害に対する健康不安も根強く、子どもを持つ若い年代層と高齢者層の分断が進む可能性がある。

## ■全国にまたがる県外避難者

東日本大震災および原発事故後、福島県を中心に、被災3県から多くの住民が県外避難を余儀なくされ、福島県の県外避難先は全国の都道府県に及んでいる。

また2013年3月で震災から2年を迎え、福島県内避難者および県外避難者にとっては除染問題、補償問題など先が見えない状況のなかで避難指示区域の再編が行われた。とはいえ、思うように復旧・復興が進まず、多くが県内外で避難生活を送る状況に変わりはない（下表「被災3県の県内・県外避難者数」参照）。

受け入れ自治体への県外避難者には避難指示区域からの避難者、それ以外の地区からの自主避難者が存在し、帰還についても格差が生じている。

表2 《被災3県からの県外避難者受入数（都道府県別）》

	2012年2月9日現在		2012年8月2日現在		2013年2月7日現在	
1	山形県	13,762人	山形県	12,097人	山形県	10,084人
2	東京都	9,148人	東京都	9,448人	東京都	9,078人
3	新潟県	7,095人	新潟県	6,663人	新潟県	5,952人
4	茨城県	5,728人	茨城県	6,266人	茨城県	5,375人
5	埼玉県	4,791人	埼玉県	4,399人	埼玉県	4,037人
6	千葉県	3,679人	千葉県	3,874人	千葉県	3,954人
7	栃木県	3,173人	北海道	3,002人	栃木県	3,109人
8	北海道	3,025人	神奈川県	2,978人	北海道	2,939人
9	神奈川県	2,871人	栃木県	2,966人	神奈川県	2,758人
10	群馬県	2,034人	群馬県	1,913人	群馬県	1,803人

（復興庁公表データより抜粋）

表1 《被災3県の県内・県外避難者数》

	2012年2月9日現在			2012年8月2日現在			2013年2月7日現在		
	県内	県外	県内外合計	県内	県外	県内外合計	県内	県外	県内外合計
福島県	97,231人	60,674人	157,905人	100,177人	60,878人	161,055人	97,022人	57,135人	154,157人
宮城県	126,232人	8,584人	134,816人	127,392人	8,420人	135,812人	109,637人	7,981人	117,618人
岩手県	43,773人	1,562人	45,335人	42,613人	1,605人	44,218人	40,608人	1,627人	42,235人
合計	267,236人	70,820人	342,509人	270,182人	70,903人	343,334人	247,267人	66,743人	315,196人

（復興庁公表データより抜粋）

## ■福島県／避難指示区域の再編と「仮のまち」構想

原子力災害対策本部では平成24年3月30日東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い設定した警戒区域及び避難指示区域（計画的避難区域を含む）について、警戒区域及び避難指示区域の見直しを行う。

- ・避難指示解除準備区域（年間積算線量20ミリシーベルト以下となることが確実であることが確認された）
- ・居住制限区域（年間積算線量が20ミリシーベルトを超えるおそれがあり、住民の被ばく線量を低減する観点から引き続き避難の継続を求める地域）
- ・帰還困難区域（5年間を経過してもなお、年間積算線量が20ミリシーベルトを下回らないおそれのある、現時点で年間積算線量が50ミリシーベルト超の地域）

一方、長期避難を余儀なくされた住民がまとまって暮らし、自治体が他の自治体に役場機能や公共施設などが存在する「仮の町」構想として富岡町では28年度には町内の低線量地区、または周辺町村に整備するとしている。

福島県では県外への避難者が減少傾向にあり、地元への帰還が始まっているとして、2012年12月28日付けで県外借り上げ住宅の新規受付を終了するなど、県内への避難に対する住宅補助による帰還促進も進めている。

## ■帰還意思の変化と家族の分断

富岡町が2011年12月8日より23日にかけて、小学校高学年以上の全町民に対して行った「富岡町災害復興ビジョン（案）に関する意向調査」（回答数3,184人）では、帰還の意思を持つ町民の割合は64%にのぼった。しかし、翌年復興庁と富岡町が2012年12月3日から18日にかけて、満18歳以上の富岡町全住民13,191人を対象に行った「富岡町住民意向調査」（回答数7,634人）では、調査時点で帰還の意思を持つ町民の割合は15.6%にとどまった。「戻らないと決めている」人の割合が40.0%と高い一方で、「判断がつかない」人の割合も43.3%にのぼり、意思決定の難しさがうかがえる。

富岡町の町外コミュニティー（仮の町）は平成26年度を目標にいわき、郡山両市に仮に帰還できたとしても、インフラが整わず、医療機関などが整備されない状況の中で戻っても、町として機能せず生活ができないという声も根強い。

また、富岡町を始め、双葉郡では震災前、3世代が一緒に住んでいた世帯が多いが、上記2012年12月の「富岡町住民意向調査」において、2か所～4か所に分かれて避難している世帯は34.9%にのぼる。富岡町では、震災前に約4,000世帯が震災後6,000世帯に増加しており、避難生活によって家族の形態が変わってしまった状況が分かる。今後も、放射線被害に対する健康不安も根強く、特に子どもを持つ若い年代層は帰還しないことを選択し、高齢世帯は生まれ故郷への帰還を選択する場面が多いことが予想され、家族の分断が進んでいく可能性が高い。

## 県外避難の現状

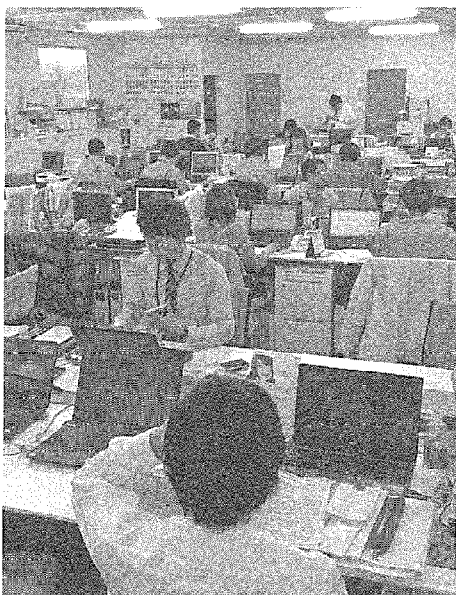
### 1. 避難者が抱える課題 ～山積する課題と意思決定の困難～

- ・全国の県外避難者のうち、8～9割が福島県からの避難者であるが、避難の経緯は、強制避難、自主避難等様々であり、世代や家族構成によって抱える問題も様々である。共通するのは、これまでのつなかりを絶たれての避難を余儀なくされていることである。
- ・帰還、住居、就労、育児、健康、補償・賠償など、あらゆる課題が山積しており、2年が経過した現在も、困難な状況に大きな変化はない。

先を見据えて行動するためには、ある程度の確定要素を基に生活設計をしていくことになるが、最も基本的な住居の問題にしても、入居中の応急仮設住宅にいつまでいられるのか（2013年3月時点では、ほとんどの場合、応急仮設住宅の入居期間は、入居より3年）、いつ帰還できるのか、帰還できた場合に帰還するかしないか、そして、住民の頭越しに制度が変更となる可能性を考えて悩む人も多く、先が見えない中で、「帰還」「健康不安（内部被ばく）」の問題が重くのしかかり、意思決定が大変難しい状況にある。



### 2. 自治体が抱える課題 ～手が回らない県外避難者支援～



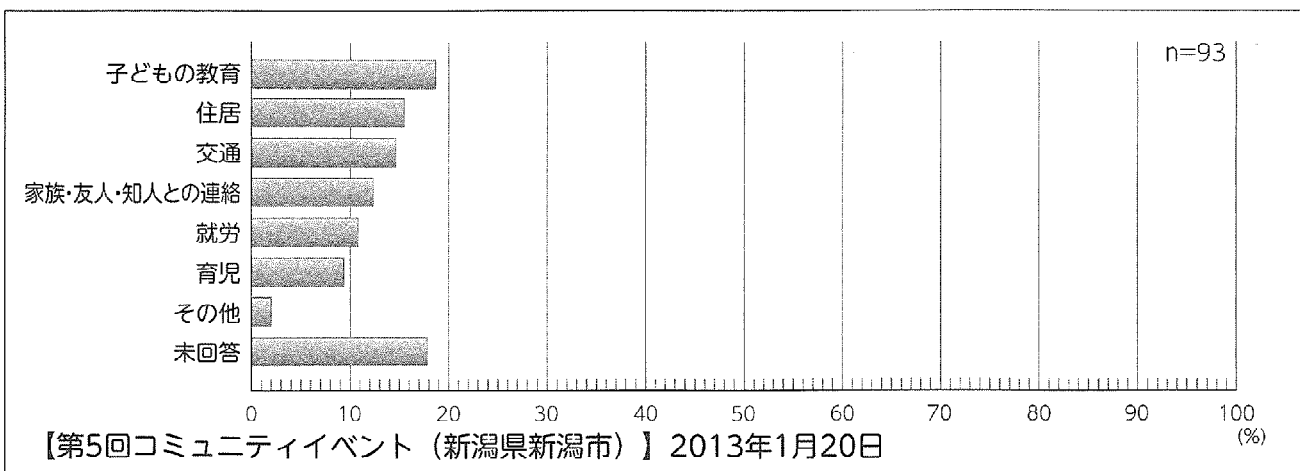
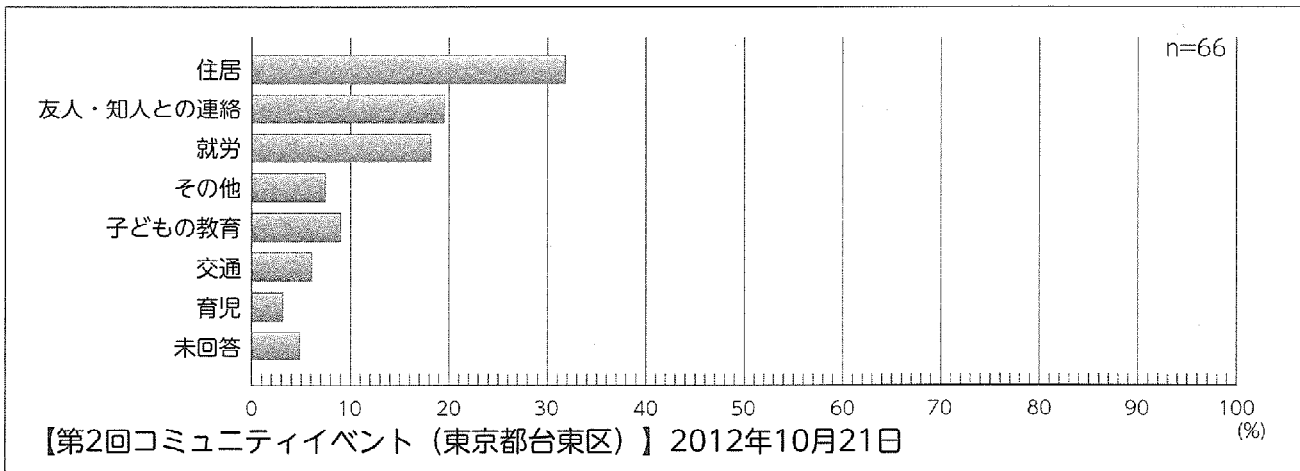
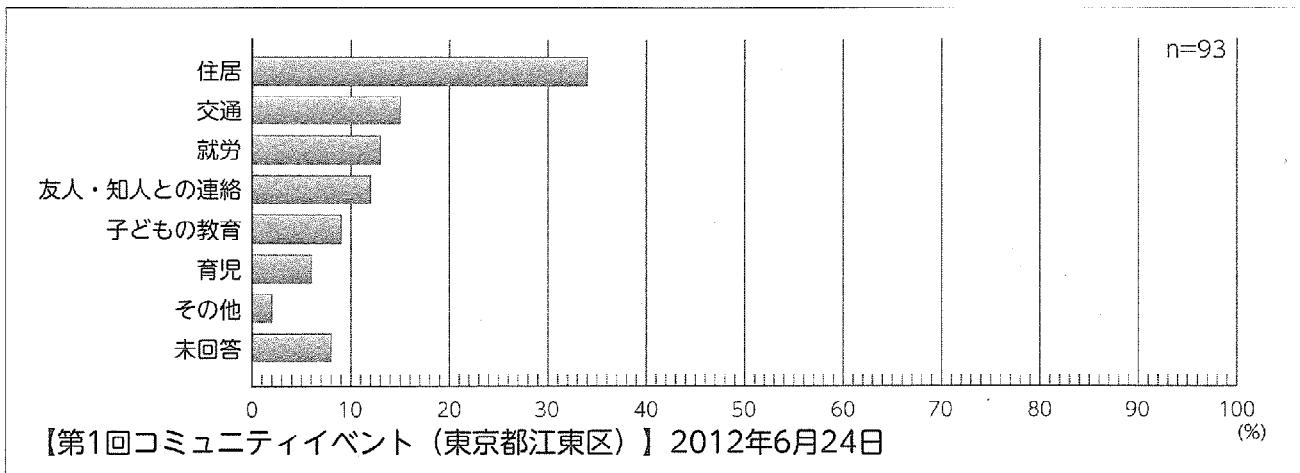
- ・原発事故により職員も被災者であり役場機能と同時職員の、疲弊が心配される。

特に住民サービスとして

- ・他地域に支所を構える双葉町、富岡町、大熊町、浪江町など役場自体では、人手が足らず、全国に及ぶ県外避難者まで手が届かない状況にあり、全国の受け入れ自治体、県外避難者支援団体に頼らなくてはならない状況にある。
- ・また住民への連絡等を行う際にも個人情報への過剰反応などが壁となり民間支援団体への個人情報の提供が難しい状況にあり、支援が広がらない一因となっている。

## 県外避難者の声（コミュニティイベントでのアンケートより）

■県外での生活で、不便に感じていることを教えてください。（複数回答可）



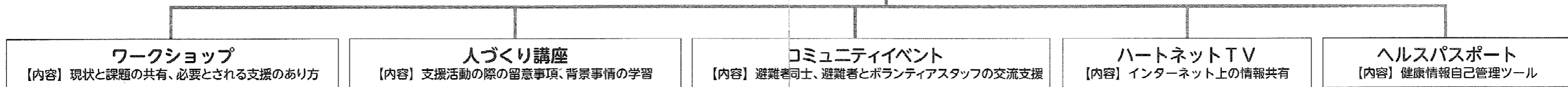
### 平成 24 年度事業概要と成果

## 平成24年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 暮らし復興支援ハートネットプロジェクト

(実施期間：平成24年5月～平成25年3月)

<目的> 東日本大震災及び原発事故により、全国に点在する県外避難者同士の“つながりの場”を作り、共通の不安や悩みを話し合うことによって、“生きがい”と“暮らし”を支える。

<概要> 当団体が行った23年度の助成事業（以下、23年度事業と表記）を発展させ、  
①県外避難者同士の交流を支えるコミュニケーターの育成（“人づくり”）  
②県外避難者同士が集う「ふれあい広場」の開催（“場づくり”）  
③見知らぬ土地での医療との関わり方及び健康管理意識の啓発（“健康づくり”）  
による県外避難者のQOL向上を支援する事業



**委員会**  
【内容】本助成事業の活動の統括および運営を行う。

- 委員長 中山 健夫（京都大学大学院医学研究科健康情報学分野教授／医師）  
 委員 向田 良子（社団法人埼玉看護協会 会長／看護師）  
 城川 美佳（富山大学附属病院専門医養成センターコーディネーター／臨床検査技師）  
 人見 祐（医療ネットワーク支援センター理事長）

- 第1回：平成24年5月30日（東京都渋谷区／医療ネットワーク支援センター事務所）  
 第2回：平成24年7月26日（東京都渋谷区／医療ネットワーク支援センター事務所）  
 第3回：平成25年3月9日（東京都新宿区／新宿 NSビル）

**ワークショップ**  
【内容】現状と課題の共有、必要とされる支援のあり方

**人づくり講座**  
【内容】支援活動の際の留意事項、背景事情の学習

**コミュニティイベント**  
【内容】避難者同士、避難者とボランティアスタッフの交流支援

**ハートネットTV**  
【内容】インターネット上の情報共有

**ヘルスパスポート**  
【内容】健康情報自己管理ツール

### 事業の成果

上記の事業を通じ、県外避難者が抱える課題を把握することができ、支援活動のなかで具体的な対応ができた

- 健康**
- ・ イベント会場の健康相談コーナーでは医師からストレスや“うつ状態”の避難者への生活アドバイスや 医療機関紹介が出来た
  - ・ 口内の状態や唾液チェックなどを実施したことで、歯科医を受診するほどでないが気になっていたことを気軽に相談でき、口腔ケアの啓発ができた
- コミュニティー**
- ・ 多くのボランティアの参加により、避難者が安心して会話ができ、相互に元気づけることができています
- 自立支援**
- ・ 立場の違い(地元地域の違い、補償格差)による、避難者間での軋轢がある中、ダンス講師、手芸講師などの指導のもと地域でのサークル活動が立ちあがってきた
- 福島県内避難**
- ・ 住宅環境などにより情報が届かず未だに「緊急時」の状況であるが、健康自己管理ツールが活用され自治体の訪問看護師との連携により健康自己管理への意識啓発が可能となった
- 母子**
- ・ 原発問題により母子だけで県外避難をし、父親と離れ二重生活を送っている家庭が多い新潟では、親子が安心して楽しめる場の提供ができた

### 支援者

- 企業内には被災地には行けないがボランティア活動に参加したいという社員が多いため、企業との連携をすることで多くのボランティアが参加できた。
- 支援活動の中にリーダー的立場のボランティアが生まれたリーダー的立場のボランティアが自発的に行動を起すことで、ボランティアを支援するサポーター制度も生まれた
  - 企業としての社会的責任とともに社会貢献が出来たボランティア同士が講習、活動の経験をおし価値を共有することで企業への誇りや仕事へのモチベーション向上につながった
  - ボランティア活動への意識変化今まで何もできずにいたが、支援活動を通して“自分が地域社会の一員である”という実感を持ち意識変化が表れていた
  - 昨年度からの延べボランティア参加数：1,300名

### 波及効果

- ・ 被災地における健康自己管理としてヘルスパスポートとの連携の申し出を公益社団法人よりうける
- ・ ワークショップなどに日ごろ引きこもりがち男性避難者が参加するようになってきた
- ・ イベントへのマスコミ取材が多くなる
- ・ ゴールデンウィークに行われるフジテレビ“みちのく合衆国”への参加を依頼される(20万人動員のイベント)
- ・ 企業ボランティアの参加が増えると同時にCSR、社会貢献担当部署からボランティア講習会の依頼をうける

### メッセージ

- [場]の継続・開設
  - ・ 避難者が集える場。また、支援側の情報の共有、発信できる場。
  - ・ 避難者によるサークル活動で外出の機会を増やし、心のケアにつなげる。
- 昨年度からの県外避難者の延べ参加数：3,500名

### 事業概要と成果



# 活動レポート

## ■ワークショップ

- ・目的及び実施体制、成果と波及効果など
- ・実施概要

## ■人づくり講座

- ・目的及び実施体制、成果と波及効果など
- ・実施概要

## ■コミュニティイベント

- ・目的及び実施体制、成果と波及効果など
- ・実施概要

## ■ハートネットTV

- ・目的及び実施体制、成果と波及効果など
- ・実施概要

## ■医療との関わり方及び健康自己管理意識の啓発

- ・目的及び実施体制、成果と波及効果など
- ・実施概要

## ワークショップ

## 目的及び内容

- 目的／情報共有により現状と課題を認識し、適切な支援の実現と、継続的な支援活動の実現のため、連携を広げていく。
- 事業内容／避難によりバラバラになった同郷者が集えるコミュニティスペース、ボランティアによる各種アクティビティ、医療従事者による健康相談などを設け、ストレスからの解放と、情報交換などの交流を促進する。

## 事業の実施概要

- ◇第1回ワークショップ／2012年8月22日（東京都新宿区／新宿NSビル）  
 テーマ「避難生活の現状と、今後取り組むべき課題」  
 福島県避難者支援課 県外避難者担当 東京都駐在担当者に参加いただき、主に東京都内の県外避難者の現状、支援状況について情報共有を行った。
- ◇第2回ワークショップ／2012年10月17日（東京都新宿区／新宿NSビル）  
 テーマ「企業による支援の取組み」  
 大手企業3社のCSR部門、ブランド推進のご担当者より、自社の社会貢献活動の理念や体制、震災後の支援の取組みや今後の計画などについて事例を発表いただく。企業担当者からは、営利組織としての縛りの中で支援活動を継続していくには、被災者と自社のメリットの両立を考えていく必要があるという現状が報告された。
- ◇第3回ワークショップ／2013年1月22日（東京都新宿区／新宿NSビル）  
 テーマ「被災自治体との課題の共有」  
 支援現場において個人情報の取り扱いに関連して対応に困る点が多々みられたことから、自治体関係者や法律の専門家を交えて、災害発生直後から現在まで、住民の個人情報に関連する対応や課題について確認を行った。
- ◇第4回ワークショップ／2013年2月24日（神奈川県横浜市/TKP横浜駅西口カンファレンスセンター）  
 テーマ「支援団体による取組みと現状の課題の共有」  
 避難者による団体「とみおか子ども未来ネットワーク」、新潟県で県外避難者のための交流拠点ふりっぷはうすを運営する「特定非営利活動法人 新潟県NPO協会」、神奈川県から委託を受けて戸別訪問や交流サロンなどを行っている神奈川県社会福祉士会の「かながわ避難者見守り隊」、同じく神奈川県で活動する保健医療分野のMSWボランティアグループ「ソクラテスプロジェクト」に参加いただき、支援団体による情報共有を行った。
- ◇第5回ワークショップ「県外避難者支援フォーラム」／2013年3月9日（東京都新宿区/新宿NSビル）  
 テーマ「避難者、支援団体に聞く現状と課題～必要とされる支援を考える～」  
 自治体、団体、企業、避難者、市民など様々な立場の方に参加いただき、震災より2年を迎えた今後の支援のあり方を検討。単年度予算に基づく活動の難しさ、ますます重要となる継続支援の必要性を確認しあった。

## 実施体制・実施過程

連携団体である【京都大学大学院医学研究科 健康情報学分野・健康情報ネットワーク研究会】より県外避難者の支援のあり方について公衆衛生の観点からのご意見を伺った。

【公益社団法人埼玉県看護協会】埼玉県加須市に避難する双葉町の避難所における健康管理の支援を通じた現況を伺った。

【東雲の会】東雲住宅内をはじめ、交流のある首都圏の避難者の現況を伺い、本活動において情報共有することができた。

## 事業の成果

震災後2年を迎え、2012年度末で支援団体を解散する動きがある中、避難者を含め支援活動に関わる団体、自治体、企業、ボランティアなど様々な立場の方々とのディスカッションにより、避難地域や補償の格差による避難者間の軋轢、帰還の圧力、就職、健康不安といった避難者の抱えている課題が明らかにし、様々な立場の参加者と共有できた。

### 1. 当事者と社会の認識の差

震災から2年が経ち、復興に向かっているとの社会の認識と避難者の感覚には隔たりがある。避難者にとっては、帰還が実現して初めて町の復興に向かえるのであり、今はまだ「応急時」というのが心情である。

### 2. 「存在を忘れない」ことの重要性

- ・ 県外避難者支援の課題として、存在を忘れず継続することの重要性を共有した。
- ・ 避難者それぞれの世代、立場（避難区域の違いや補償の格差など）により、支援活動へのアプローチが異なることが明らかとなった。

### 3. 課題を発信する必要性

- ・ 被災地以外の地域では、日常生活の中で震災を思い出すことも少なくなり、風化が進む傾向にあるため、今後、永続的な支援のために問題を広く知ってもらう必要がある。

## 連携・協働

支援団体、自治体、研究者・専門家、企業、避難者などとのあらたな連携が広がっている。

参加延べ人数／支援団体:57名、自治体:15名、企業:33名、研究者・専門家:16名、個人ボランティア:13名、避難者:11名、学生:5名

## 波及効果

- ・ 公益社団法人助けあいジャパンより、県外避難者が抱える情報格差を解決に際し情報端末の活用拡大を図るため、本事業のヘルスパスポートとの連携等について申し出を受けている。
- ・ また、外出が少ない男性の避難者にも、コミュニティイベントなどでのボランティアとの交流により、積極的にワークショップに参加し、ディスカッションでも発言をいただけた。
- ・ 同時に企業のCSR担当者、社会貢献担当者の参加も広がり意識変化が広がっている。

## あらたなニーズ

- ・ 県外避難者の支援について、団体・市民（民）、企業（産）、大学（学）、自治体（官）が共に考え、取り組むにあたって、広く情報発信するための「場」の継続をしてほしいとの要望がある。
- ・ 方法として、Webサイト等の一層の活用が必要であり、本事業で立ち上げた避難者支援活動のサイト「ハートネットTV」を通じて、上記連携による情報発信を継続してほしいとの要望がある。

## 活動レポート

## ワークショップ

## ■第1回

- 開催時期 平成24年8月22日（水）  
 □開催場所 新宿NSビル3階 北ブロック3-I会議室  
 （東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル）  
 □議 題 避難生活の現状と、  
 今後取り組むべき課題

- 開催内容 1) 挨拶  
 （医療ネットワーク支援センター事務局）  
 2) 県外避難者（東京）の現状報告  
 （福島県避難者支援課 県外避難者担当（東京都駐在）豊田吉彦氏）  
 （医療ネットワーク支援センター理事長 人見祐）  
 ・福島県の避難者状況 ・県外避難者支援の現状  
 ・今私たちができること… ・今後の支援  
 3) ディスカッション

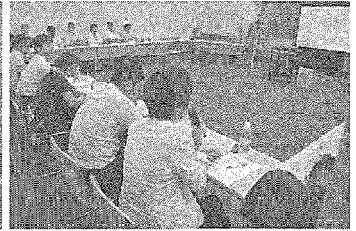
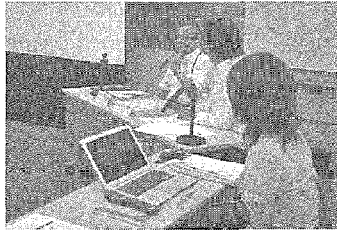
□出席人数 34名

□参加者 (50音順、敬称略)

自治体 福島県双葉町、福島県富岡町、福島県浪江町

企業 アスクル株式会社、東京トヨペット株式会社、東芝ソリューション株式会  
 社、トヨタ自動車株式会社、株式会社ブリヂストン、株式会社明治、株式会社リクルートキャリ  
 アコンサルティング

団体 京都大学大学院医学研究科、公立岩瀬病院、中野区社会福祉協議会、一般財団法人日本口腔  
 保健協会、深澤総合法律事務所  
 ボランティア 跡見学園女子大学



## ■第2回

- 開催時期 平成24年10月17日（水）  
 □開催場所 新宿NSビル3階  
 東ブロック 3-A会議室  
 （東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル）  
 □議 題 企業による支援の取り組み

- 開催内容 1) 支援活動報告  
 （医療ネットワーク支援センター事務局）  
 2) 企業による取組みの紹介  
 ・アサヒグループホールディングス株式会社  
 ・アスクル株式会社  
 ・株式会社ブリヂストン  
 （進行：医療ネットワーク支援センター理事長 人見祐）  
 3) ディスカッション

□出席人数 28名

□参加者 (50音順、敬称略)

企業 アサヒグループホールディングス株式会社、アスクル株式会社、貝印  
 株式会社、キューピー株式会社、株式会社シード、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、  
 田辺三菱製薬株式会社、株式会社ブリヂストン、本多技研工業株式会社、株式会社ラッシュ  
 ジャパン、株式会社リクルートキャリアコンサルティング

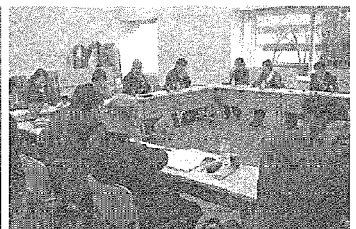
団体 京都大学大学院医学研究科、公立岩瀬病院、中野区社会福祉協議会、一般財団法人日本口腔  
 保健協会、深澤総合法律事務所、福島乳幼児・妊産婦ニーズ対応プロジェクト、子育て応援  
 施設「ドリームハウス」



## ■第3回

- 開催時期 平成25年1月22日（火）  
 □開催場所 新宿NSビル3階 南ブロック 3-G会議室  
 （東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル）  
 □議 題 被災自治体との課題の共有

□出席人数 15名



## □参加者（順不同、敬称略）

自治体 福島県双葉町  
 福島県富岡町  
 福島県浪江町  
 福島県大熊町

専門家 中京大学法科大学院 教授 稲葉一人  
 深澤総合法律事務所（東京弁護士会）深澤勲、福島成洋  
 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 専門職学位課程  
 健康情報学分野 齋藤明子（博士・農学）

団体 とみおか子ども未来ネットワーク代表 市村高志  
 行政 厚生労働省 政策統括官付情報政策担当参事官室  
 医療ネットワーク支援センター 理事長（認定個人情報保護団体 代表）人見祐



## ■第4回

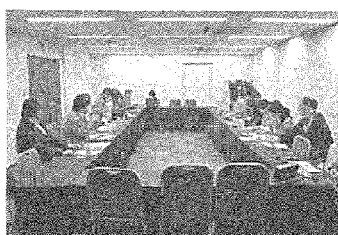
□開催時期 平成25年2月24日（日）  
 □開催場所 TKP横浜駅西口カンファレンスセンター  
 カンファレンスルーム5  
 （神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-1  
 横浜谷川ビルディングANNEX 地下2階）

□議題 支援団体による取り組みと  
 現状の課題の共有

□出席人数 17名

## □参加者（順不同、敬称略）

団体 とみおか子ども未来ネットワーク代表 市村高志  
 特定非営利活動法人 新潟NPO協会 避難者支援事業統括 村上岳志  
 かながわ避難者見守り隊 統括管理者 東谷隆介  
 かながわ避難者見守り隊 コーディネーター 福田麻奈美、他2名  
 ソクラテスプロジェクト 6名  
 医療ネットワーク支援センター 理事長（認定個人情報保護団体 代表）  
 人見祐



## ■第5回

□開催時期 平成25年3月9日（土）  
 □開催場所 新宿NSビル 30階  
 NSスカイカンファレンス ホールA  
 （東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル）

□議題 避難者、支援者に聞く現状と課題  
 ～必要とされる支援を考える～

□開催内容 1. ディスカッション

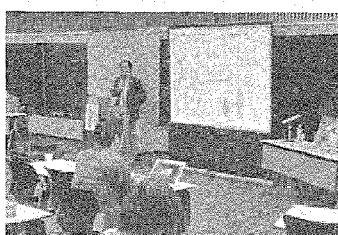
- ・現状と課題
- ・個人情報の壁

パネリスト（敬称略）

市村高志 とみおか子ども未来ネットワーク代表  
 村上岳志 特定非営利活動法人 新潟NPO協会  
 中山健夫 京都大学大学院医学研究科健康情報学分野教授  
 人見祐 医療ネットワーク支援センター理事長  
 石川牧子 日テレ学院学院長、元日本テレビアナウンサー

□出席人数 71名

□参加者 3自治体、14団体、企業7社、避難者11名、他ボランティア



## 人づくり講座

## 目的及び内容

## ●目的

- ・コミュニティイベントでの、より実り多い交流促進のため、ボランティアのコミュニケーション能力を高める目的で、企業の社員、一般市民などをコミュニケーターとして育成する。
- ・継続的な支援を支えるため、企業も参画したボランティアの拡大と支援団による体継続的な支援体制を構築する。

## ●事業内容

- ・ボランティアを行う意欲があっても「どこで」「どのように」行ったら良いかわからないボランティア希望者に対し、**支援活動に際する知っておきたい背景、知識、心がけ**、の講習を行う。
- ・専門的な知識や技能がなくてもボランティアに参加できるよう、**コミュニケーションのきっかけとして活用できるアクティビティの知識**やスキルの演習を行う。

## 事業の実施概要

- ◇第1回：平成24年8月22日（東京都新宿区 / 新宿NSビル）  
アクティビティ演習
- ◇第2回：平成24年10月21日（東京都台東区 / 国立科学博物館）  
ボランティア講習、アクティビティ演習
- ◇第3-1回：平成24年10月30日（東京都新宿区 / 新宿三丁目貸会議室）  
アクティビティ演習
- ◇第3-2回：平成24年11月4日（福島県郡山市 / 福島県看護会館みらい）  
ボランティア講習、アクティビティ演習
- ◇第4回：平成24年12月23日（福島県須賀川市 / 公立岩瀬病院）  
ボランティア講習、アクティビティ演習
- ◇第5回：平成25年1月20日（新潟県新潟市 / 東北電力ビッグスワンスタジアム）  
ボランティア講習、アクティビティ演習

## ●ボランティア講習 内容

- ・ボランティアとは？
- ・現状を知る
- ・支援の現状を知る
- ・避難者の課題を知る
- ・解決策を考える
- ・ボランティアをする前に
- ・目標を持つ／継続

## ●アクティビティ演習

- ・ストレッチ体操
- ・お口の健康体操
- ・ネイルケア
- ・ハンドケア
- ・ダンス
- （ポピュラサイズ®）

## 実施体制・実施過程

## ●ボランティア講座

ボランティア活動前に必要な知識として、本事業での調査活動を踏まえ、避難の背景や現状、課題やボランティア活動の際に心がけておきたいことについて講義を行った。（講師：医療ネットワーク支援センター）

## ●アクティビティ演習

団体、企業、専門家と連携し、コミュニケーションのきっかけとして活用できる知識やスキルとしてのアクティビティの演習を行った。（講師：日本口腔保健協会 歯科衛生士、国立健康・栄養研究所 運動指導士、貝印株式会社、株式会社ラッシュ、東京海上日動メディカルサービス株式会社、ポピュラサイズインストラクター、等）

## 事業の成果

### 1. ボランティアの中にリーダー的立場の人が生まれた

- ・複数回参加するボランティアの中から**リーダー的立場**で運営に携わる人もあらたに生まれた。また、そのような人を中心に、継続的支援のための「**活動サポーター**」登録をあらたに開始した。

### 2. ワーク・ライフ・バランスへの寄与

- ・企業社員のボランティアにとって、演習で得られた知識や技能、ボランティアの経験は、企業内のコミュニケーションにも役立ち、個人のワーク・ライフ・バランスの実現にもつながっている。

### 3. 有意義なコミュニケーションにつながった

- ・所属や背景が異なるボランティア同士が、講義を聞くことで**活動目的を共有**して**活動意義を深め**、避難者に有意義なコミュニケーションができた。
- ・「自分に何ができるだろう」という不安を持っているボランティアが「自分にもできること」を習得でき、初対面の避難者と会話のきっかけがつかめたことで、**自然なコミュニケーション**をすることができた。そのため、イベントの参加者（避難者）からは「温かい雰囲気の中で気分転換できた」「ボランティアの方が一生懸命対応してくれ嬉しかった」など、**安心感を持ってもらうことができた**。

(避難者のアンケートより) ※資料●ページ参照

- ・沢山のボランティアの方が一生懸命に被災者と関わろうとする点に感動しました。(2012年10月21日東京)
- ・何十年ぶりに高校の同級生に会えた。また、同郷の人々とお話が出来て良かった。(2012年6月24日東京)

#### ●人づくり講座参加者数（平成24年度、全6回開催）

- ・東京開催 のべ126人
- ・福島開催 110人（東京から71人 現地39人）
- ・新潟開催 88人（東京から14人 現地74人）

#### ●コミュニティイベント 参加者数

（平成23年5月以降20回開催\*）\*本事業以外のイベントも含む

- ・ボランティア参加数 のべ約1,300人
- ・他団体との連携 25団体
- ・企業 78社

## 連携・協働

### 【一般財団法人 日本口腔保健協会／歯科衛生士】

避難生活のストレスにより唾液の分泌が悪くなることなどが、口内環境の悪化につながることを啓発するため、ケアの方法や予防の知識をボランティアがイベントでサポートできるよう解説いただいた。

### 【国立健康・栄養研究所／運動指導士】

避難生活で外に出る機会が減り、運動不足の避難者が多いことから、日常で手軽にできるストレッチを中心とした体操を解説いただいた。

### 【ダンス（ポピュラサイズ®）／インストラクター】

音楽に合わせてステップする健康リズムダンスを、ボランティアがファシリテートできるよう、レクチャーいただいた。

### 【貝印株式会社】

爪のケアを通じたコミュニケーションの一環として、磨き方の手順をレクチャーいただいた。

### 【株式会社ラッシュジャパン、東京海上日動メディカルサービス株式会社】

ハンドケアを通じたコミュニケーションの一環として、トリートメントの手順をレクチャーいただいた。

## 波及効果

支援活動に参加を検討する企業より、社員がボランティアとして参加する際、活動の意義や背景、事前の心構えを知ってもらうため、**社員向けに講習してほしい**との要望が広がっている。

講座実施企業／アサヒグループホールディングス株式会社様、トヨタ自動車株式会社様、株式会社ブリヂストン様

## あらたなニーズ

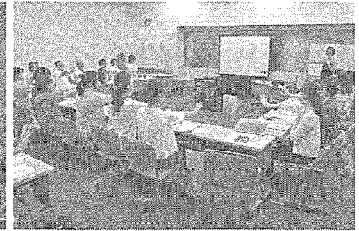
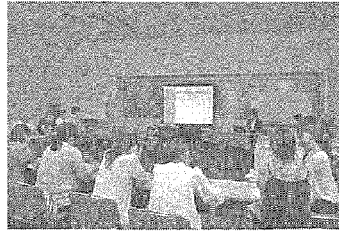
企業の社会貢献活動において、社員のボランティア参加を促すこと、また、社員の自己実現を支援することが重要となっており、**企業内で本講座のような講義を実施してほしい**との要望いただいている。

## 活動レポート

## 人づくり講座

## ■第1回

- 開催時期 平成24年8月22日（水）
- 開催場所 新宿NSビル3階  
北ブロック3-1会議室  
(東京都新宿区新宿3-17-5 カワセビル・7F)

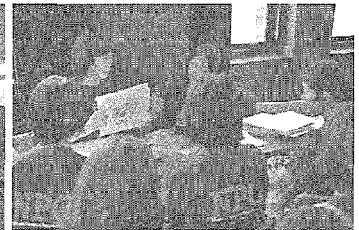
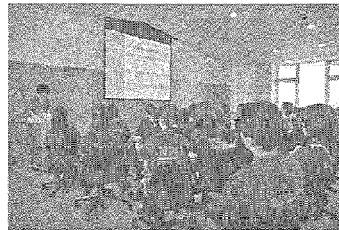


- 開催内容 1) 講座  
「ボランティアをする前に」  
(医療ネットワーク支援センター事務局)
- 2) 演習「実践知識を学ぼう！」
- ・お口の健康体操 協力：一般財団法人日本口腔保健協会
  - ・健康ストレッチ 協力：運動指導士 村上晴香氏  
(独立行政法人国立健康・栄養研究所)
  - ・ネイルケア 協力：貝印株式会社
- 出席人数 29名 (自団体事務局1名含む)



## ■第2回

- 開催時期 平成24年10月21日（水）
- 開催場所 国立科学博物館 日本館2階講堂  
(東京都台東区上野公園7-20)



- 開催内容 1) 講座  
「ボランティアをする前に」  
(医療ネットワーク支援センター事務局)
- 2) 演習「実践知識を学ぼう！」
- ・口腔ケア・小顔マッサージ 協力：一般財団法人日本口腔保健協会
  - ・ハンドケア 協力：株式会社ラッシュジャパン
  - ・ネイルケア 協力：貝印株式会社

- 出席人数 76名



## ■第3-1回

- 開催時期 平成24年10月30日（火）
- 開催場所 新宿3丁目会議室II（セカンド）  
(東京都新宿区新宿3-9-7T&TIIビル4階  
ルームII4f)



- 開催内容 演習「実践知識を学ぼう！」
- ・ダンス ポピュラサイズ®インストラクター 鷹山太郎氏

- 出席人数 20名





## ■第3-2回

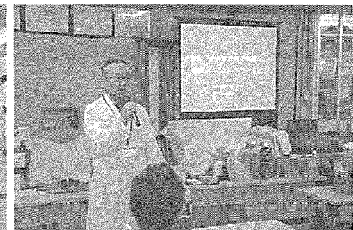
- 開催時期 平成24年11月4日（日）
- 開催場所 福島県看護会館みらい  
(福島県郡山市本町1-20-24)
- 開催内容 1) 講座「ボランティアをする前に」  
(医療ネットワーク支援センター事務局)
- 2) 演習「実践知識を学ぼう！」
- ・ハンドケア
  - ・お口の健康体操 協力：一般財団法人日本口腔保健協会
  - ・ストレッチ&ダンス 協力：運動指導士 村上晴香氏  
ダンスインストラクター 鷹山太郎氏



□出席人数 68名

## ■第4回

- 開催時期 平成24年12月23日（日）
- 開催場所 公立岩瀬病院  
(〒962-8503 福島県須賀川市北町20番地)
- 開催内容 1) 講座「ボランティアをする前に」  
(医療ネットワーク支援センター事務局)
- 2) 「震災・原発事故後の病院と地域のコミュニケーション」  
(講師：公立岩瀬病院 院長 三浦純一氏)
- 3) 演習「実践知識を学ぼう！」
- ・ハンドケア
  - ・お口の健康体操 協力：一般財団法人日本口腔保健協会
  - ・健康ストレッチ 協力：運動指導士 村上晴香氏
  - ・手芸（シュシュ作り） 協力：日本アートクラフト協会

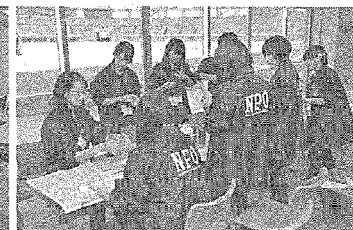
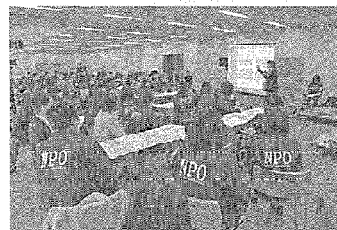


□協力 公立岩瀬病院

□出席人数 55名

## ■第5回

- 開催時期 平成25年1月20日（日）
- 開催場所 東北ビッグスワンスタジアム  
大会運営室4A・B  
(新潟県中央区清五郎67-12)
- 開催内容 1) 講座「ボランティアをする前に」  
(医療ネットワーク支援センター事務局)
- 2) 演習「実践知識を学ぼう！」
- ・ハンドケア
  - ・お口の健康体操 協力：一般財団法人日本口腔保健協会
  - ・ダンス 協力：ポピュラサイズ®インストラクター 鷹山太郎氏



□後援 新潟県

□出席人数 90名

## コミュニティイベント

## 目的及び内容

●目的／23年度事業で県外避難者は出身市町村が同じ者同士の交流を特に求めていることが明らかとなったことを受け、県外避難者同士の交流を支援する。

同時に、避難生活の現状と課題を把握し、広場の実施に生かすための調査、インタビューを行う。

●事業内容／避難によりバラバラになった同郷者が集えるコミュニティスペース、ボランティアによる各種アクティビティ、医療従事者による健康相談などを設け、ストレスからの解放と、情報交換などの交流を促進する。

## 事業の実施概要 コミュニティイベント「こっちゃん来たらいいべえ」

- ◇第1回（通算12回）：平成24年6月24日（東京都江東区／日本科学未来館）  
健康相談、交流カフェ、アクティビティ、福島県富岡町第一中学校同窓会コーナー  
避難者125名、ボランティア74名
- ◇第2回（通算15回）：平成24年10月21日（東京都台東区／国立科学博物館）  
健康相談、交流カフェ、アクティビティ、福島県富岡町第二中学校同窓会コーナー  
避難者119名、ボランティア76名
- ◇第3回（通算16回）：平成24年11月4日（福島県郡山市／福島県看護会館みらい）  
健康相談、交流カフェ、アクティビティ  
避難者17名、ボランティア68名（東京から41名、現地で27名）
- ◇第4回（通算18回）：平成24年12月23日（福島県須賀川市／公立岩瀬病院）  
健康相談、交流カフェ、アクティビティ、健康セミナー  
避難者約100名、ボランティア55名（東京から30名、現地で25名）
- ◇第5回（通算19回）：平成25年1月20日（新潟県新潟市／東北電力ビッグスワンスタジアム）  
健康相談、交流カフェ、アクティビティ、親子ファッションショー  
避難者約200名、ボランティア90名（東京から16名、現地で74名）

## 実施体制・実施過程

【東京】首都圏の避難者を対象に、団体、企業、専門家、ボランティアと連携し開催。また、中学校の卒業式の日震災に遭い、進路もどうなるかわからない状態で友達と離れ離れになった富岡町の子供達（中学生）に、**同窓会**のコーナーを設け再会の機会も支援した。

【福島】郡山／計画当初は連携団体である双葉町の埼玉支所兼避難所がある加須市の旧騎西高校で開催予定であったが、双葉町民の要望があり、また、県外に役場機能を移している双葉町でも、今後計画中の移転等を考えると、町民のつながり支援として開催が望まれた。実施においては東京からのボランティア、福島県看護協会とも連携して開催した。

須賀川／地震の被害が最も大きく、家屋倒壊のため借上げ住まいが多い。イベントには患者、家族など約100人が参加。病院スタッフの協力で**ヘルスパスポートの啓発および紙版**も紹介できた。

【新潟】計画当初は昨年同様、警戒区域からの避難者が多い柏崎市で行う予定であったが、新潟県の意向もあり、子どもの健康被害を恐れて**自主避難する若い母子が多い**新潟市内で開催した。家族と離れ二重生活する世帯が多く、子育てと避難生活のストレスを抱えるお母さんに、日常のストレスを解放してもらうため、アクティビティに加えて、美容協会、子育て支援団体、企業の協力を得て避難者が主役のファッションショーも企画した。

## 事業の成果

交流カフェやアクティビティを通じて避難者の現状をヒアリングすることで、課題が明らかになり、現状を鑑みた次のステップを検討できた。

### 【東京】1. 今後の生活設計の課題

- ・先の見通しが立たないため、どこに住まいを定めるか意志決定ができない。

### 2. 健康の課題

- ・多くの問題が山積し、ストレスが常にあるため体調不良が多い。(健康相談コーナーでの医師の所見では“うつ状態”が目立った)

### 3. 住居とコミュニティ(人間関係)の課題

- ・地元では広い戸建に住んでいた場合が多く、避難先の集合住宅の狭さ、人づきあいの変化にとまどうケースが見られる。
- ・立場の違い(地元地域の違い、補償格差、受け入れ自治体の支援格差など)によって、避難者間に軋轢がある。

### 【福島】1. 住居とコミュニティ(人間関係)の課題

- ・民間借上げ住宅/情報が届かない。避難先地域に溶け込むことなく生活していて外に出ない。
- ・仮設住宅/複数の町の住民が入居し、誰がどこに住んでいるか分からない。ひきこもりがち。

### 2. 県内避難者と県外避難者の現状の違い

- ・県内はいまだに「緊急時」の状況であるが、首都圏では生活に少しずつ落ち着きを見せている。
- ・ひきこもりがちな現状を鑑み、イベントの集客では被災元自治体、地元団体、ボランティアを巻き込んで多方面から行ったが、支援するNPOも少なく、交通手段も少ないため参加者が少なかった。

### 【新潟】1. 自主避難による二重生活の負担

- ・健康への影響不安、経済的負担、家族間の考え方の格差などによる精神的ストレスを抱えている。二重生活に耐えられなくなり、帰還する世帯も出てきている。

## 連携・協働

### 【公益社団法人 埼玉県看護協会】【社団法人 福島県看護協会】

郡山市内でのイベント開催に際し、連携団体の埼玉県看護協会より福島県看護協会を紹介頂いたことで、事前の告知および運営面のアドバイス、会場提供、当日の健康相談などで協力頂くことができた。

### 【特定非営利活動法人 日本臨床美術協会】

誰もがアーティストックな絵を描くことができるプログラムを実施していただき、避難者に気持ちを癒してもらうきっかけの一つを提供できた。

### 【かながわ避難者見守り隊】

神奈川県内の避難者に対するイベントの告知で連携いただき、あらたな参加者が増えた。

### 【とみおか子ども未来ネットワーク】

避難者の自助団体としての活動から得ている避難者の現況について有用な情報を共有いただいた。

### 【新潟県美容協会】

ファッションショーでヘアメイクの協力をいただき、親子で楽しんでもらうことができた。

## 波及効果

広報告知活動により、福島、新潟のイベントに地元テレビ局、新聞より取材を受ける。東京ではフジテレビより支援イベント「みちのく合衆国」の本年5月開催企画への連携依頼を受ける。

## あらたなニーズ

- ・「活動サポーター」登録を通じて、避難者に主体的な活動の意欲を啓発できた。
- ・東京では、次年度の活動目標としているボランティアや避難者の主体的参加によるサークル支援の活動「コミュニティバンク」のニーズが高まっている。
- ・新潟から帰還している避難者からは福島でも同様の支援を行ってほしいとの要望がある。

## 活動レポート

## コミュニティイベント

## ■第1回 こっちゃん来たらいいべえ

□開催日 平成24年6月24日(日)

□開催場所 日本科学未来館 会議室  
(東京都江東区青海2-3-6)

□開催時間 12:00～15:30

□開催概要 避難住民同士の仲間づくり、  
コミュニケーションの支援□実施内容 ◇健康コーナー(何でも健康相談/口腔チェック・お口の健康体操)  
◇ビューティーコーナー:カラーアドバイス/ハンドケア/アロマ石けん作り/ネイルケア  
◇紙すき(ハガキ作り)コーナー  
◇ゲームコーナー  
◇富岡町立第二中学校「2010年度卒業生同窓会」

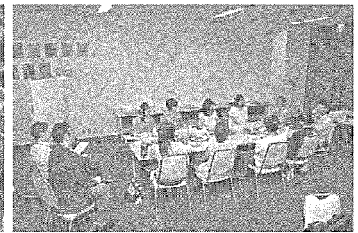
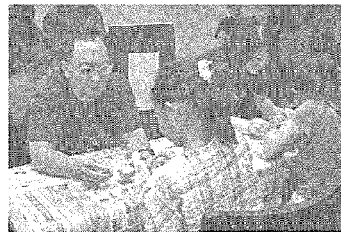
※震災発生当時、中学3年生だった生徒(現高校2年生)と家族を対象に同窓会を開催

□主催 厚生労働省認定 認定個人情報保護団体/特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター

□特別協力 とみおか子ども未来ネットワーク

□参加者数 125名

□ボランティア数 74名



## ■第2回 こっちゃん来たらいいべえ

□開催日 平成24年10月21日(日)

□開催場所 国立科学博物館 日本館 大会議室  
(台東区上野公園7-20)

□開催時間 12:00～15:00

□開催概要 避難住民同士の仲間づくり、  
コミュニケーションの支援□実施内容 ◇ヘルスケア相談コーナー  
◇ビューティーコーナー:口腔ケア・小顔マッサージ/ネイルケア/ハンドケア  
◇ゲームコーナー  
◇音楽演奏:三味線/クラシックギター/パーカッション  
◇富岡町立富岡第一中学校「2010年度卒業生同窓会」

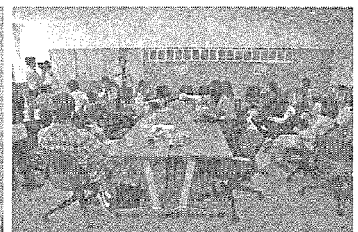
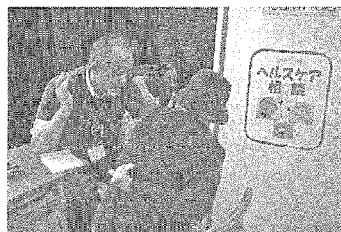
※震災発生当時、中学3年生だった生徒を対象に同窓会を開催

□主催 厚生労働省認定 認定個人情報保護団体/特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター

□特別協力 とみおか子ども未来ネットワーク

□参加者数 119名

□ボランティア数 76名

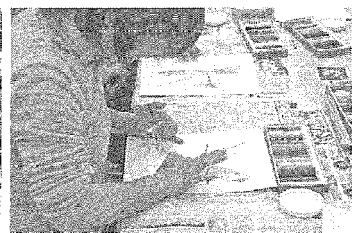


## ■第3回 こっちゃん来たらいいべえ

□開催日 平成24年11月4日(日)

□開催場所 福島県看護会館みらい  
(福島県郡山市本町1-20-24)

□開催時間 13:00～16:00

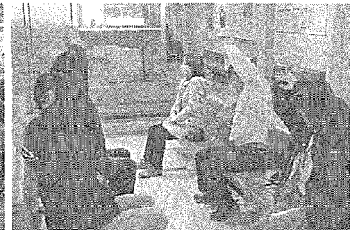
□開催概要 避難住民同士の仲間づくり、  
コミュニケーションの支援□実施内容 ◇コミュニケーションコーナー:健康相談/口腔ケア・お口の健康体操/交流カフェ/玩具で遊ぼう!  
◇体験コーナー:絵画造形教室/ミニフラワーアレンジメント/段ボールクラフト  
◇リラックスコーナー:ハンドケア/ストレッチ&ダンス  
◇その他:参加者プレゼント

- 主催 厚生労働省認定 認定個人情報保護団体/特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター
- 後援 社団法人 福島県看護協会
- 参加者数 17名
- ボランティア数 68名



#### ■第4回 こっちゃん来たらいいべえ

- 開催日 平成24年12月23日(日)
- 開催場所 公立岩瀬病院  
(〒962-8503 福島県須賀川市北町20番地)
- 開催時間 13:00 ~ 16:00
- 開催概要 避難住民同士の仲間づくり、コミュニケーションの支援



- 実施内容 ◇健康セミナー講座「お医者さんに上手く症状を伝えるには」  
(講師：公立岩瀬病院 院長 三浦純一氏)
- ◇コミュニケーションコーナー：ヘルスパスポート紹介/口腔ケア相談/交流カフェ/ゲーム
- ◇体験&リラックスコーナー：絵画造形教室/ハンドケア/楽しく健康ストレッチ/手芸(ジュシュ作り)
- ◇その他：参加者プレゼント



- 主催 厚生労働省認定 認定個人情報保護団体/特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター
- 協力 公立岩瀬病院
- 参加者数 100名
- ボランティア数 55名

#### ■第5回 こっちゃん来たらいいべえ

- 開催日 平成25年1月20日(日)
- 開催場所 東北ビッグスワンスタジアム  
大会運営室4A・B  
(新潟県中央区清五郎67-12)
- 開催時間 11:00 ~ 15:00



- 開催概要 避難住民同士の仲間づくり、コミュニケーションの支援
- 実施内容 ◇親子ファッションショー：メイクアップ/ヘアスタイリング体験
- ◇健康コーナー：健康相談/口腔ケア・相談/ヘルスパスポート紹介
- ◇コミュニケーションコーナー：交流カフェ/ゲーム/ダンス
- ◇美容体験コーナー：ハンドケア/ワンポイントアドバイス(ヘアスタイリング・メイクアップ)
- ◇プレゼントコーナー：新春福袋プレゼント
- ◇子供の健康をまもるためのセミナー



※本セミナーは、2012年度ドコモ市民活動団体への助成事業で行いました。

「イヤイヤ期の子育て」

(講師：谷口清州氏 医学博士/小児科専門医/三重大学医学部小児科/国立感染症研究所客員研究員)

- 主催 厚生労働省認定 認定個人情報保護団体/特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター
- 後援 新潟県
- 参加者数 200名
- ボランティア数 90名

## ハートネットTV

## 目的及び内容

- 目的／全国に離れ離れの避難生活を送っている県内外避難者、およびボランティア、企業関係者の情報共有を促進する。
- 事業内容／支援活動の様様や県外避難者やボランティアのインタビュー等を映像で配信。

## 事業の実施概要

## 追加コンテンツの内容

## ●支援活動風景

コミュニティイベントの活動風景

- ・第1回（通算第12回）こっちゃ来たらいいべえ（2012.06.24 / 東京都江東区）
- ・第2回（通算第15回）こっちゃ来たらいいべえ（2012.10.21 / 東京都台東区）
- ・第3回（通算第16回）こっちゃ来たらいいべえ（2012.11.04 / 福島県郡山市）
- ・第4回（通算第18回）こっちゃ来たらいいべえ（2012.12.23 / 福島県須賀川市）
- ・第5回（通算第19回）こっちゃ来たらいいべえ（2013.01.20 / 新潟県新潟市）

## ●ボランティアの思い

本年度はボランティアの裾野拡大のため、本事業のコミュニティイベントに参加したボランティアに参加した感想をインタビューし発信している。

- 企業
- ・東京トヨペット株式会社 中菌博士さん
  - ・アスクル株式会社 天方順子さん
  - ・近畿日本ツーリスト株式会社 渡辺貴光さん
  - ・某大手電子機器メーカー 鈴木まゆみさん
  - ・明治安田生命保険相互会社 岡部久美子さん
  - ・一夢株式会社 小林まゆみさん
- 専門家
- ・ポピュラサイズ® インストラクター 鷹山太郎氏

## ●人づくり講座

- ・「お医者さんにうまく症状を伝えるには”自分で健康を管理する方法”」
- ・「健康情報の読み解き方」
- ・「ボランティアをする前に」 講師：医療ネットワーク支援センター 理事長 人見 祐
- ・「震災後の病院と地域のコミュニケーション」 公立岩瀬病院 院長 三浦純一先生
- ・「健康リズム体操ポピュラサイズ」ポピュラサイズ® インストラクター 鷹山太郎氏

## 実施体制・実施過程

- ・企業のボランティアにも取材し、アンケートでは拾えない思いをヒアリングした。
- ・避難者の中には、自らが情報発信することに躊躇を感じる人も多い。出身地によって補償内容に格差があるなど、それぞれの置かれている状況が異なるため、自分の意見が代表意見のように取られることを心配し、インタビューは了承してもらっても、公開できないケースがあった。露出が少ないことにより、県外避難者の課題の重要性に目が向けられないという側面もあり、今後、避難者支援を広げていくためには、克服すべき課題の1つといえる。

## 事業の成果

### インタビュー

#### 1. 避難者やボランティアの声による情報発信の意義

- ・福島県内と県外の間で情報が行き渡らず、お互いの状況が分からないことから、避難者のインタビュー映像を発信することで、全国の避難者が同じ課題を抱えている状況を共有して頂くことができた。
- ・社会に避難者への支援が広がる契機とする意義がある。
- ・ボランティアに興味があっても、自分にできるのか不安がある人に、ボランティアへの参加を促すためボランティアの声の発信も意義があると考えます。また、ボランティアがどのように考えて行動しているのか、避難者が知ることによって、相互理解も深まり、不安感を軽減することができると考えられる。

#### 2. 企業の県外避難者を対象とした支援に積極性が出ている

#### 3. 第三者の評価

サイトのページランクが2から4にランクアップ。

ページランクはGoogle社が開発し、自社の検索エンジンに搭載しているWebページの重要度の判定技術。また、算出された各Webページの重要度の指数となっており、「多くの良質なページからリンクされているページは、やはり良質なページである」という関係をもとに、ページの重要度を計算している。

そこで、「ハートネットTV」においては、連携団体、自治体、企業等よりリンクを得ることを始めとしたSEO対策に努め、昨年度「2」であったページランクが「4」にランクアップする結果を得た。

参考：米Googleが考える高品質なサイトの指標に基づくランク

Googleページランク0：評価が無い

Googleページランク1～3：平均的な評価のサイト

Googleページランク4～6：人気があるサイト

Googleページランク7～9：yahooや大手ポータルサイト等のサイト

Googleページランク10：アメリカ政府公式サイト等

## 連携・協働

インタビュー協力

東京トヨペット株式会社、アスクル株式会社、近畿日本ツーリスト株式会社、某大手電子機器メーカー、一夢株式会社、明治安田生命保険相互会社、公立岩瀬病院

## 波及効果

より多くの企業、団体にアピールできたことであらたな企業、団体とのコンタクトができた。

## あらたなニーズ

県外避難者の支援について、団体・市民（民）、企業（産）、大学（学）、自治体（官）が共に考え、取り組むにあたって、広く情報共有するための方法として、Webサイト等の一層の活用が必要であり、本サイトを通じて、上記連携による**社会課題の発信を継続してほしい**との要望が避難者からある。現状を伝える情報としてyou tubeを活用しているが、プライバシーを考慮してクローズにしている。今後は了解を得たうえでオープンにして露出を広げることで、社会課題を発信していく。

活動レポート

ハートネットTV

ハートネットTV トップページ <http://h-aid.jp/h-nettv/>



医療ネットワーク支援センター  
東日本大震災復興支援活動  
healthaid プロジェクト専用サイト  
(<http://h-aid.jp/>)

コンテンツ

◆支援活動風景

- ・第12回 こっちゃ来たらしいべえ (2012.06.24 / 東京都江東区)
- ・第15回 こっちゃ来たらしいべえ (2012.10.21 / 東京都台東区)
- ・第16回 こっちゃ来たらしいべえ (2012.11.04 / 福島県郡山市)
- ・第18回 こっちゃ来たらしいべえ (2012.12.23 / 福島県須賀川市)
- ・第19回 こっちゃ来たらしいべえ (2013.01.20 / 新潟県新潟市)
- ・第7回 県外避難者支援ワークショップ
- ・第10回 県外避難者支援フォーラム

◆人づくり講座

- ・お医者さんにうまく症状を伝えるには  
"自分で健康を管理する方法"
- ・健康情報の読み解き方
- ・ボランティアをする前に  
講師：医療ネットワーク支援センター 理事長 人見 祐
- ・震災後の病院と地域のコミュニケーション  
講師：公立岩瀬病院 院長 三浦純一先生
- ・健康リズム体操ポピュラサイズ ポピュラサイズ®  
インストラクター：鷹山太郎氏

◆ボランティアの思い

- ・帯津三敬病院 院長 増田俊和先生
- ・東京トコペット株式会社 中蘭博士さん
- ・アスクル株式会社 天方順子さん
- ・近畿日本ツーリスト株式会社 渡辺寛光さん
- ・公益社団法人助け合いジャパン 小野清陸さん
- ・某大手電子機器メーカー 鈴木みゆきさん
- ・明治安田生命保険相互会社 岡部久美子さん
- ・公立岩瀬病院 院長 三浦純一先生
- ・一夢堂株式会社 小林まゆみさん
- ・社団法人福島県看護協会 看護師
- ・特非営利活動法人ビーンズふくしま 理事 中鉢博之さん
- ・ポピュラサイズ® インストラクター 鷹山太郎さん

◆県外避難者の声

- ・藤田 泰夫さん 「飲んでた薬の名前
- ・田中 路子さん 「就職活動について
- ・益山 幸子さん 「出産を控えての不安
- ・なみえの"しゃべり場" ~集まれ! 浪江のなかま~



《支援活動風景》

Heart Net TV

HOME 支援活動風景 海外支援者の声 ボランティアの思い 人づくり支援

支援活動風景

【第19回 こっちや来たらしいバズ(2012.06.24/東京都江東区)】 2012.06.24



YouTube【第19回 こっちや来たらしいバズ(2012.06.24/東京都江東区)】

<協力団体>  
(五十音順)  
常陸三歌病院  
とみわが子と未来ネットワーク  
富山大学理学部  
一般財団法人日本口語理解協会  
福島県災害対策協議会

支援活動風景一覧

2012.06.24	2012.10.21	2012.11.04	2012.12.23	2013.01.20
第19回 こっちや来たらしいバズ(2012.06.24/東京都江東区)	第19回 こっちや来たらしいバズ(2012.10.21/東京都江東区)	第19回 こっちや来たらしいバズ(2012.11.04/東京都江東区)	第19回 こっちや来たらしいバズ(2012.12.23/東京都江東区)	第19回 こっちや来たらしいバズ(2013.01.20/新潟県新潟市)

Heart Net TV

HOME 支援活動風景 海外支援者の声 ボランティアの思い 人づくり支援

支援活動風景

【第19回 こっちや来たらしいバズ(2013.01.20/新潟県新潟市)】 2013.01.20



YouTube【第19回 こっちや来たらしいバズ(2013.01.20/新潟県新潟市)】

<協力自治体>  
新潟県

<協力団体・自治体>  
(五十音順)  
一般財団法人日本口語理解協会  
子育て応援施設ドリームハウス  
特定非営利活動法人新潟FPO協会  
公益社団法人新潟県看護協会  
新潟県美容業生活衛生同業組合  
新潟大学 学生ボランティア同  
新潟医療福祉大学 学生ボランティア同  
新潟県立大学 学生ボランティア同  
新潟青陵大学 学生ボランティア同  
特定非営利活動法人ヒューマンエド?2  
ホビュサイズ

支援活動風景一覧

2012.06.24	2012.10.21	2012.11.04	2012.12.23	2013.01.20
------------	------------	------------	------------	------------


《ボランティアの思い》

Heart Net TV

HOME 支援活動風景 海外支援者の声 ボランティアの思い 人づくり支援

ボランティアの思い

【常陸三歌病院 院長 増田俊和先生】 2012年09月撮影



YouTube【常陸三歌病院 院長 増田俊和先生】

ボランティアの思い一覧

2012年09月撮影	2012年09月撮影	2012年09月撮影	2012年09月撮影	2012年09月撮影
常陸三歌病院 院長 増田俊和先生	常陸三歌病院 院長 増田俊和先生	常陸三歌病院 院長 増田俊和先生	常陸三歌病院 院長 増田俊和先生	常陸三歌病院 院長 増田俊和先生

Heart Net TV

HOME 支援活動風景 海外支援者の声 ボランティアの思い 人づくり支援

ボランティアの思い

【一孝製作会社 小村まゆみさん】 2012年11月撮影



YouTube【一孝製作会社 小村まゆみさん】

ボランティアの思い一覧

2012年09月撮影	2012年09月撮影	2012年09月撮影	2012年09月撮影	2012年09月撮影
常陸三歌病院 院長 増田俊和先生	常陸三歌病院 院長 増田俊和先生	常陸三歌病院 院長 増田俊和先生	常陸三歌病院 院長 増田俊和先生	常陸三歌病院 院長 増田俊和先生

## 医療との関わり方及び健康自己管理意識の啓発

### 目的及び内容

- 目的／見知らぬ土地での生活の不安を払しょくし、また、健康管理によって生活の質を高めるため、医療のかかり方や健康管理意識について啓発する。
- 事業内容／23年度事業における健康自己管理ツールの発展版。
  - ◇健康情報自己管理ツール（ヘルスパスポート）の更新とユーザインターフェイス
    - 有識者（医療分野）による監修と、利用者からのフィードバックをもとに、23年度事業で制作した、携帯やパソコンから自分や家族の健康情報を登録、閲覧、管理できるツールの内容を拡充する。タブレットPC用のインタフェースも開発する。
  - ◇紙版での制作
    - 23年度事業の際、年配者が携帯やパソコンを利用しないという現状があったため、紙のパンフレットと携帯用カード版の制作も行う。
  - ◇セミナーでの啓発
    - 各回のコミュニティイベントで健康不安を和らげる健康相談の実施、医療との関わり方を紹介するセミナーを行うとともに、健康管理意識の啓発を目的としてヘルスパスポートを紹介し、利用を促す。
  - ◇タブレットPCの設置
    - 被災者の利用を促す目的で、連携団体である福島県双葉町および福島県須賀川市・公立岩瀬病院に3台ずつ、タブレットPCを設置する。

### 事業の実施概要

- ◇ヘルスパスポート インターネット版
  - ・23年度に作成したインターネット版（パソコン版、携帯版）をもとに、近年利用者が飛躍的に増えているスマートフォンやタブレットPC向けのインタフェースのページを新たに構築。使い勝手を向上した。どの端末向けのページからでも同じID、パスワードで管理できる。
  - ・登録項目 「現在治療中の病気」、「使用中の薬」、「既往歴」、「アレルギー（食物・薬）」、「たばこやアルコールの摂取頻度」。
- ◇ヘルスパスポート 紙版
  - ・インターネットを利用しない高齢者を主な対象に、紙版を作成。自宅に置いておく冊子形式でなく、財布に入れて持ち歩ける名刺サイズ2つ折にし、外出先で活用できるようにした。
  - ・登録項目 「持病または治療中の病気」、「使用中の薬」、「過去入院歴のある病気／ケガ」、「アレルギー（食物・薬）」、「かかりつけの病院」、「氏名」、「生年月日」、「現住所」、「自宅電話番号/携帯番号」
- ◇健康セミナー
  - ・「お医者さんに上手く症状を伝えるには」（講師：公立岩瀬病院 院長 三浦純一氏）  
2012年12月23日（公立岩瀬病院／福島県須賀川市）  
医師に症状を伝える際に心がけておくと良いことなど、医療機関と上手に付き合い、健康を管理する大切さについて。

### 実施体制・実施過程

- 【コミュニティイベントでの紹介】 コミュニティイベントで、参加者に紙版を配布するとともに、ヘルスパスポートの紹介コーナーを設置し、電子版の使用方法を説明した。
- 【健康セミナーでの紹介】 コミュニティイベントで健康セミナーを行った際に、医療機関と上手に付き合うために日頃から自分や家族の健康情報を把握しておく必要性を話し、そのためのツールとして、ヘルスパスポートも紹介した。
- 【連携団体による活用】 本プロジェクトの連携団体である双葉町 福島支所と公立岩瀬病院 保健指導室の協力により、健康情報の自己管理の大切さ啓発のため、ヘルスパスポート インターネット版を紹介。
- 【協力団体による配布】 神奈川県社会福祉士会が県からの委託を受けて活動する「かながわ避難者見守り隊」の協力を得て、神奈川県への県外避難者へのヘルスパスポート紙版の配布およびインターネット版の紹介を行った。

## 事業の成果

### 【ヘルスパスポート インターネット版】

医療従事者によるヘルスパスポートの利用促進

- ・連携団体の双葉町（郡山支所）と公立岩瀬病院（福島県須賀川市）の協力により、健康情報の自己管理啓発を目的に、タブレットPCを使った運用を開始した。
- ・各施設において医療者が直接、被災者と対面で説明できることから、イベント等での啓発以上の意識付けの効果が期待される。

### ◇双葉町（郡山支所）

- ・看護師・保健師による仮設住宅、借上げ住宅への巡回訪問時の啓発  
双葉町においては看護師・保健師6名が3チーム編成で巡回する体制になっており、県内避難者3,728人を対象に全域を4地域（県中、県南、会津、いわき）に分け、3チーム6名が月曜から金曜まで毎日、サロン等の集会の場と各家庭に戸別訪問している。月の活動日数20日、訪問回数は60回が予定されており、健康指導と同時に自己管理の啓発を推進する効果が非常に大きいため、巡回する3チームにタブレット1台ずつを持参してもらい啓発推進の協力を得る。

### ◇公立岩瀬病院（福島県須賀川市）※2011年5月、政令により特定被災地方公共団体および特定被災区域に指定

- ・保健指導室（メタボリックシンドロームに対する保健指導を行う）での看護師による啓発
- ・外来受付にタブレットPCの設置、案内ボランティアによる入力補助  
公立岩瀬病院では外来患者が年間75,772人、ひと月6,200人、1日平均310人来院する。受付待ち合い時間に利用を促すことを試みると同時に、年間4,000人、ひと月340人、1日平均16人が受診する健診（保健指導）において、常駐する保健師、看護師より啓発推進する。
- ・登録数／昨年度実績54件、本年度300件（2013年3月25日時点）

### 【ヘルスパスポート 紙カード版】

紙カード型ができたことで手軽に持ち歩けるようになった。

配布数／約380部（2013年3月時点）

### ◇コミュニティイベントでの配布／第4回（須賀川市）：約100部、第5回（新潟市）：約150部 須賀川市の健康指導員より市に紹介いただいた。

### ◇かながわ避難者見守り隊による配布協力／2013年1月～2月にかけて、訪問先、交流サロン、関連の施設などに配布

## 連携・協働

【福島県双葉町】 タブレットPCの設置協力

【公立岩瀬病院】 三浦純一院長によるセミナーの講師協力、タブレットPCの設置協力

【かながわ避難者見守り隊】 交流サロンや見守り訪問の際に登録の啓発と紙カード版配布の協力

## 波及効果

公益社団法人より、避難者が情報を取得しやすいようタブレット端末の活用促進のため、本事業のヘルスパスポートとの連携の要望がある。

## あらたなニーズ

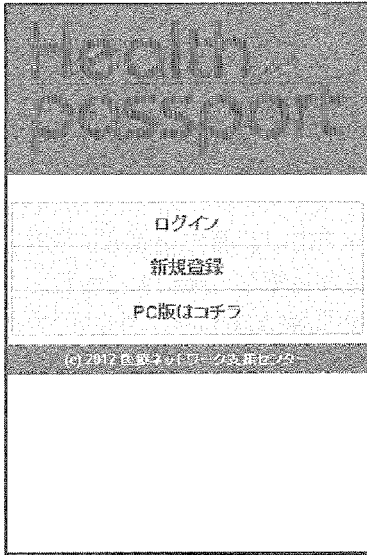
自治体では、県内避難住民の健康管理に活用できないか、というニーズが出ており、今回の試用により検討を行う。

# ヘルスパスポート

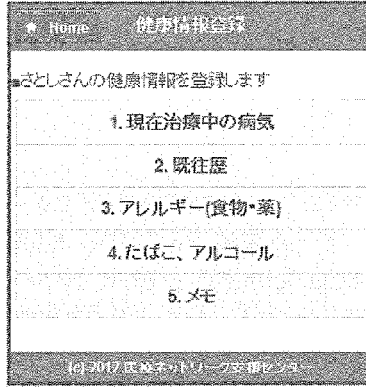
## ■ 電子版

スマホ/タブレット版 ([http://h-aid.jp/health\\_sm/](http://h-aid.jp/health_sm/))

[ ログイン画面 ]



[ 健康情報登録画面 ]



### <ヘルスパスポート電子版の登録方法>

**STEP 1**  
新規会員登録 (ID・パスワード)  
ID(メールアドレス)とパスワードを登録します。

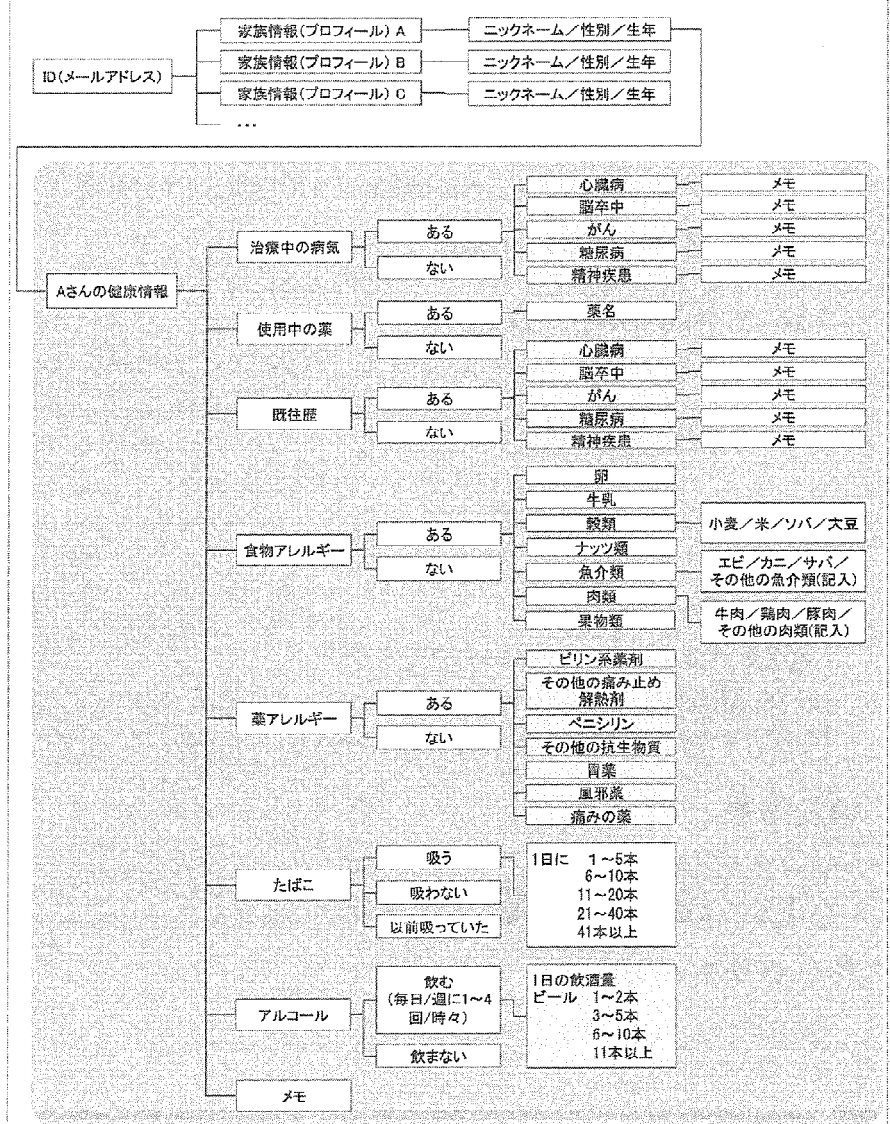
**STEP 2**  
家族情報の新規登録  
健康情報を登録したいご家族のプロフィールを登録します。(名前はニックネームで登録できます。)

**STEP 3**  
健康情報の登録  
プロフィールを登録したご家族の健康情報を登録します。

[ トップページ ]



<ヘルスパスポート「電子版」 ツリー図 >



携帯版 (http://h-aid.jp/hp/)

<p>【ログイン画面】</p> <p>Health passport</p> <p>■新規登録</p> <p>簡単ログイン</p> <p>■ログイン</p> <p>ID(メールアドレス)</p> <p>パスワード</p> <p>ログイン</p> <p>■パスワードを忘れた方</p>	<p>【トップページ】</p> <p>Health passport</p> <p>■家族情報の新規登録</p> <p>■登録内容を見る</p> <p>太郎</p> <p>ログアウト</p> <p>■ID変更</p> <p>■パスワード変更</p> <p>■退会する</p>	<p>【健康情報登録画面】</p> <p>Health passport</p> <p>健康情報登録</p> <p>■太郎さんの健康情報を登録します。</p> <p>1.現在治療中の病気</p> <p>2.既往歴</p> <p>3.アレルギー(食物・薬)</p> <p>4.たばこ、アルコール</p> <p>5.メモ</p> <p>トップページへ</p>
---	---	---

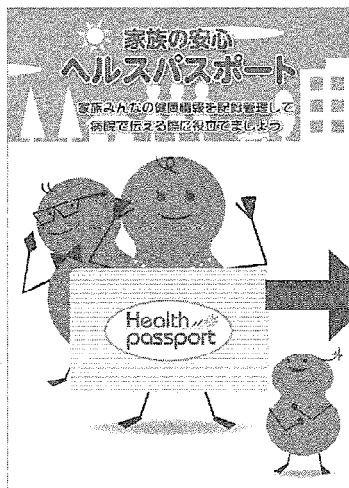
PC版 (http://h-aid.jp/hp\_pc/)



東日本大震災復興支援活動 healthaid プロジェクト専用サイト (http://h-aid.jp/)

紙カード版

パンフレット表紙



取り出して携帯できる 名刺サイズのカード

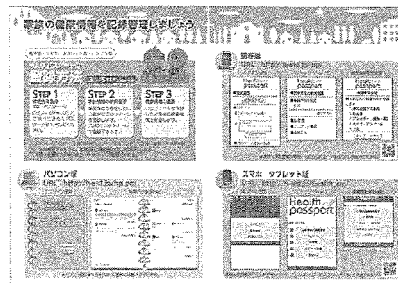
紙版カード表面



紙版カード中面

●家族の基本情報中の氏名	●おかりの氏名
●使用中の病	●病名
●加入している健康保険の種類/番号	●生年月日
●アレルギー	●喫煙状況
●常アレルギー	●服用薬品名
	●アレルギー

パンフレット中面



資料

波及効果  
(マスコミ取材)

資料

# コミュニティイベント 参加者アンケート総計

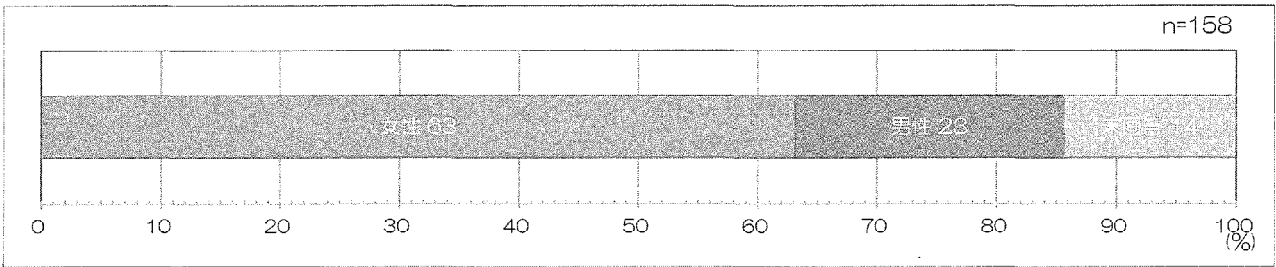
(各回詳細はp32以降参照)

# コミュニティイベントアンケート総計

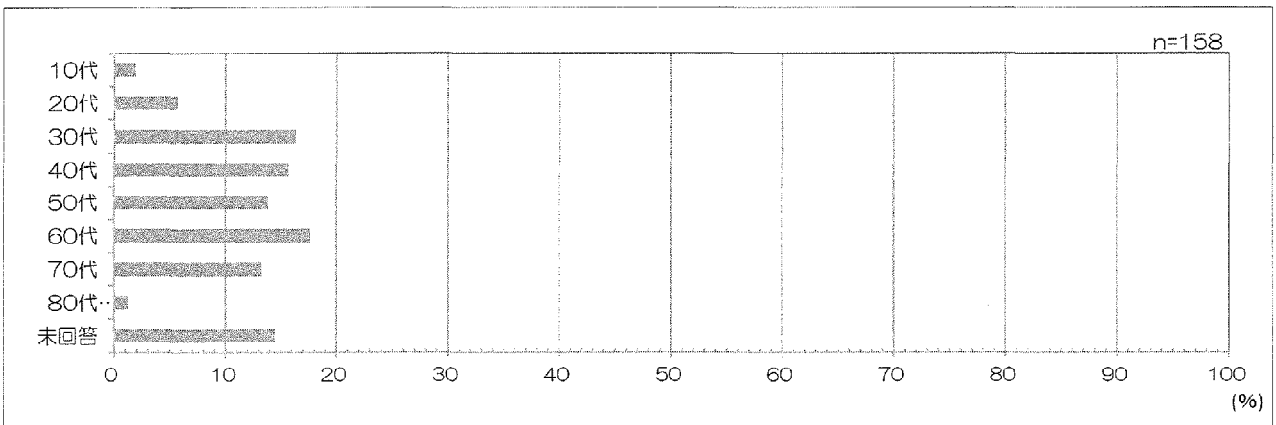
## ■アンケート回答数

・イベント参加者数 : 503名  
・アンケート回答者数 : 158名

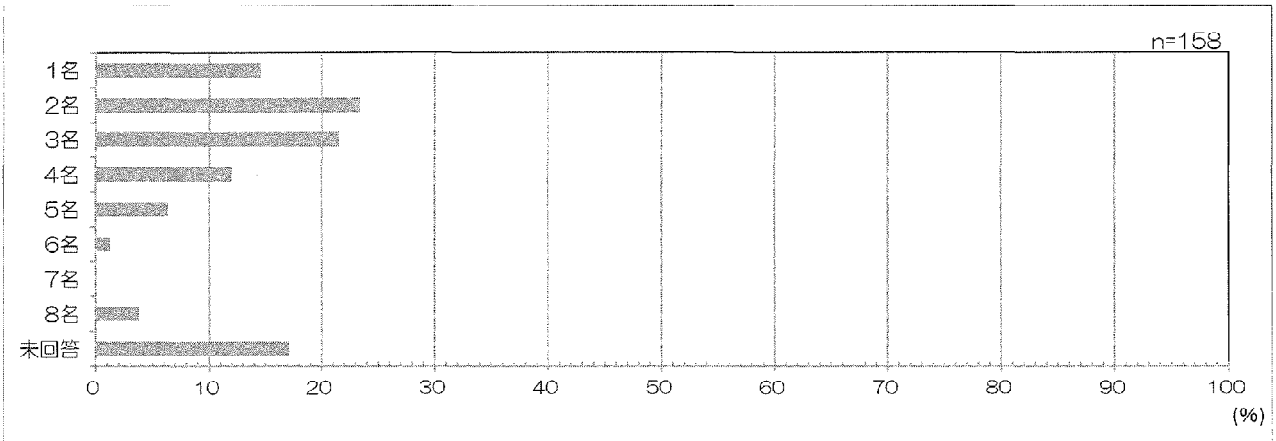
## ■性別



## ■年代

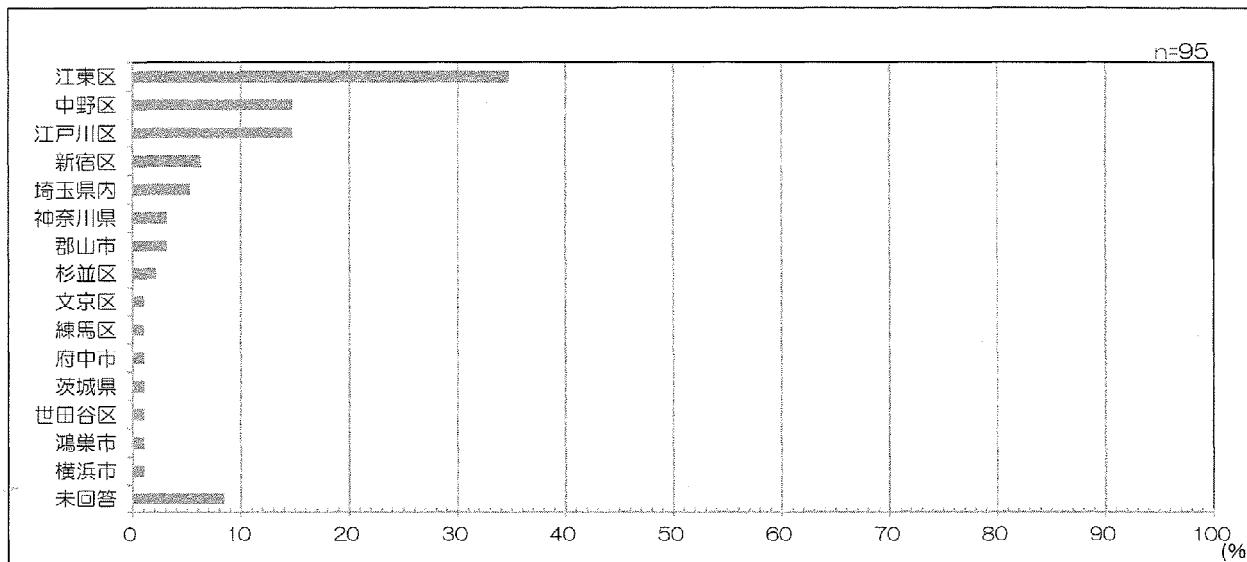


## ■参加人数

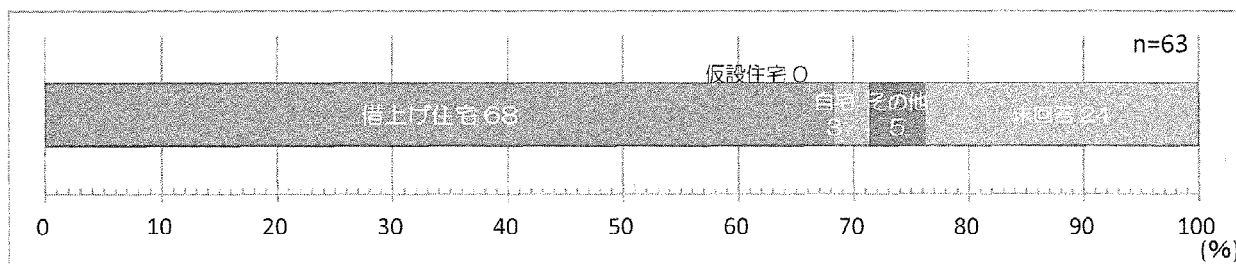




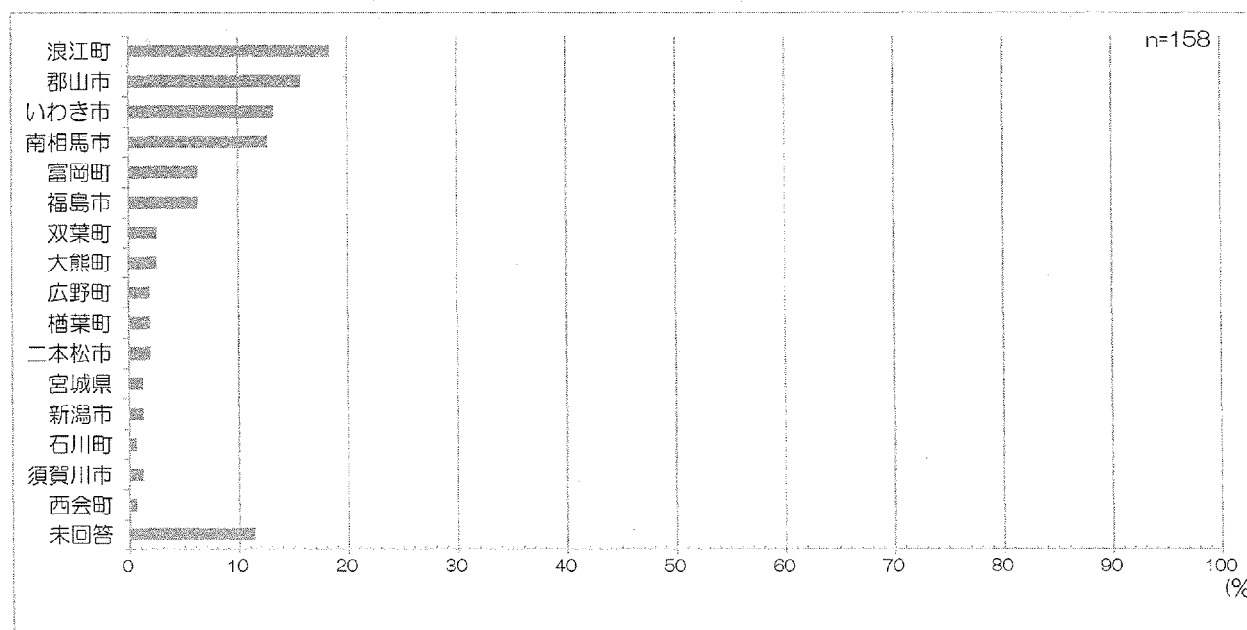
■現在の居住地（第1回～第2回）



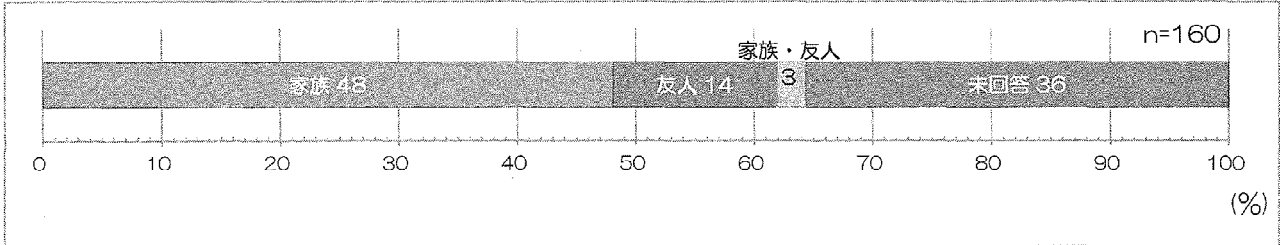
■現在の居住地（第3回～第5回）



■出身地

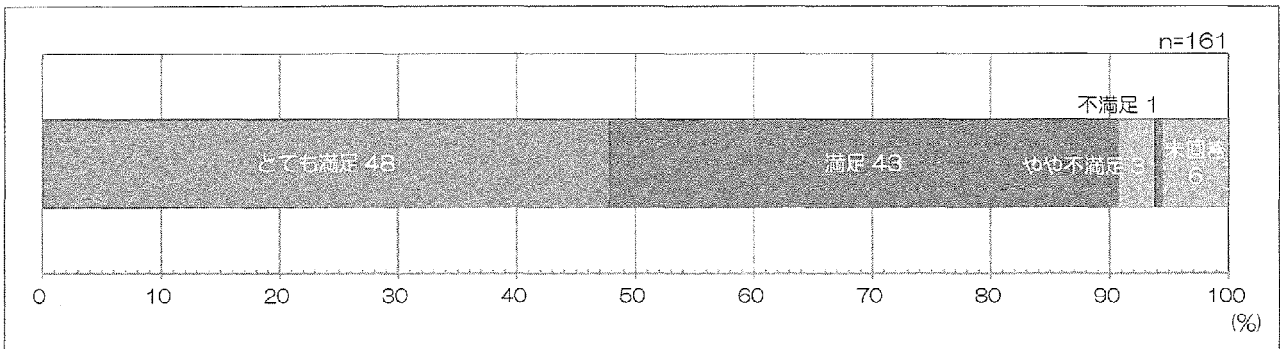


■参加形態



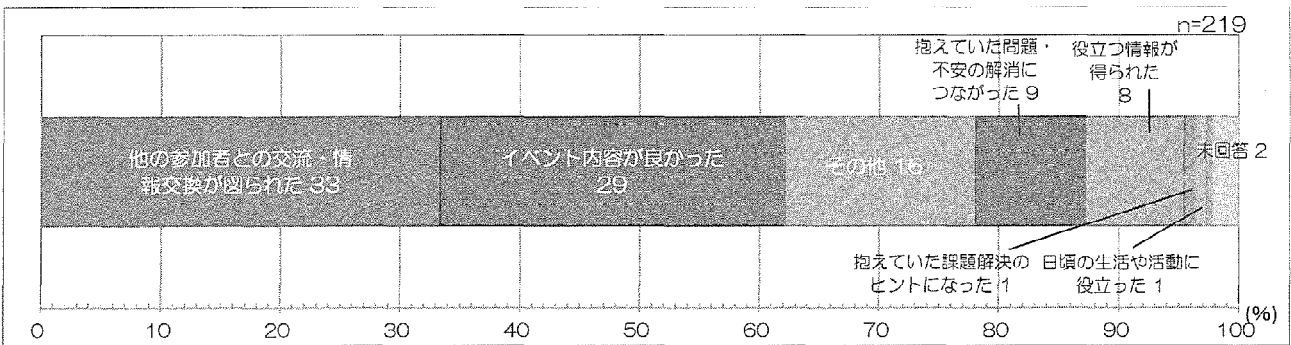
※複数回答者あり

■イベント全体について

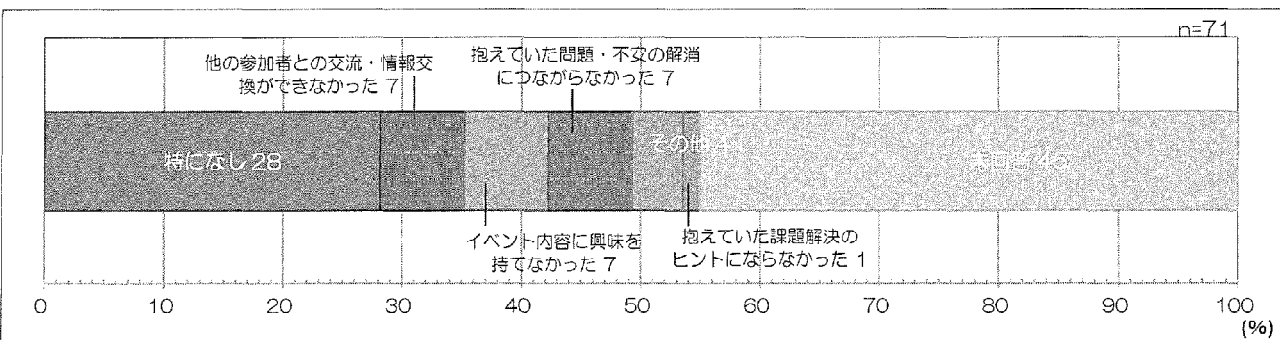


※複数回答者あり

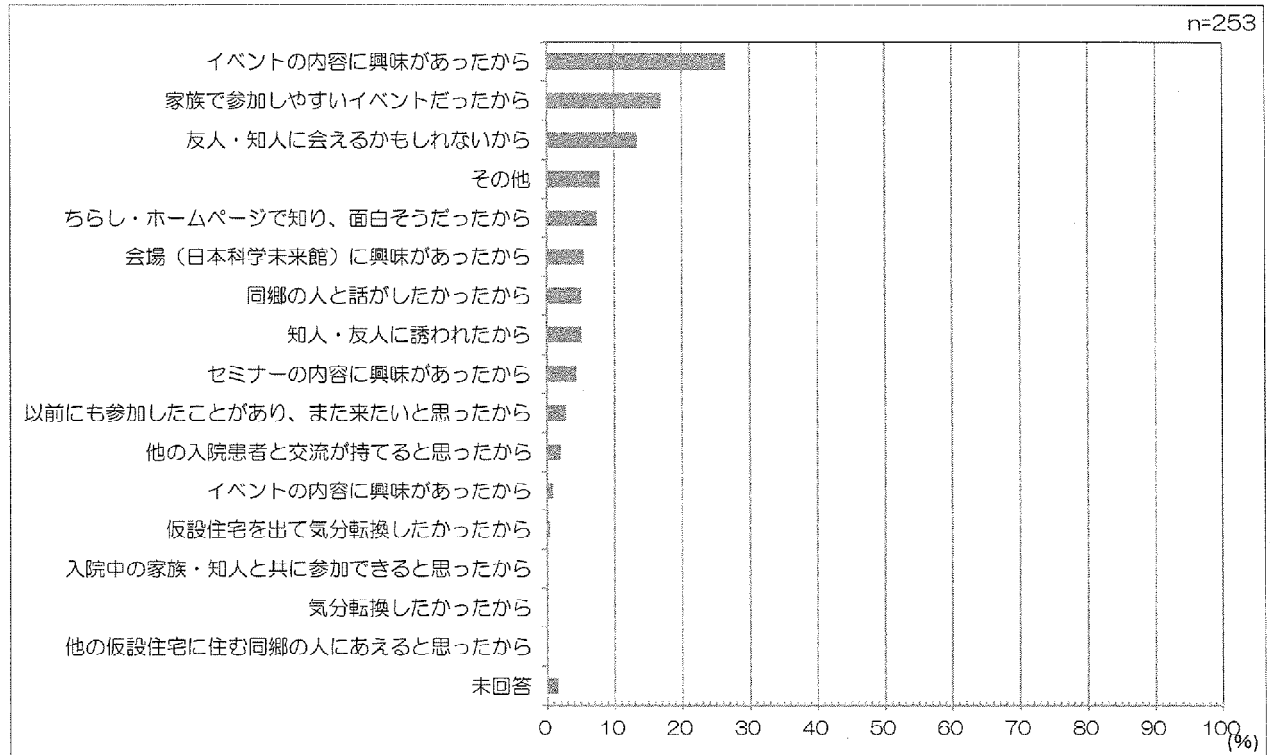
■どのような点が良かったですか。(複数回答可)



■どのような点が良くなかったですか。(複数回答可)

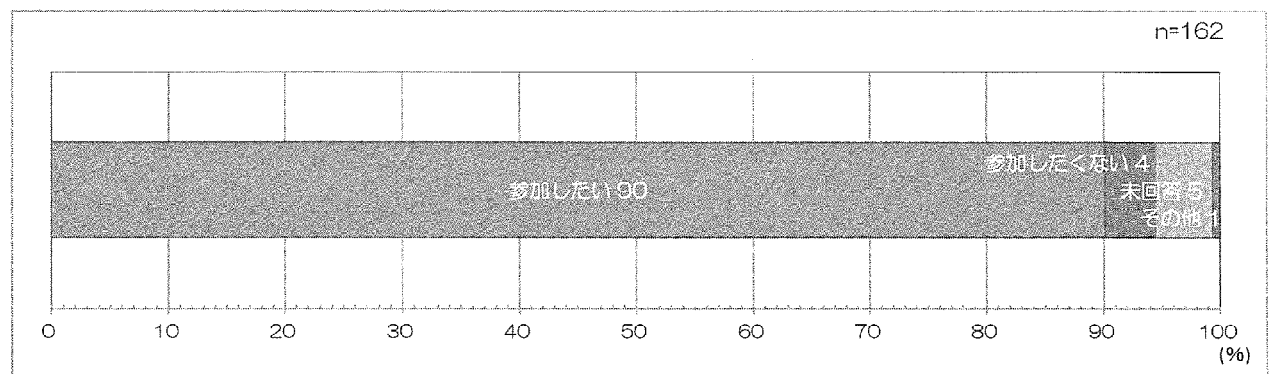


■ 今回のイベントへの参加理由を教えてください。



※複数回答者あり

■ 次回も同様のイベントを開催した場合、参加したいですか？



※複数回答者あり

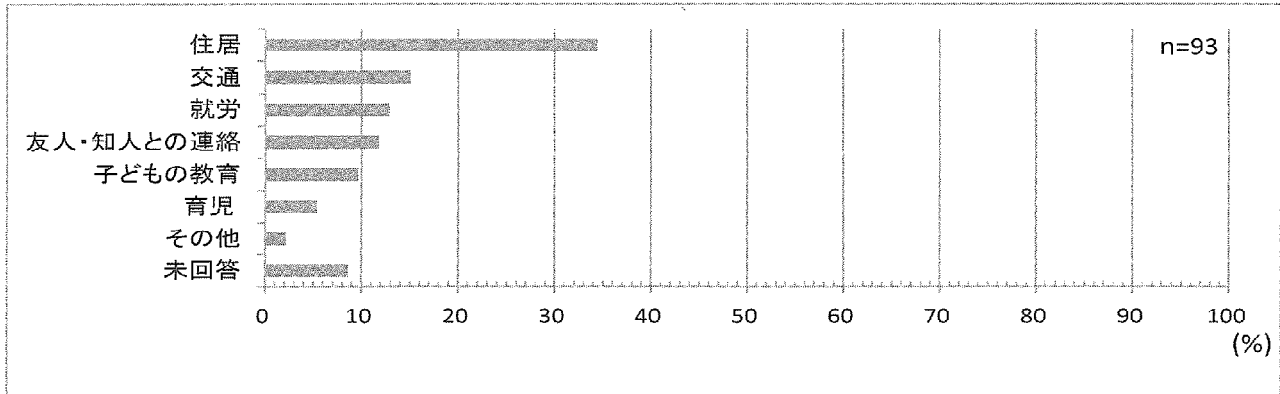
資料

## 県外避難者の課題

(東京・新潟コミュニティイベントでのアンケートより)

東京都江東区 2012年6月24日

## ■ 県外での生活で、不便に感じていることを教えてください。（複数回答可）

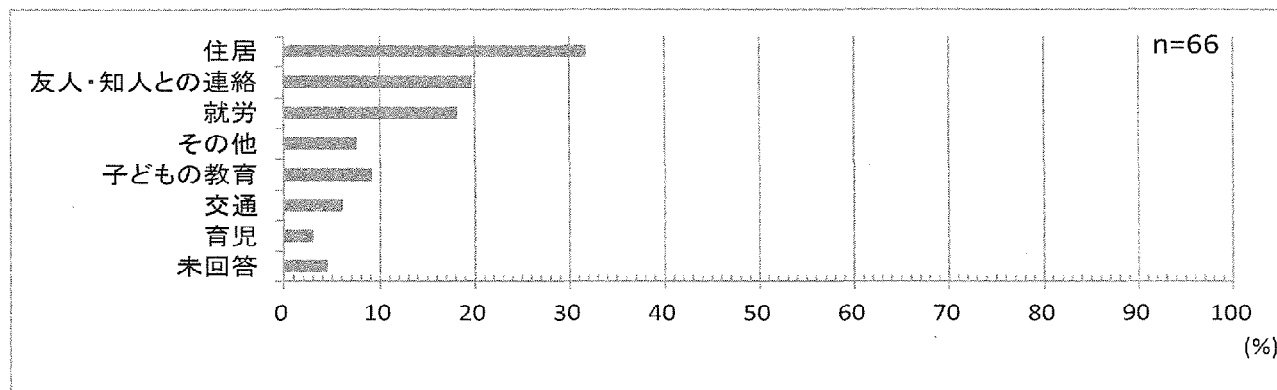


## ■ 不便に感じている理由を教えてください。（主な回答）

- ・ 部屋が狭いので物が置けない。台所が狭く、作るのに不便です。
- ・ 部屋の数が少ないこと。日当たりの部屋が少ない。
- ・ アパート6×2の室しか無く個人の生活（3人で生活）が出来ずストレスを感じる。
- ・ 日当たりが悪く、高齢の母は段差があり生活しづらい。1Kの台所で3人分の食事作りは大変です。
- ・ 家財を持ち出しても、（たくさんありすぎて）場所がないので持ち出せない。
- ・ 福島の実家は取り壊しになる為、家財道具などを現在の都営住宅に持ち込めない事が不便です。
- ・ 1Kの為、収納する所がありません。湿気が多くて布団がビショビショになります。
- ・ 自分の持家に住みたい。
- ・ 整理する所がない。勤務先が遠く感じる。
- ・ 車があるのに電車、バスを使わないといけないので料金が家族で移動すると負担が大きくなるので、外出が減る。
- ・ 地理不足の為、車での利用が怖くてあまり外出出来ない。
- ・ 今まで（福島にいた時）は一人一台車を持っていたので、目的地まで自分の時間で行くことが出来ましたが、電車が満員だったり乗換が難しかったり。今まですごく楽し過ぎていたんだなぁと実感しています。
- ・ 主人が福島で働いていてバラバラなので、子供たちがかわいそう。自主避難なので交通費、高速代が大変。
- ・ 夫と別居。物価が高い。
- ・ 家族がバラバラに住んでいる。育児・家事の分担が出来なくなった。その為、仕事も選べない（環境に合わせて探すのは難しい）。家具の購入も先が見えないので処分する事を視野に入れると買う気になれない。
- ・ 庭（植木）などの手入れが出来ない。65歳以上なので今までのような仕事が出来ない。
- ・ 仕事がなかなか見つからない。電話代がかかる為に友人・知人との連絡がなかなか取れない。
- ・ 知人、友人との連絡が付けられない。電話をかけられない（料金が高くなる為）
- ・ 特になく、工夫して生活している。

東京都台東区 2012年10月21日

### ■ 県外での生活で、不便に感じている事を教えてください。（複数回答可）

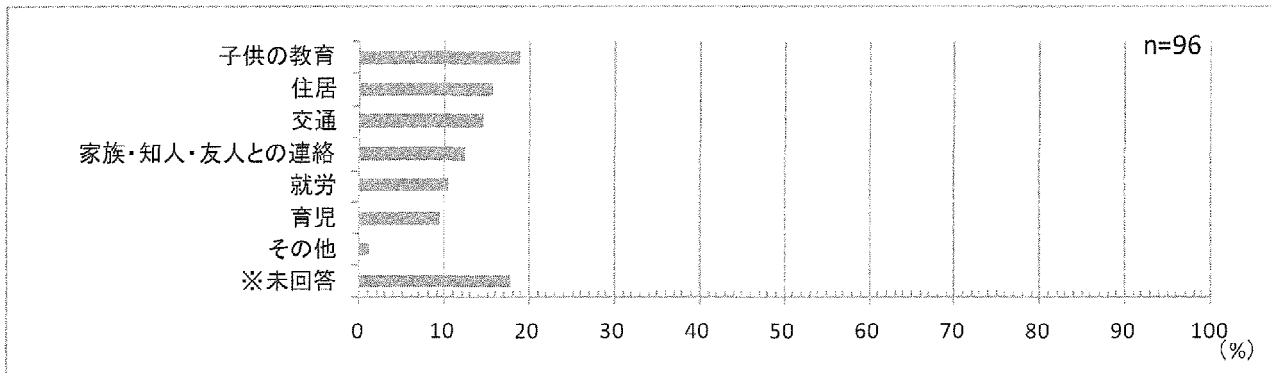


### ■ 不便に感じている理由を教えてください。（主な回答）

- ・プライバシーの問題で連絡が取れない
- ・友人がどこにいるかわからないから。
- ・同郷の人になかなか会えない不満
- ・最近やっと他の方との交流が出来るようになりましたが、まだ不安です。
- ・部屋数が少なく、生活用品が置けない
- ・住居が狭く、汚い。
- ・いつまで免除で今の住宅に住めるか、気になっています。
- ・どこに住んで良いのか、わからない。悩みます。
- ・現在、都営住宅2DKに4人で住んでいます。日を追うごとに、家財道具が増えて、住宅の広さが手狭になり、次のステップとして住宅改善を早急に考えたい。
- ・福島の家は七室、3人で生活していましたが今は二室。何をしても不便、個人のプライバシーが無くストレスを感じる日々です。
- ・娘宅のため家賃が出ず肩身が狭い。
- ・住居は良いが、庭の手入れとか今まで福島でやっていたことができないのが不便。
- ・土いじりが出来ない。
- ・職を探しているが見つからない。
- ・車が無く、どこへ行くのも電車・バスを使わなくてはならず、交通費がかかる。交通費補助があると良い。
- ・足が悪いため大変です。
- ・常に不安定な精神で医者通いが止まらない。
- ・アパート（木造）住まいに慣れない子供と、家具の揃わない部屋での暮らしが落ち着かない。就労したくても、保育所の空きもなく高額。生活に余裕がないので、習い事（ピアノなど）をさせてあげられない。2人での生活なので自分が具合悪い時、頼れる人がいない。本当につらかった。
- ・東電とのやり取り

新潟県新潟市 2013年1月20日

## ■ 県外での生活で、不便に感じている事を教えてください。（複数回答可）



## ■ 不便に感じている理由を教えてください。（主な回答）

- ・困った時に、誰も頼れない。
- ・二重生活で生活費がかさみ、苦しい生活です。
- ・家族がいないので自分が体調を崩した時困った。二重生活で生活費がかかるので習い事をさせてあげられない。
- ・母子避難。倍にお金がかかり、思うように生活が出来ない。
- ・子供が病気になった時など、自分の親や夫がいないので大変です。なかなか仕事が見つからず苦労しています。
- ・子供の物がどんどん増えるので2DKの住まいでは狭い。ずっと続けられる仕事が無い。
- ・狭い。避難前の学校教育が違うため一人での子育てが、とてもストレスに感じます。
- ・親戚・知人が新潟にいない中で1人での育児は非常に負担が重い。また幼稚園に子供が通っている中で仕事を見つけることは非常に困難である。
- ・父親との時間が少ない。
- ・住居：補助がいつまで受ける事が出来るか。 子供の教育：教育費 育児：接する時間が少ない。
- ・高速を無料にしてほしい。
- ・夫が会いに来るのに高速バスを利用していたが3月までになってしまい困っている。
- ・生活がまだ安定していないのと、家賃が発生した場合に今の仕事では、お金が安いので生活が出来ないと思う。
- ・高校受験等、新潟市の状況がわからずに戸惑った。雪道の対応や除雪の方法がわからず困った。
- ・雪の多さに困りました。
- ・道がわからない。
- ・新潟はとても住みやすい場所だと思います。

資料

# 人づくり講座 ボランティア アンケート

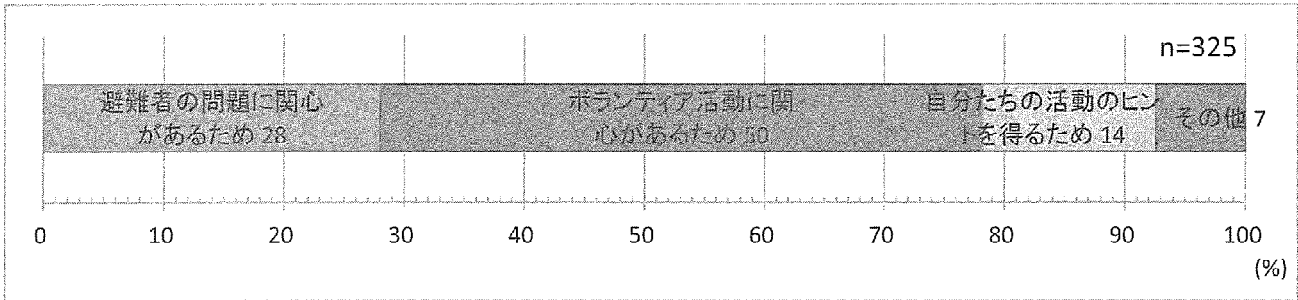
- ・ 総 計
- ・ 第1回 人づくり講座
- ・ 第2回 人づくり講座
- ・ 第3回 人づくり講座
- ・ 第4回 人づくり講座
- ・ 第5回 人づくり講座



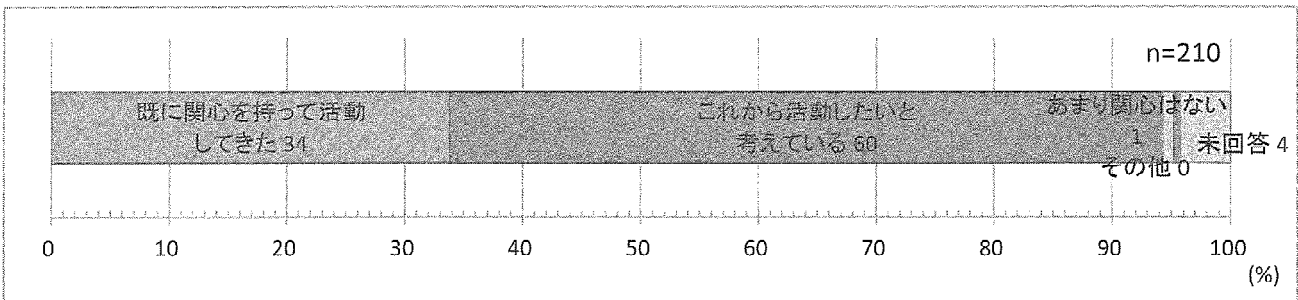
## 総 計

- ・ボランティア参加者数：363名
- ・アンケート回答者数：210名

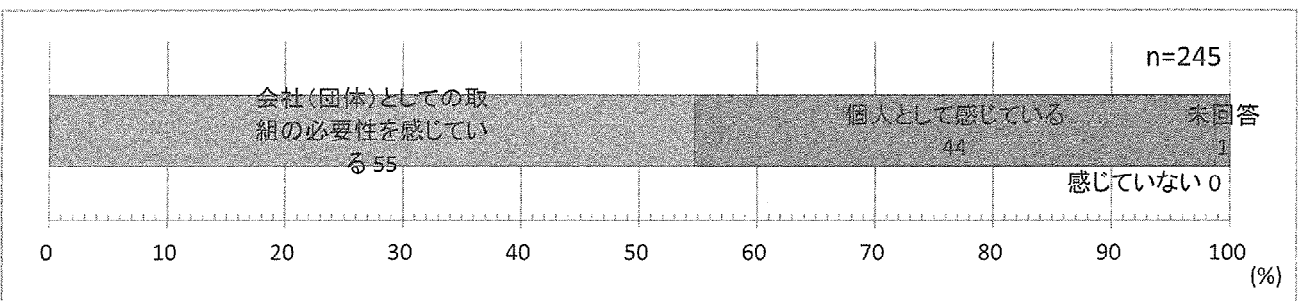
A. 今回の活動に参加された目的をお聞かせ下さい。（複数回答可）



B. 県外避難者の問題に、これまでどの程度関心をお持ちでしたか？

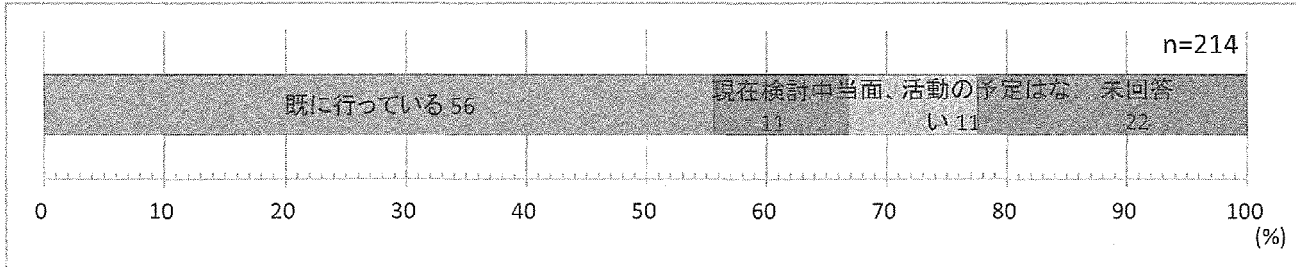


C. 県外避難者に対する支援の必要性を感じていますか？



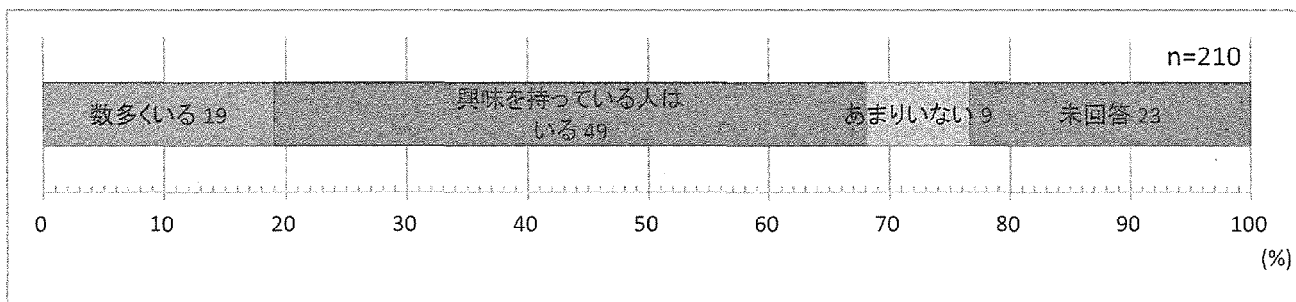
※複数回答者あり

D. 貴社（貴団体）では、今年度、県外避難者への支援活動を行っていますか？

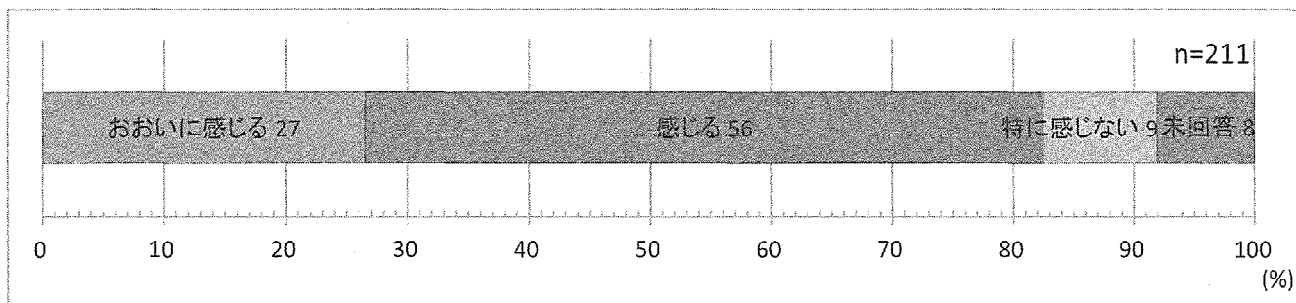


※複数回答者あり

E. 社内（団体内）に、プロボノ・ボランティアの意欲がある人はいますか？



F. ボランティア研修の必要性を感じますか？

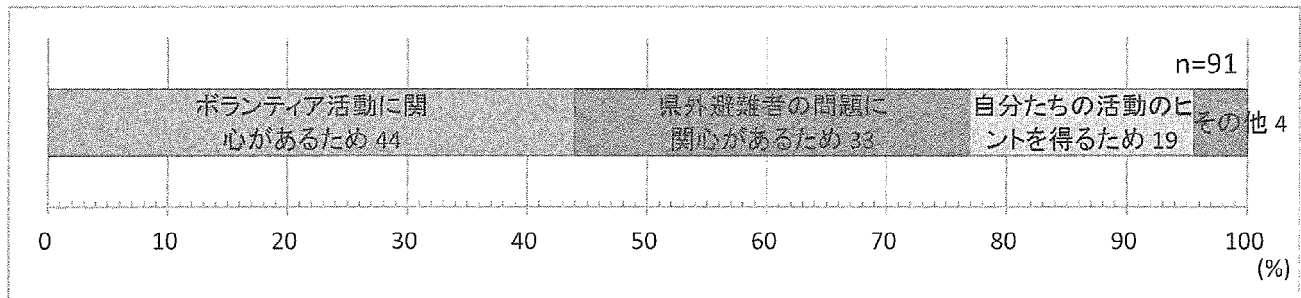


※複数回答者あり

## 第1回 人づくり講座

- ・ボランティア参加者数：74名
- ・アンケート回答者数：54名

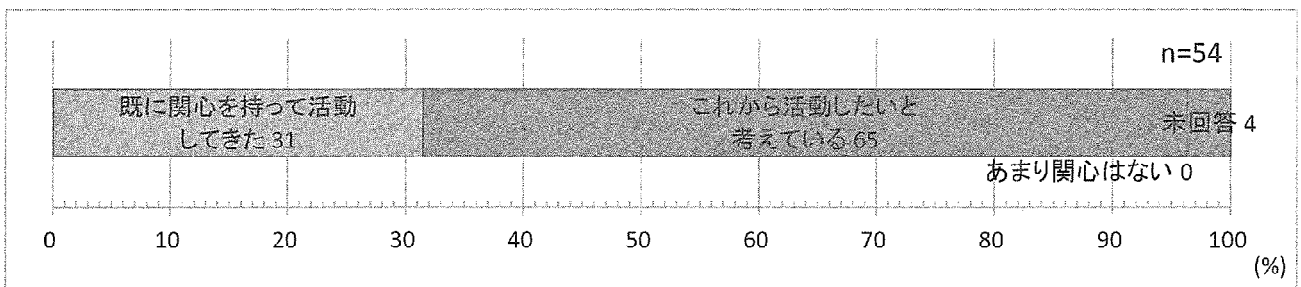
### A. 今回の活動に参加された目的をお聞かせ下さい。（複数回答可）



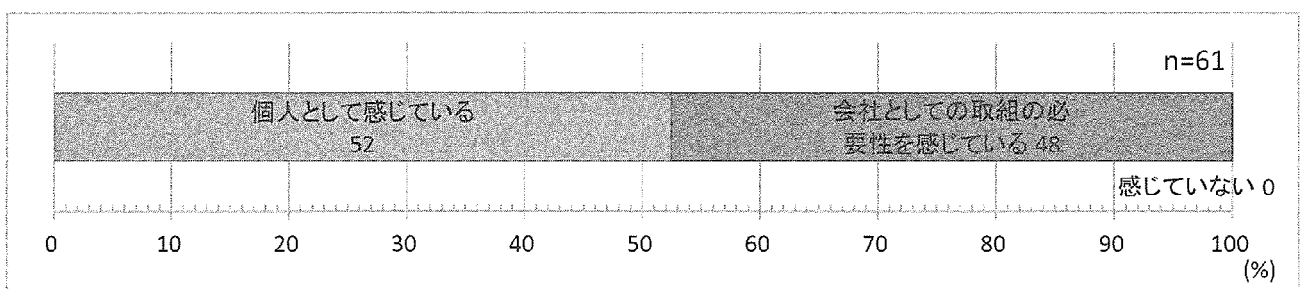
■その他

- ・事務局から頼まれた。

### B. 県外避難者の問題に、これまでどの程度関心をお持ちでしたか？

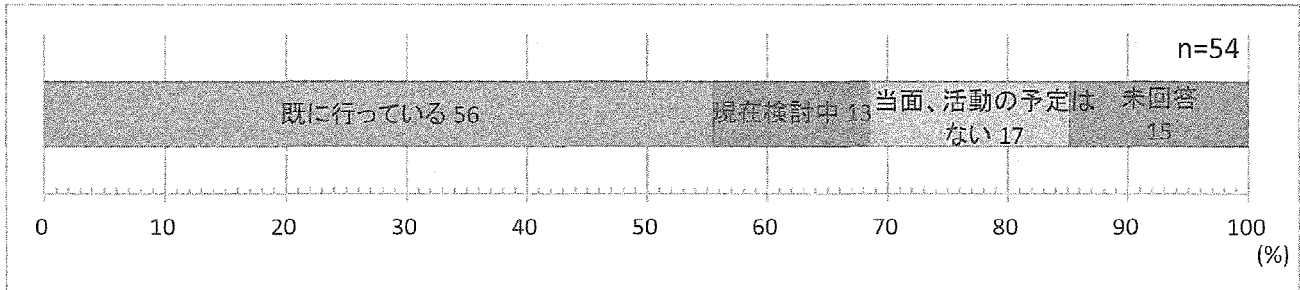


### C. 県外避難者に対する支援の必要性を感じていますか？



※複数回答者あり

#### D. 貴社（貴団体）では、今年度、県外避難者への支援活動を行っていますか？



##### ■既に行っている

- ・都内で開催のこっちゃ来たらいいイベント
- ・有志ボランティア、プチぼらんちにて中野区社協さんとのコラボ
- ・昨年度ですが、騎西高校で商品の配布を行った。
- ・現地での支援
- ・ガレキ、ゴミ分別
- ・東北への現地ボランティアなど

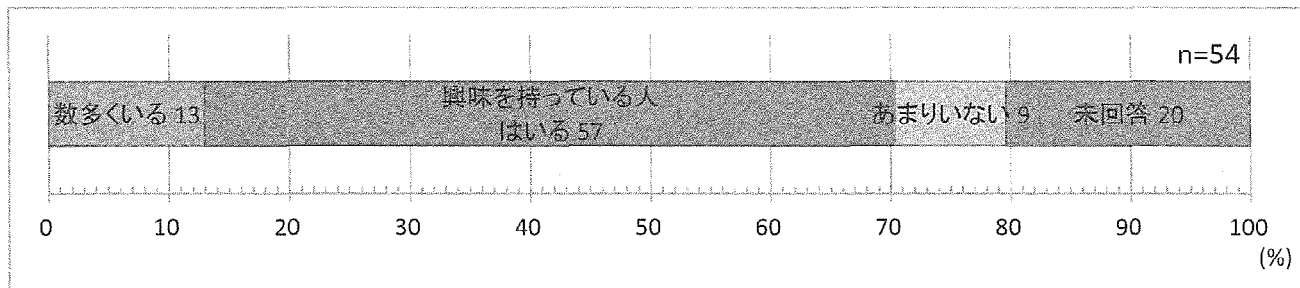
##### ■現在検討中

- ・フラワーアレンジメント教室（花業界関係の為）
- ・会社のボラバス経験者に企画を持ちかけてみたい。

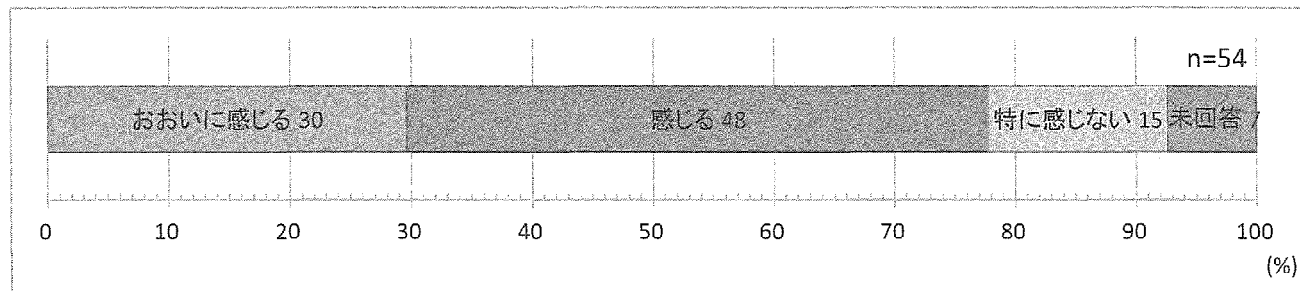
##### ■当面、活動の予定はない

- ・会社としては残念ながらも、当社のCSR部に頑張って欲しい。
- ・会社としては無いが、個人個人でボランティア等をされている。
- ・有志で提案するしかないと思う。
- ・会社としての活動はない（方針として）。
- ・既に複数の団体に対する支援を実施しているので、これ以上支援先を増やすかどうか要検討。

#### E. 社内（団体内）に、プロボノ・ボランティアの意欲がある人はいますか？



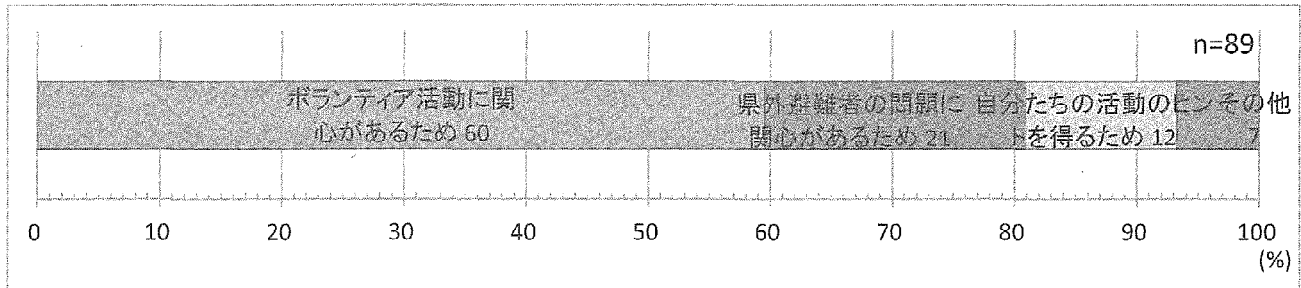
#### F. ボランティア研修の必要性を感じますか？



## 第2回 人づくり講座

- ・ボランティア参加者数：76名
- ・アンケート回答者数：54名

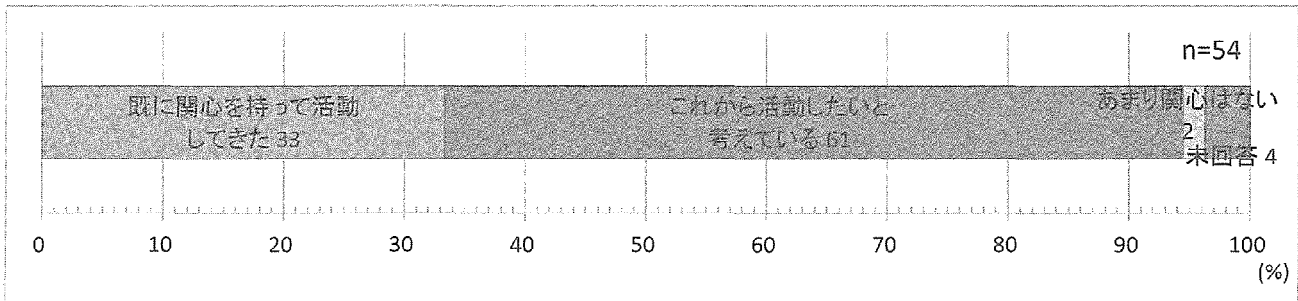
### A. 今回の活動に参加された目的をお聞かせ下さい。（複数回答可）



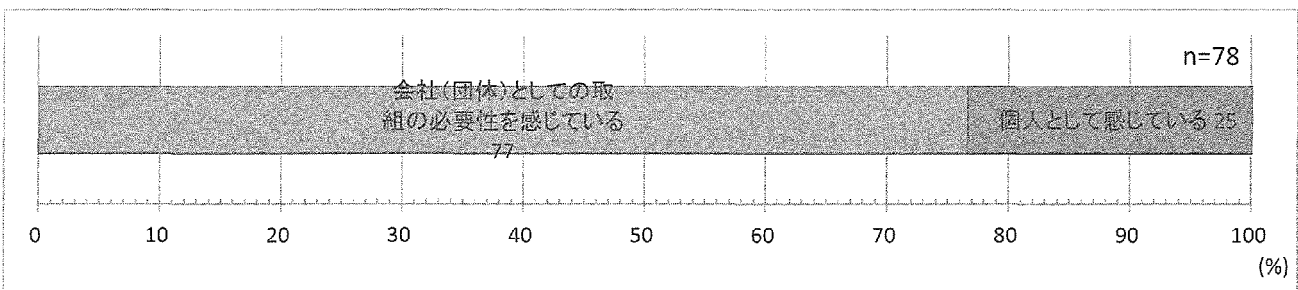
#### ■その他

- ・カンパだけではなく、自身でなんとかしたかったため
- ・被災者の方々の支援をしたいと思っていた為
- ・ラッシュとして出来る活動を見出したかったため
- ・自分のカウンセリングスキルを生かしたいと思った為
- ・自社内にて、従業員へのボランティア活動参加の支援を実施

### B. 県外避難者の問題に、これまでどの程度関心をお持ちでしたか？

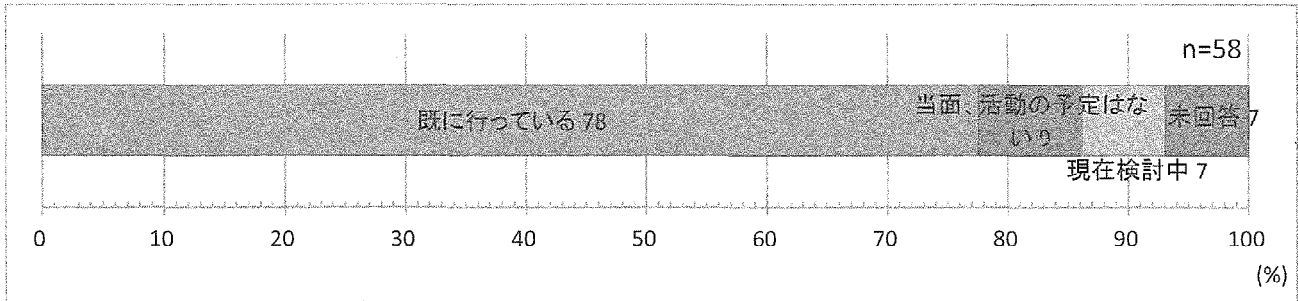


### C. 県外避難者に対する支援の必要性を感じていますか？



※複数回答者あり

#### D. 貴社（貴団体）では、今年度、県外避難者への支援活動を行っていますか？

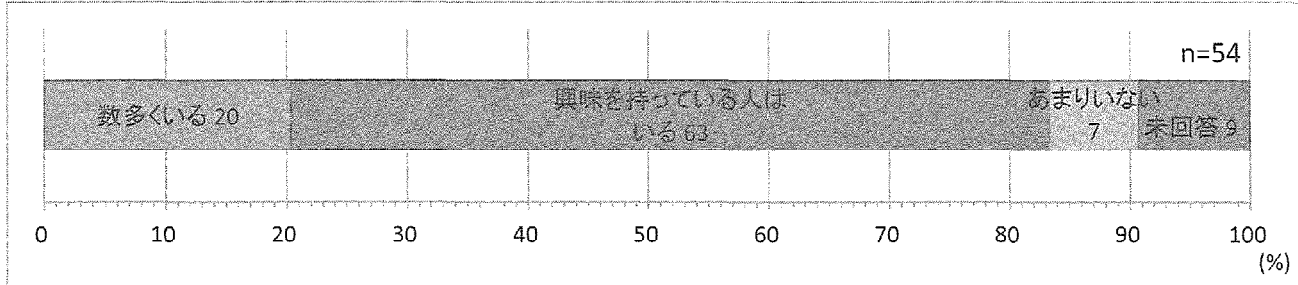


※複数回答者あり

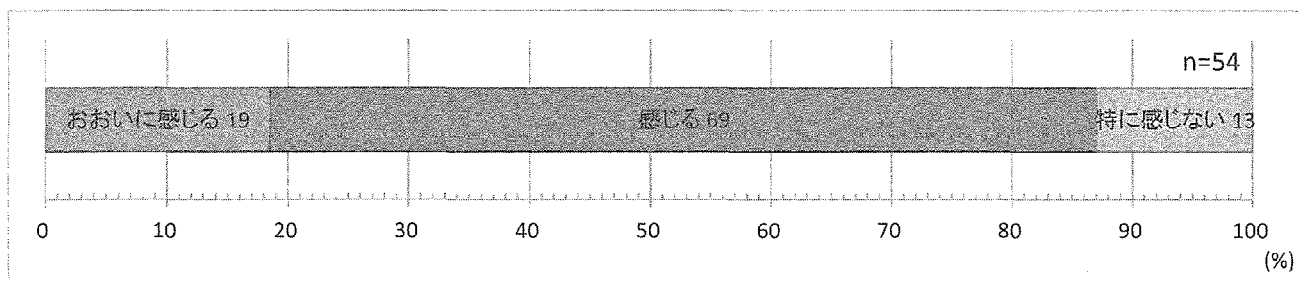
##### ■既に行っている

- ・こっちゃん来たらいいベえ、被災地でのがれきの処理
- ・復興支援（現地へ行って作業する）
- ・人的支援
- ・スタッフボランティアの募集
- ・キャンペーン担当がコーディネートしております。
- ・貝印 ネイルケア
- ・支援団体への助成や寄付、ボランティアの派遣

#### E. 社内（団体内）に、プロボノ・ボランティアの意欲がある人はいますか？



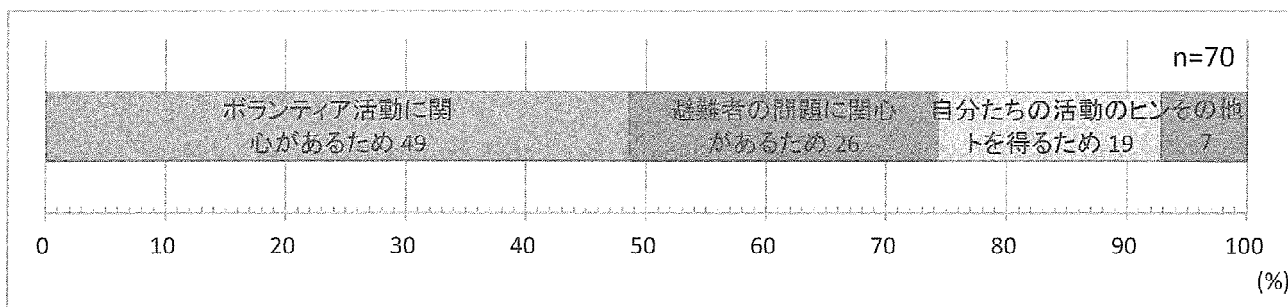
#### F. ボランティア研修の必要性を感じますか？



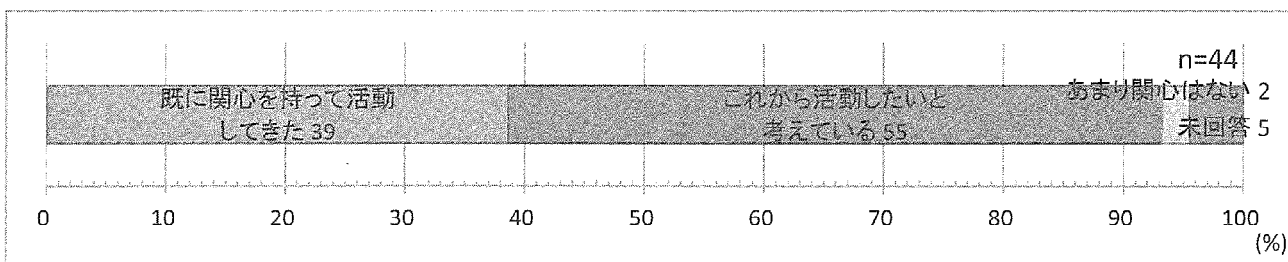
### 第3回 人づくり講座

- ・ボランティア参加者数：68名
- ・アンケート回答者数：44名

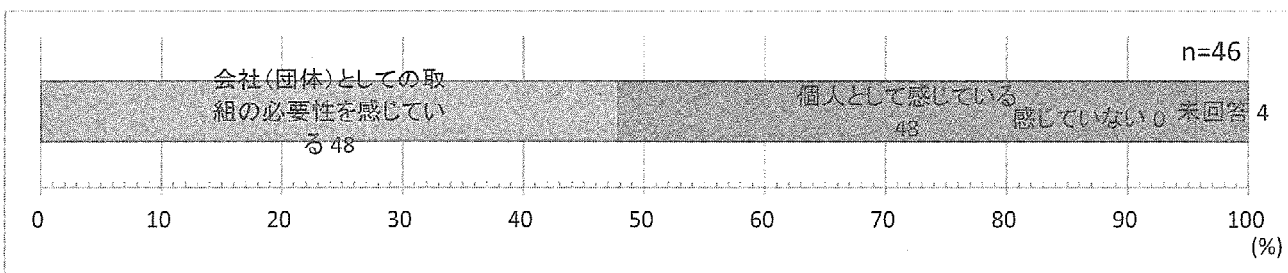
A. 今回の活動に参加された目的をお聞かせ下さい。（複数回答可）



B. 県外避難者の問題に、これまでどの程度関心をお持ちでしたか？

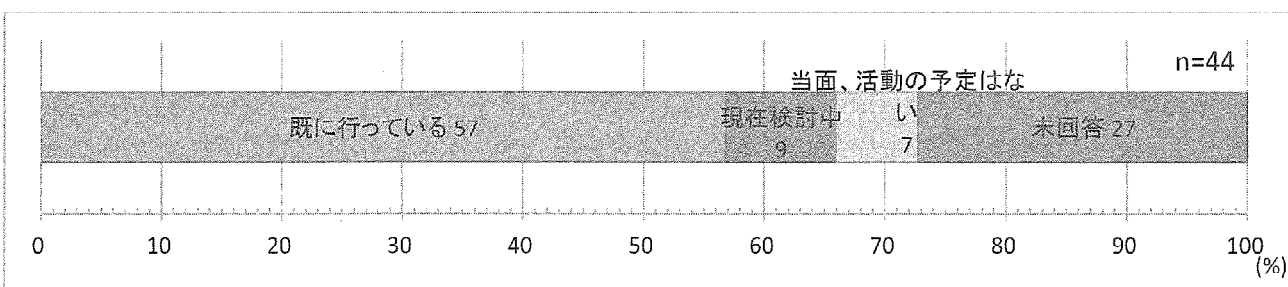


C. 県外避難者に対する支援の必要性を感じていますか？



※複数回答者あり

D. 貴社（貴団体）では、今年度、県外避難者への支援活動を行っていますか？



#### D. 貴社（貴団体）では、今年度、県外避難者への支援活動を行っていますか？

##### ■既に行っている

- ・ 1月20日新潟（弊団体の第5回コミュニティイベント）への参加を予定している。
- ・ 寄付・人的支援
- ・ 健康相談
- ・ 被災地のがれき処理、仮設住宅訪問など
- ・ 仮設住宅への除雪機の寄付など
- ・ 仮設住宅等の子供支援、県外避難者支援（学習・あそび・心のケア・相談）、その他専門職研修・派遣
- ・ 仮設の住宅への臨床美術セッション。仮設にはいない方への臨床美術のセッション。
- ・ 仮設住宅の集会所にて参加者を募って臨床美術の実施している。
- ・ アート支援、子育て支援ボランティア
- ・ 子供オーケストラ（心のケアが目的）
- ・ 個人グループで宮城県陸前高田に、会社でも行った。
- ・ グループ会社で行っている。

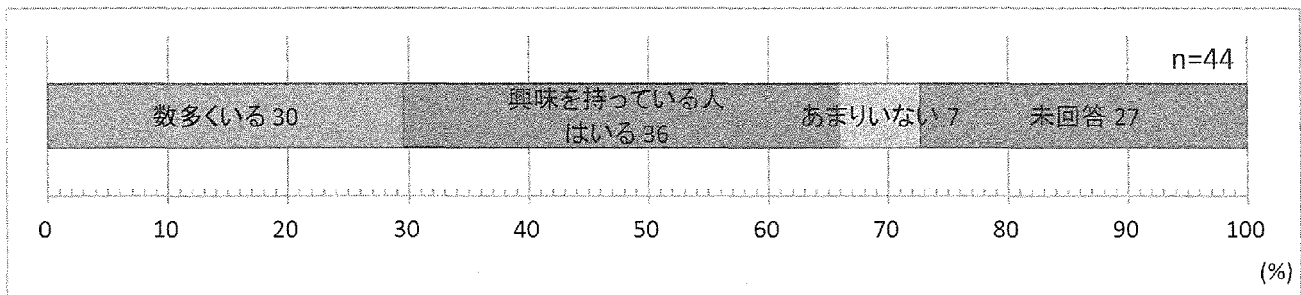
##### ■現在検討中

- ・ みなし仮設住宅にお住まいの方に対する支援を考えている。
- ・ 支援できる方法を検討中です。

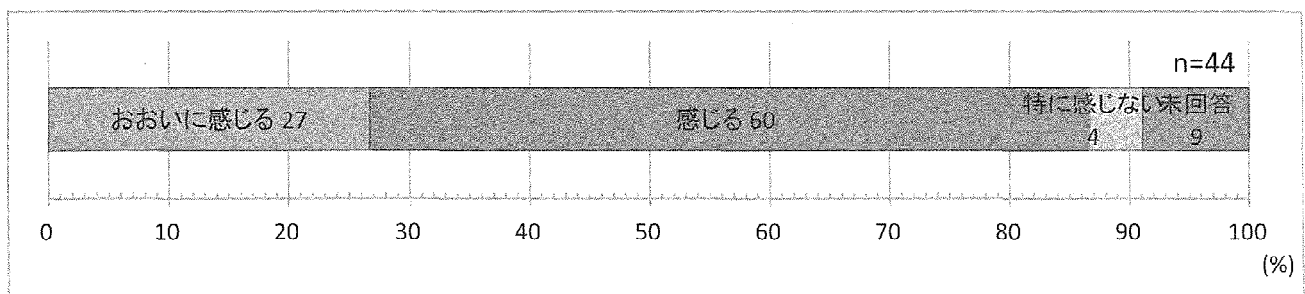
##### ■当面、活動の予定はない

- ・ 具体的に何をしたいかわからない。

#### E. 社内（団体内）に、プロボノ・ボランティアの意欲がある人はいますか？



#### F. ボランティア研修の必要性を感じますか？

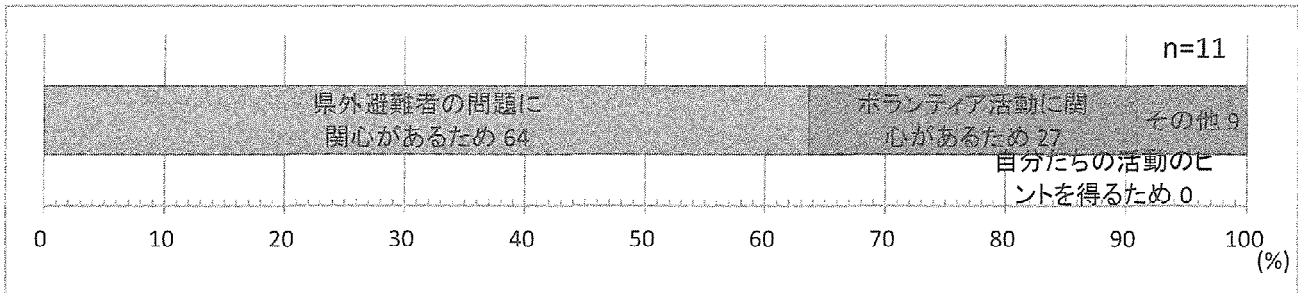




## 第4回 人づくり講座

- ・ボランティア参加者数：55名
- ・アンケート回答者数：7名

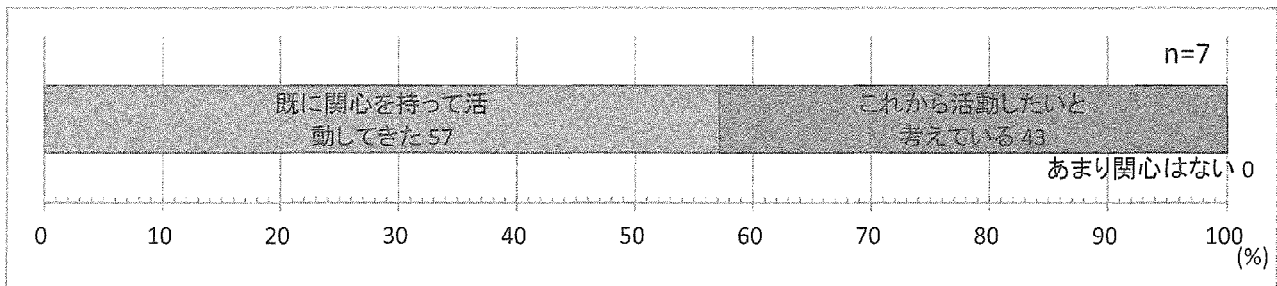
A. 今回の活動に参加された目的をお聞かせ下さい。（複数回答可）



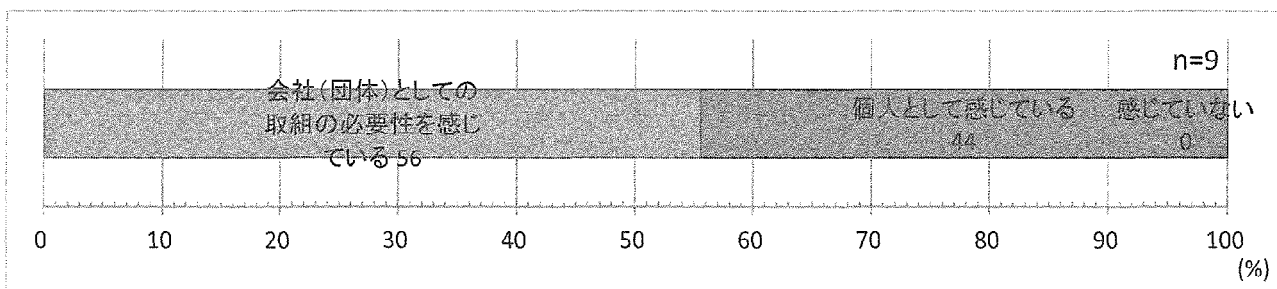
■その他

- ・何かのお役に立てればと思いました。

B. 県外避難者の問題に、これまでどの程度関心をお持ちでしたか？

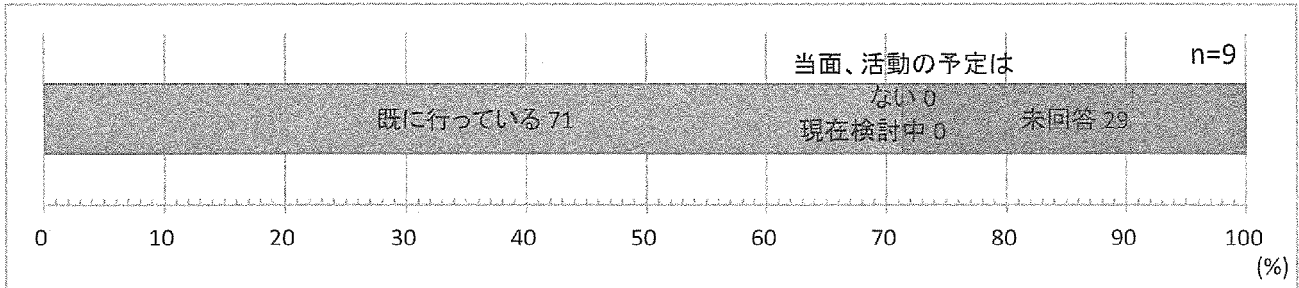


C. 県外避難者に対する支援の必要性を感じていますか？



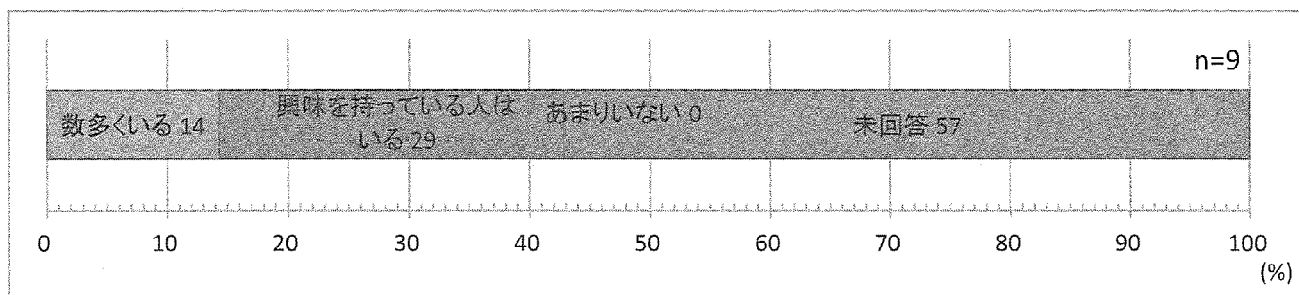
※複数回答者あり

## D. 貴社（貴団体）では、今年度、県外避難者への支援活動を行っていますか？



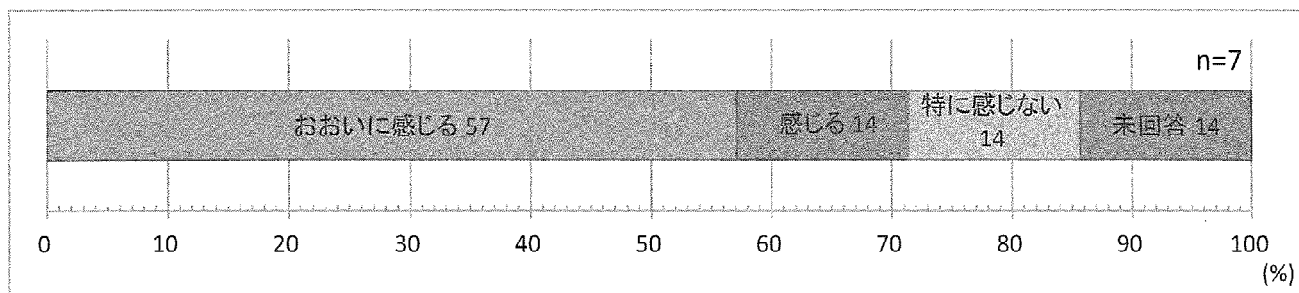
※複数回答者あり

## E. 社内（団体内）に、プロボノ・ボランティアの意欲がある人はいますか？



※複数回答者あり

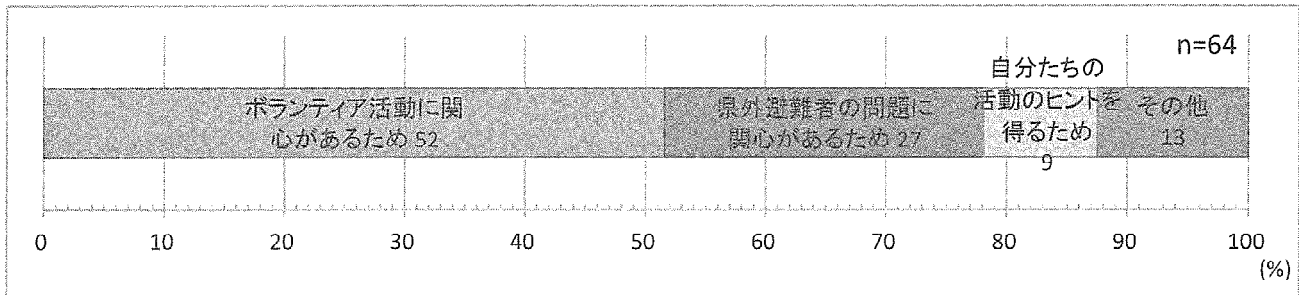
## F. ボランティア研修の必要性を感じますか？



## 第5回 人づくり講座

- ・ボランティア参加者数：90名
- ・アンケート回答者数：51名

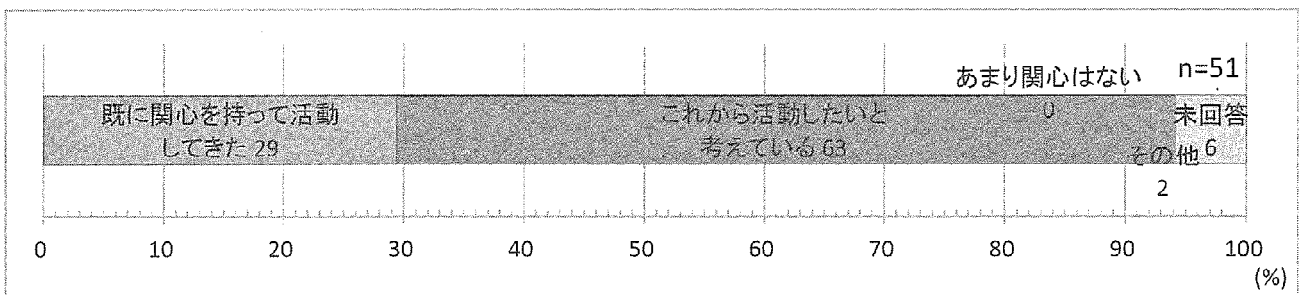
A. 今回の活動に参加された目的をお聞かせ下さい。（複数回答可）



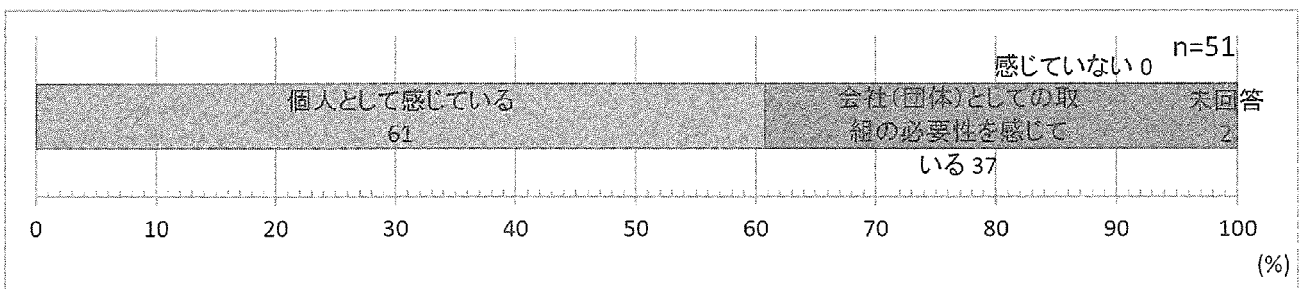
■ その他

- ・福島県出身だから

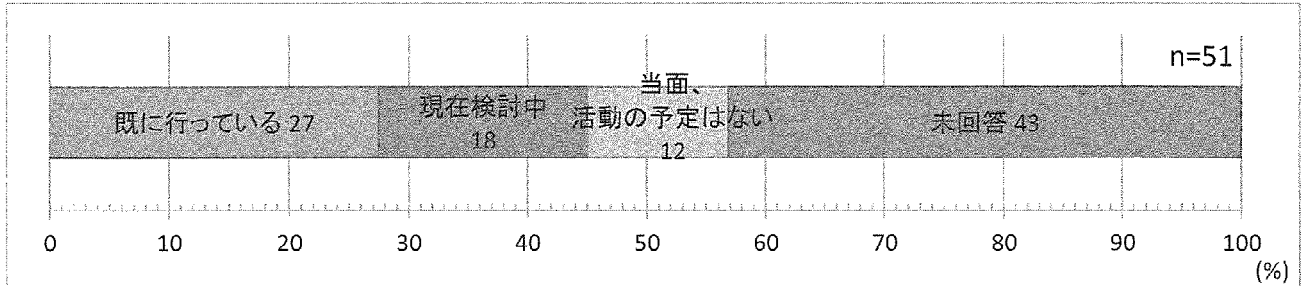
B. 避難者の問題に、これまでどの程度関心をお持ちでしたか？



C. 避難者に対する支援の必要性を感じていますか？



## D. 貴社（貴団体）では、今年度、避難者への支援活動を行っていますか？



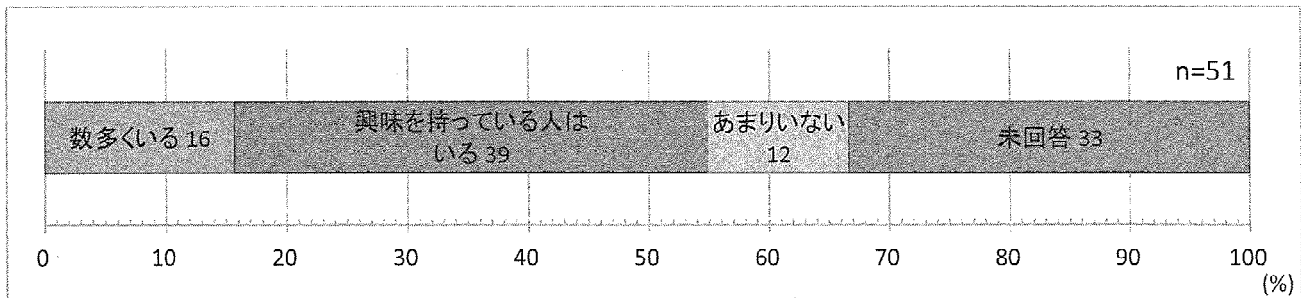
## ■既に行っている

- ・子育て支援の一環でお宅訪問等
- ・岩手県の漁業が復興するようにと願ったサポート等
- ・南相馬市児童の支援プロジェクト（学校にて）
- ・避難所訪問
- ・大学でのボランティア募集
- ・無料訪問、居場所毎日開放、ふくしまサロン月1回開催。他団体の交流会で子守
- ・組合を通して現地に向いたり、流されたサロンへ、シザー、コーム、器具を寄付した。

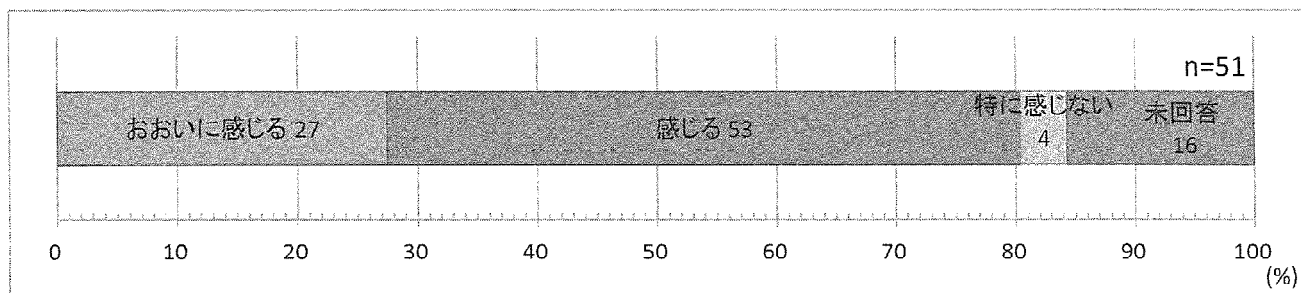
## ■当面、活動の予定はない

- ・今回の参加で、今後の活動を考えようと思っていたため。
- ・活動があるという話を聞かないので

## E. 社内（団体内）に、プロボノ・ボランティアの意欲がある人はいますか？



## F. ボランティア研修の必要性を感じますか？



資料

## コミュニティイベント 各回参加者アンケート

- ・ 第1回 コミュニティイベント（東京都江東区）  
2012年6月24日
- ・ 第2回 コミュニティイベント（東京都台東区）  
2012年10月21日
- ・ 第3回 コミュニティイベント（福島県郡山市）  
2012年11月4日
- ・ 第4回 コミュニティイベント（福島県須賀川市）  
2012年12月23日
- ・ 第5回 コミュニティイベント（新潟県新潟市）  
2013年1月20日

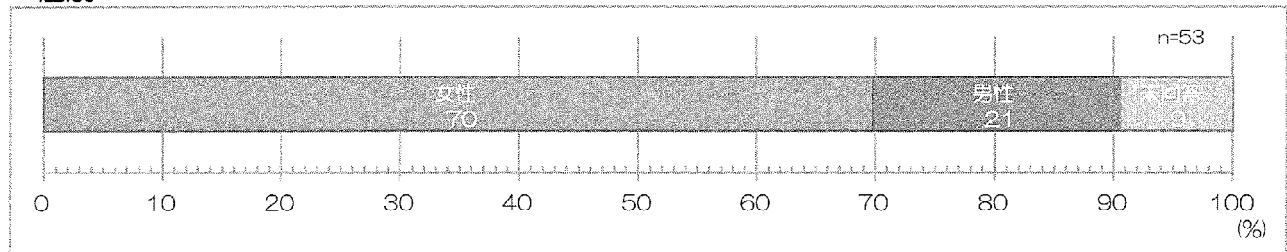
## 【第1回 コミュニティイベント（東京都江東区）】 2012年6月24日

## 《回答者の構成》

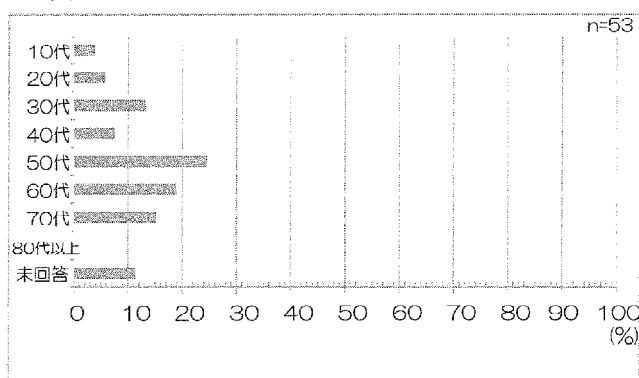
## ■ アンケート回答数

- ・ イベント参加者数：92名
- ・ アンケート回答者数：53名

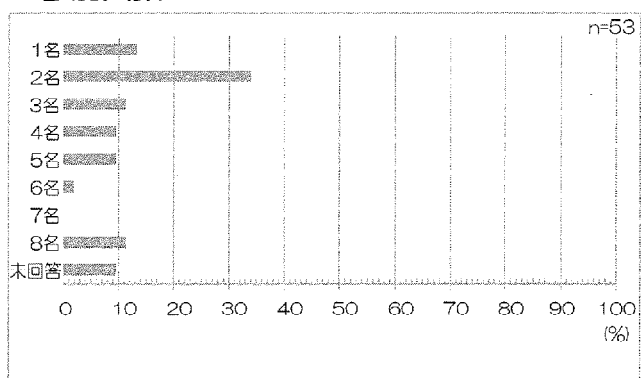
## ■ 性別



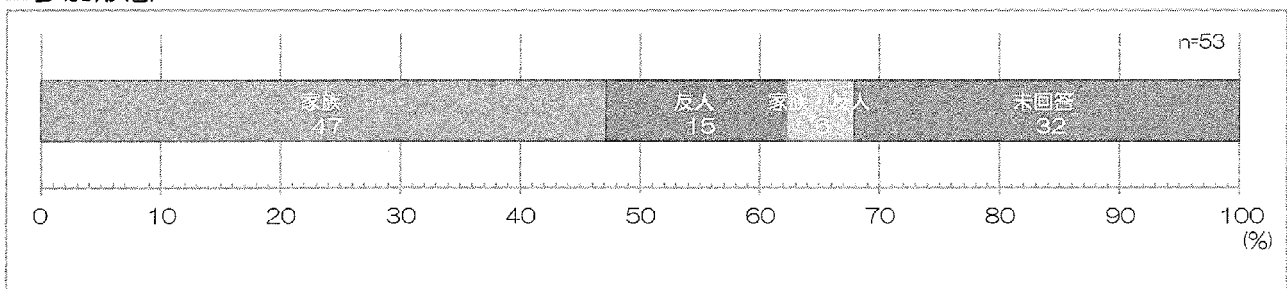
## ■ 年代



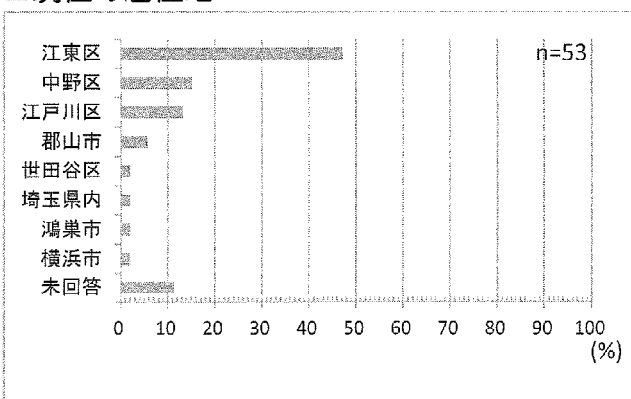
## ■ 参加人数



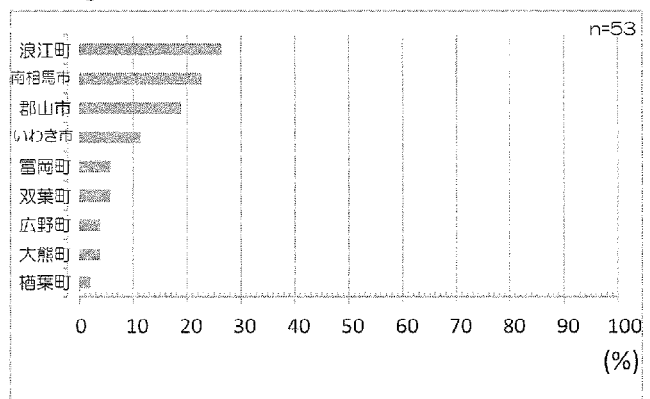
## ■ 参加形態



## ■ 現在の居住地

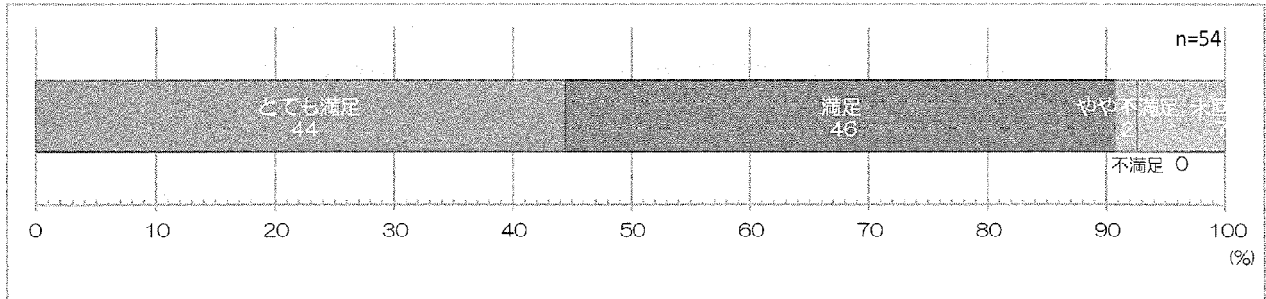


## ■ 出身地



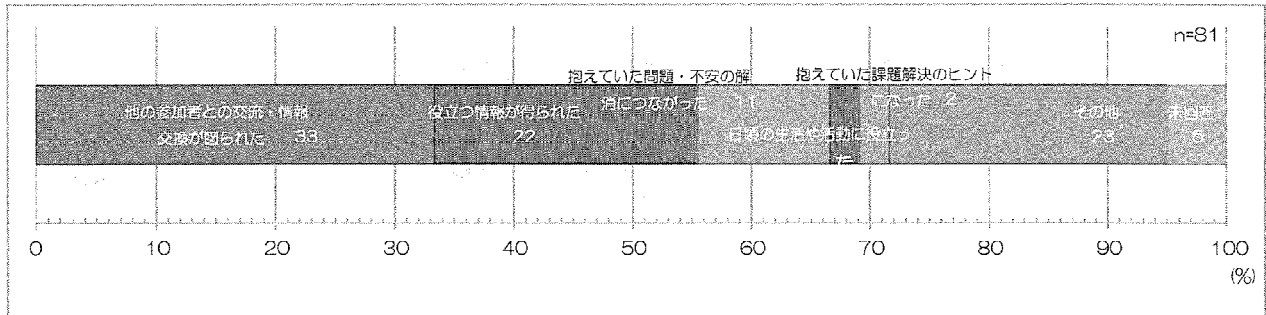
## 《イベントについて》

### A. イベント全体について



※複数回答者あり

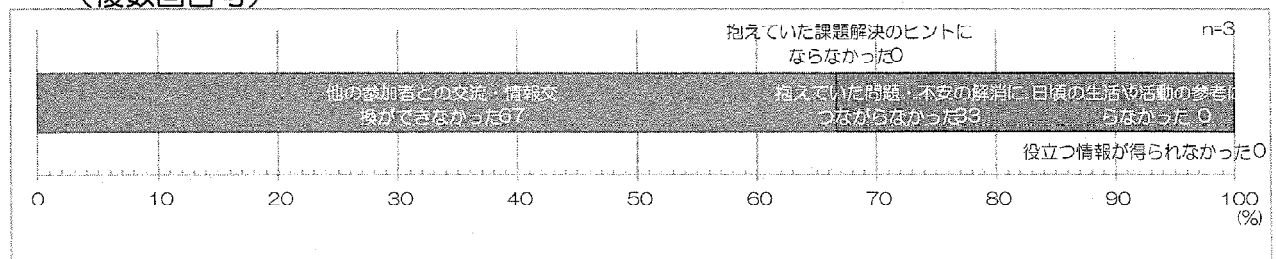
### B. (A.で「とても満足」「満足」を選んだ方) どのような点が良かったですか。(複数回答可)



#### ■理由／一部抜粋

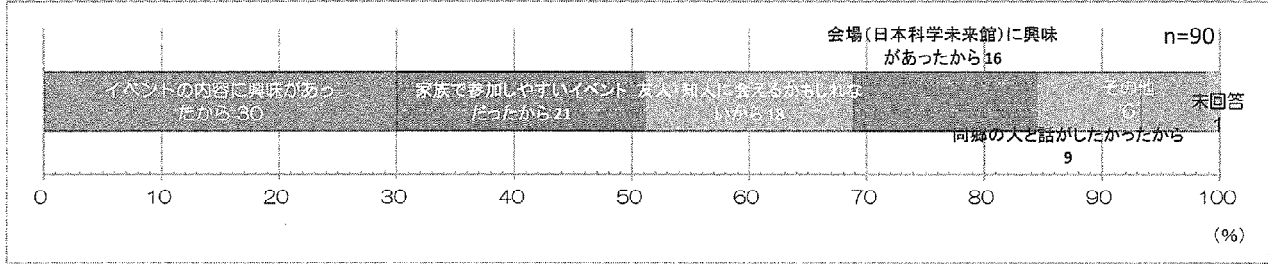
- ・イベントコーナーがとても楽しく良い気分転換になりました。
- ・ハンドケアが気持ちよく気分がリフレッシュできた。
- ・サポートして下さったスタッフの皆さん、どうもありがとうございます。
- ・各部屋でシミジミと食べていましたけど、幸福でいっぱいです。感謝致します。
- ・皆様との交流ができた。
- ・昨年3月11日から初めて会い、生活の様子など久しぶりに話が出来た。辛かったことなど・・・
- ・何十年ぶりに高校の同級生に会えたこと。同郷の浪江町の人々とお話が出来たこと。
- ・みなさんとても親切で詳しく教えていただきました。
- ・カラーコーディネートは初めて体験しましたが、自分に合う色がわかり良かった。
- ・素敵な場所でアロマの香りに癒されて、夏風邪がどこかへ飛んでっちゃいました。

### C. (A.で「やや不満」「不満」を選んだ方) どのような点が良くなかったですか。(複数回答可)



※設問Aで3,4の回答をしていないが、Cで回答している方があり

## D. 今回のイベントへの参加理由を教えてください。

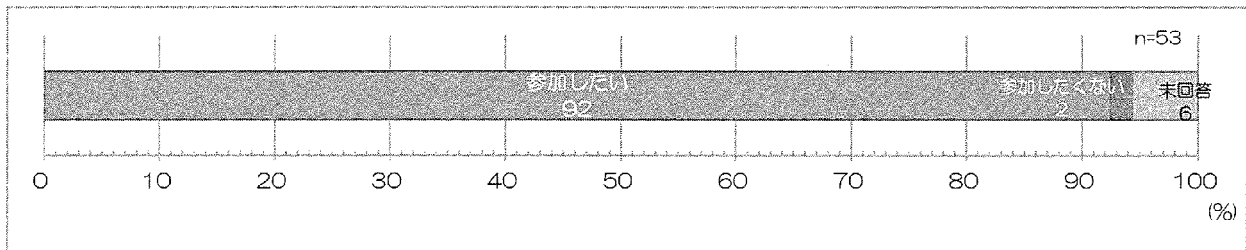


※複数回答者あり

■その他

- ・1年3カ月ぶりにお会いできて涙でお話しました。嬉しかったです。(70代女性)

## E. 次回も同様のイベントを開催した場合、参加したいですか？



■理由

- ・次はどんな方と逢えるか？(60代女性)
- ・60代でもあり、同郷の人との交流が期待できる(60代男性)
- ・いろいろの方々に逢う事ができました。(60代女性)
- ・子供に何か伝わるものがあるかもしれないから(30代男性)
- ・紙すきなど興味深いイベントがあったので(50代女性)
- ・いろいろな情報が得られる。同郷の人と話ができる(60代男性)
- ・良い気分転換になり知らない場所も呼んで頂けると出かけやすい(40代女性)
- ・沢山元気をいただけるので！(20代女性)
- ・情報交換や体験などしてみたいです。(50代女性)
- ・いろいろな体験が出来て楽しかったです(50代女性)
- ・もっといろいろな人やスタッフの皆様と交流がしたいと思いました。(50代女性)
- ・大変たのしかった。(70代男性)
- ・日頃のストレスの解消と情報交換(50代女性)
- ・イベントで体験できることもあり、勉強になる。(女性)
- ・他の参加者と情報交換したい。(70代女性)
- ・楽しかったので！！(50代女性)
- ・ぜひ参加。他の参加者様と交流がしたい。(50代女性)
- ・土日一人部屋にいるのは少しさびしいし、こんな風にみんなでワイワイする時間は気分転換になります。気が楽になります！(30代女性)
- ・なかなか自分では来れないところで、また楽しく、健康や生活に役立つから。(50代女性)
- ・いろんな人から、元気をいただきたいので参加したいです。(50代女性)
- ・一期一会でも友情を深めたいと思います。(70代女性)



■ 最後に、現在の課題や困っていること、心境などについて可能な範囲でご記入ください。

(自由記入／一部抜粋)

- ・3.11から1年3カ月も経つのに、肝心な情報が入りにくく、行動を起こすのに困ることがあります。故郷に近い所に暮らす人達とのギャップは深まるばかりです。
- ・今後の見通しがなかなかわからないので生活設計を立てられない。
- ・都民と避難者の溝がある。中野区と港区、江東区では支援情報が違うので、東京に避難している人達で平等にして欲しいです。交通バスや施設利用。
- ・埼玉に来て身体を動かせる日時が少ない。何もすることが無く腹ばかりでてしまった。私たちは田や畑、自然の中で生きて行くのが一番、と考えることが多い。人との対話が少ないので個人プレーが多い。
- ・避難して一人になって医者に行くことが多くなった。戸人が無く言葉を交わすことが無い。イベントがあっても土地勘が無く出て行く事が出来ない。
- ・飛び跳ねる魚や、メロンが食べたい。肩が悪くても良いです。
- ・中野区の被災者支援が少ないと思う。(港区、江東区に比べて)
- ・医療費申請を通院の度にしないといけないのが不便です。
- ・浪江町にいつ帰る事が出来るか？
- ・仕事で地元にいる家族の食事や健康が心配。
- ・顎関節症がなかなか治らない為、病院にかかりっぱなしです。心療内科も同様に長いです。
- ・30Km圏外の地域(福島市、郡山市、いわき市)の賠償金は1回ぼっきりの8万円。しかも会津、白河は対象外。あまりにもひどくて怒りがこみ上げる。福島を分断する事は許されない。それから政府は私たち福島県民に真実を伝えるべき。誰を信じていいのか分からない。
- ・夫の就職が決まらないことで、生活費が入らない事。

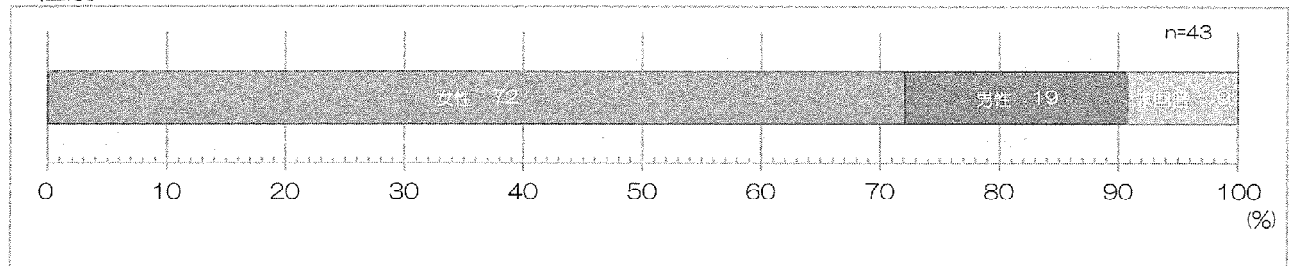
【第2回 コミュニティイベント（東京都台東区）】 2012年10月21日

《回答者の構成》

■ アンケート回答数

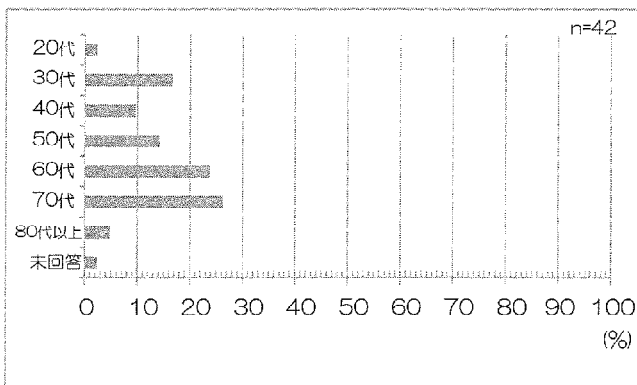
・ イベント参加者数：94名  
 ・ アンケート回答者数：42名

■ 性別

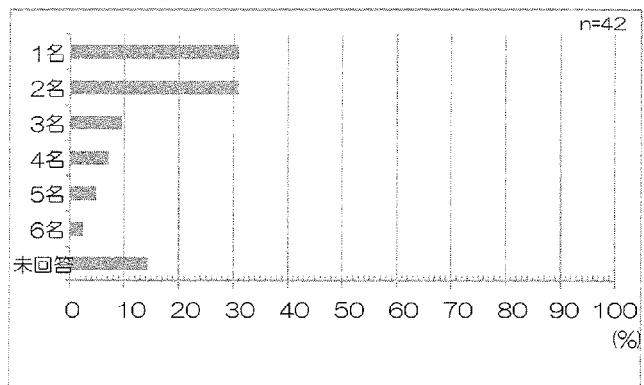


※複数回答者あり

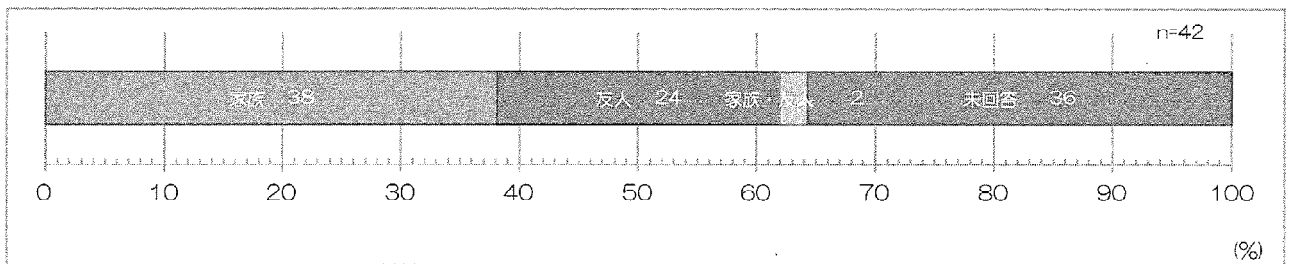
■ 年代



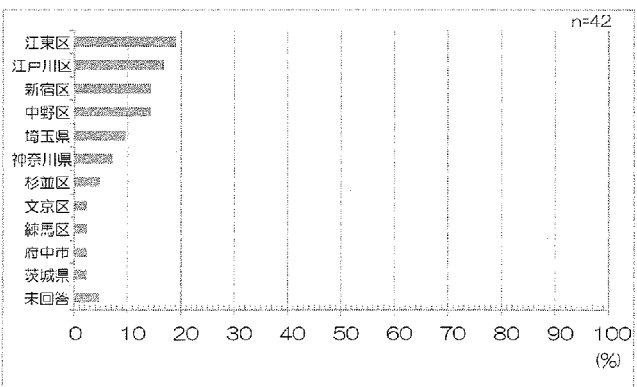
■ 参加人数



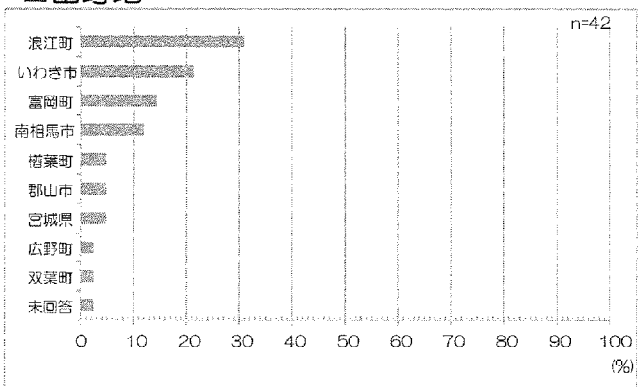
■ 参加形態



■ 現在の居住地

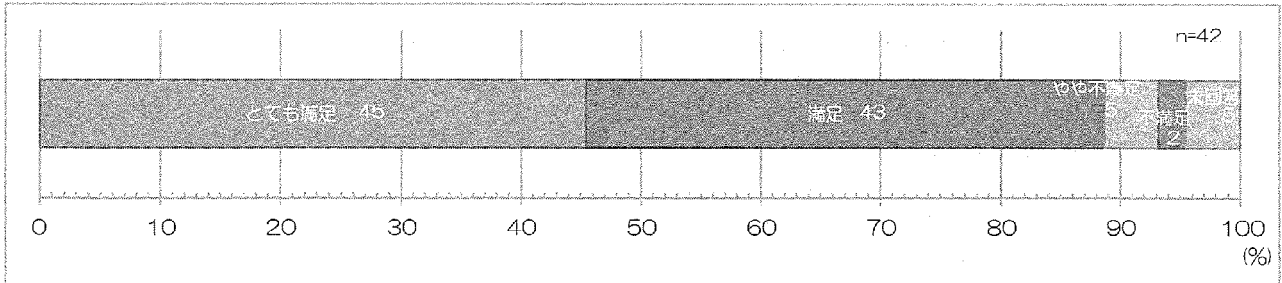


■ 出身地

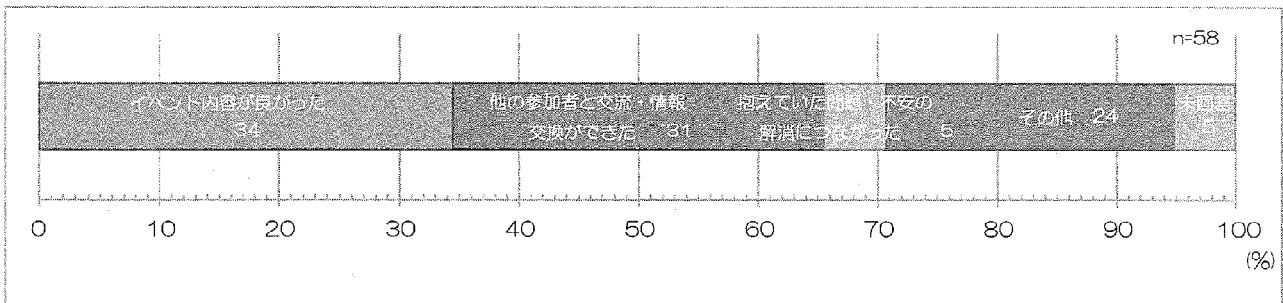


## 《イベントについて》

### A. イベント全体について



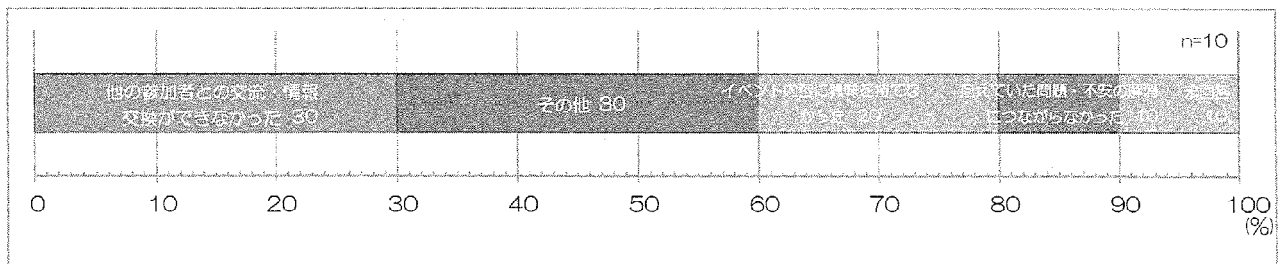
### B. (A.で「とても満足」「満足」を選んだ方) どのような点が良かったですか。(複数回答可)



#### ■その他／一部抜粋

- ・他の参加者と情報交換ができてうれしかった。
- ・マッサージのお姉さんとお話できて良かった、ネイルのお兄さんも一生懸命お話を聞いて下さり有難うございました。
- ・沢山の方の想いを改めて知ることが出来て良かったです。
- ・スタッフの心配りが素晴らしかった。
- ・沢山のボランティアの方が一生懸命に被災者と関わろうとする点に感動しました。
- ・気晴らしが出来た。
- ・70名以上のボランティアの方々が休日を返上して、我々の為にこのようなイベントを有難うございます。今後も宜しくお願いします。
- ・ハンドケア・ネイルケアをしていただきながら会話できた事。若い方で心がホンワカになり有難うございました。
- ・子供と遊んでくれるコーナー、ネイルケアや、ハンドケアなど
- ・ハンドケア・口腔ケア相談 普段なかなかできないので助かりました。
- ・口腔の相談にのって頂き、丁寧な説明を頂き感謝しています。頑張りましょう。
- ・息子を見ているけれども少し離れる時間ができて体が楽になった。

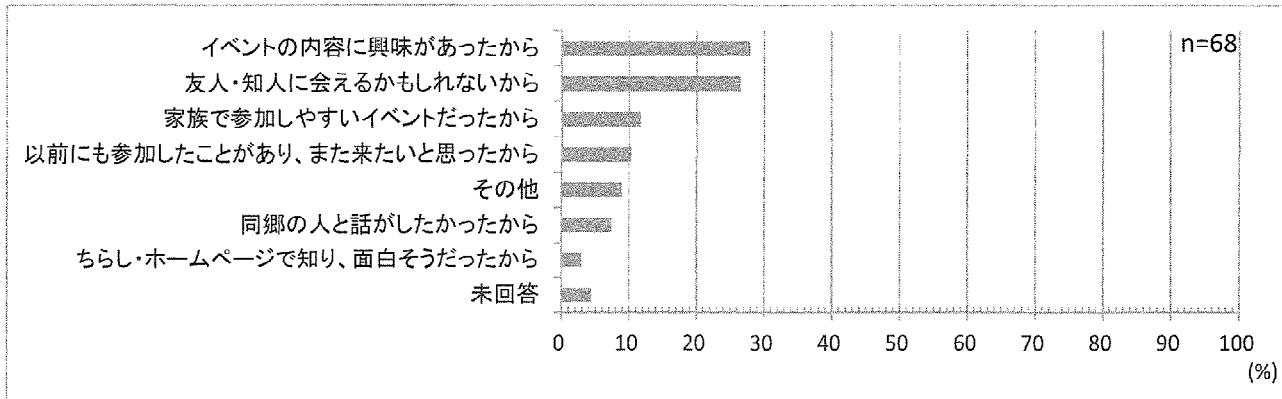
### C. (A.で「やや不満足」「不満足」を選んだ方) どのような点が良くなかったですか。(複数回答可)



#### ■その他

- ・お楽しみ会だけで発展性を感じられない。心のゆとりとして会の継続には限界があるのではないか？
- ・会場が狭い、キッズスペースがあると嬉しいです。

#### D. 今回のイベントへの参加理由を教えてください。

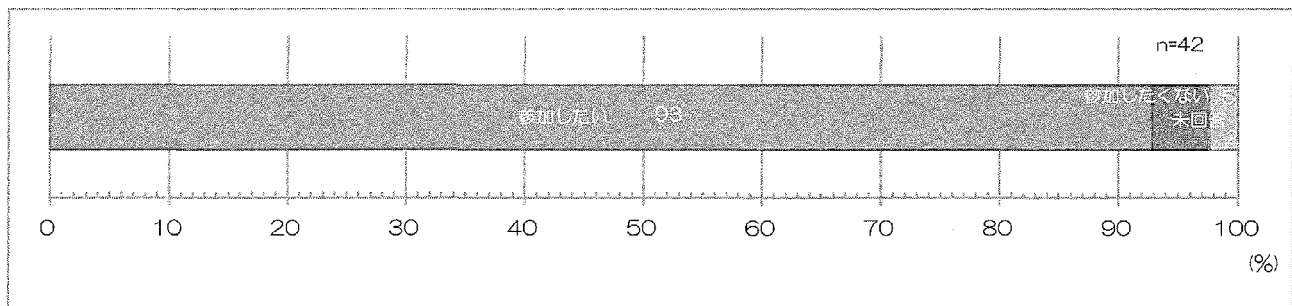


※複数回答者あり

##### ■その他

- ・社協からのちらしによって
- ・知人に誘われたので
- ・一人でも参加できるし、気楽な気持ちで来れる。スタッフの方、一人一人が親切で温かく癒されます。
- ・皆と一緒に楽しめたかったから、白鷺集会所で知りました。

#### E. 次回も同様のイベントを開催した場合、参加したいですか？



##### ■理由／一部抜粋

- ・楽しかったです。今後もこのような企画を期待しています。
- ・話ができて楽しかった。
- ・気分転換ができてとってもいいと思う。
- ・ハンドケア・ネイルケアなど、リラックスできる事が良かったから。
- ・同郷の人とお会いでき、とても心がホッとするので。また、スタッフの方が優しく接してくれるので嬉しい。
- ・ボランティアの人が良くしてくれたので。
- ・都内へ避難してから家族同様にお付き合いさせて頂ける人たちが多くできて、同じ時間をもっと共有したいと思います。
- ・都営住宅に入っております。周りの人と交流が無いので、同郷の人の顔を見ると安心
- ・日頃は近所の方々と交流が少なく避難者の共通の意識がないので、このような交流会は2~3か月に一度は必要です。
- ・色々な人と情報交換したい。
- ・楽しかったし、色々参考になる。お話し聞かせて貰いました、有難うございました。
- ・住宅に一人でいてもつまらないから
- ・子供も喜んでいて楽しかったので。
- ・息子の精神安定にとっても良かったです。
- ・避難所で名前が分からなかった方と1年以上ぶりにお会いでき、嬉しくて思わず涙が流れました。
- ・せっかくの交流ができるかと思っていたが、被災者同士の輪が広がらずにもったいない。支援して下さる方々とは色々お話しできて良かったです。

## ■その他に現在の生活での課題をお聞かせください。

- ・子供が来年から小学生なので働きに出たい。避難生活が長引いているのでいい加減、子供に落ち着いた環境を与えてやりたい。叶うことなら、寂しがる息子に兄弟を作ってやりたい。夫の食生活を何とかしてあげたい。
- ・いわきからの避難者の場合、公的な援助を受けられないのが残念です。例) 高速道路無料化、医療費等
- ・避難者同士のトラブル…。人間関係が1年以上になり、ぼちぼち出てきている事。何時でも感謝の気持ちを忘れずに生活しています。イベントが楽しみです。
- ・自主避難しているものですが、自主避難中に兄弟が実家に戻ってきて自分の帰る場所がなくなってしまった。(自分の部屋がなくなって帰っても行くところがなくて困っています) 仕事はしているものの、今後、自主避難を続けながらどうやって暮していくのか考えなくてはいけない。いわき市長からいわき市民は戻ってこいと言われていて、福島県知事は良くないし、福島県を嫌いになりそう。
- ・母子避難中のため、子供達がパパに会えるのが月に二回ほどです。二重生活のため、生活費・東京に会いに来るための交通費が家計に重くのしかかってきます。
- ・現在も我々の故郷双葉郡は、親類・友人・同僚がバラバラで生活をして、3月11日以前の生活とは比べようがありません。お金の保障だけでなく、早く自分の家、コミュニティ、仕事などを早く国家的に考えて頂きたい。70~80代の方々には時間が少ない。
- ・行政サービスが偏重している。原子力(災害救助法 激甚災害)が浸透していない。
- ・先行き不安、平成26年3月31日以降はどうなるのか。支援物資がこない、新宿区は人数は少ないらしいのですが何もありません。
- ・避難で再発した精神疾患とぜんそくを早く治したい。息子が発達障害なので、子供の成長・父のアルコール・うつ病の再発防止。福島に戻ってしまった親戚との会える回数をどう多くするか。仕事をしたい。浪江町と避難所の連携、福祉をどうやってうけるかが心配。
- ・まわりの皆さんにとっても親切にして頂き感謝しております。願わくは、東京の補償をもう少し早くしてもらいたいと思います。そろそろお金もなくなりかけています。
- ・生まれた故郷に帰るまで体を鍛えて頑張るつもりです。
- ・慣れるように努めています。東京の皆さんに感謝しています。
- ・いつもお世話になりありがとうございます。優しい対応に感謝しております。自然の中で生活(川・山・海)を行っていた為ストレスを感じます。又、孫たちとも会う事が少なく淋しい思いです。福島に戻っても別々の生活になってしまうと不安の日々です。人見さん感動しました。
- ・自分の土地の件
- ・広野町に残している家屋の処分に困っている。
- ・福島の家片づけ等で帰る度、どんどん傷んでいく部屋を見て気を落とし、東京との差を感じて更に気を落とし・・・頑張らないと！と1年間やってきたのですが、ここにきて落ち込むことが多いので、もっていけるようにすることが課題です。
- ・いわきに一日も早く帰り落ち着きたいが、帰る家がない。公営のアパートの早期完成を希望する人が全員入れるようにしてほしい。
- ・住民票を移した方が良いのか迷っている。
- ・移住の住居が欲しいです。
- ・住居が県外では移動できないので悩んでいます。
- ・都から現在の住まいを頂きましたが、色々な周りからの悪評があったり動物を連れてきたのでとても住みづらい処があります。いつまでいられるのか不安です。期限付きで住んでいます。少しでも皆様をお願いしたい事があります。新宿は避難所と違ってあまり支援物資が届いてないようです。もし皆様の力添えをお願いしたいと思っております。現在300名が避難しています。
- ・賠償相談や今後の事を考えていかなくてはいけないと思います。埼玉でも支援団体の一人として活動しています。沢山の人がこんなに今も支えて下さる方がいることに感謝します。
- ・将来どうしたらいいか判断できない。自分で判断しなければいけないんですね。
- ・知人もなく何もすることがなく、非常に寂しいです。

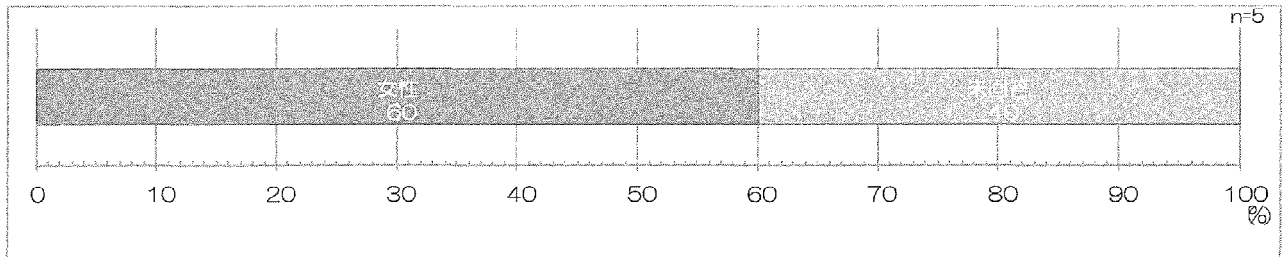
【第3回 コミュニティイベント（福島県郡山市）】 2012年11月4日

《回答者の構成》

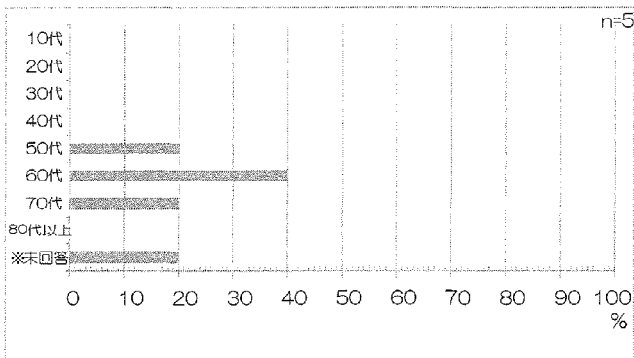
■ アンケート回答数

- ・ イベント参加者数：17名
- ・ アンケート回答者数：5名

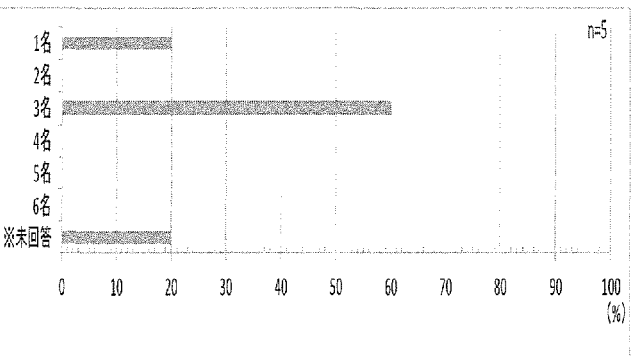
■ 性別



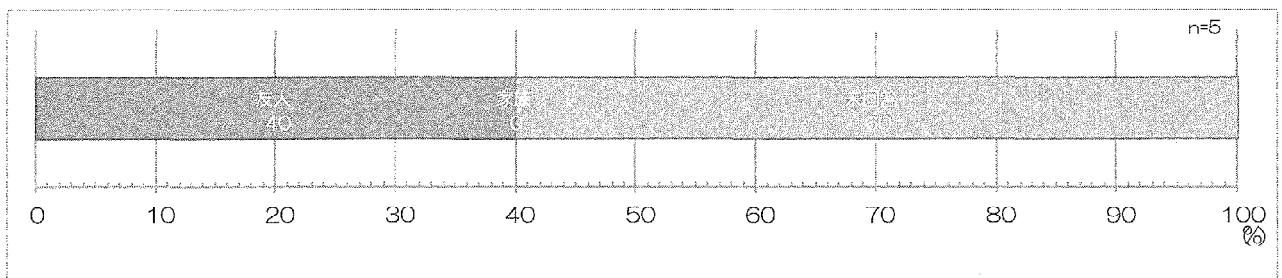
■ 年代



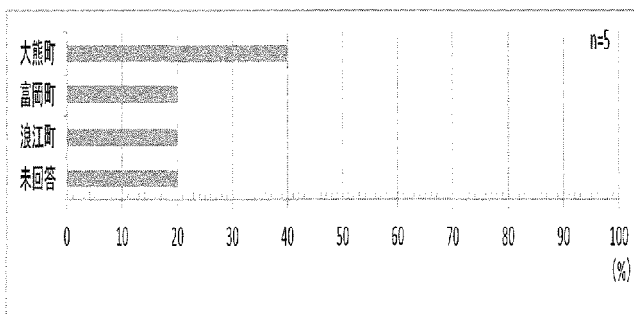
■ 参加人数



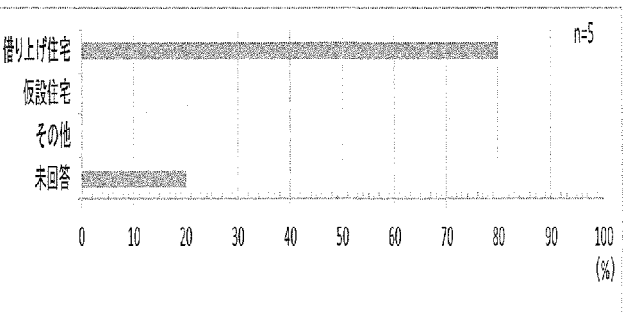
■ 参加形態



■ 出身地

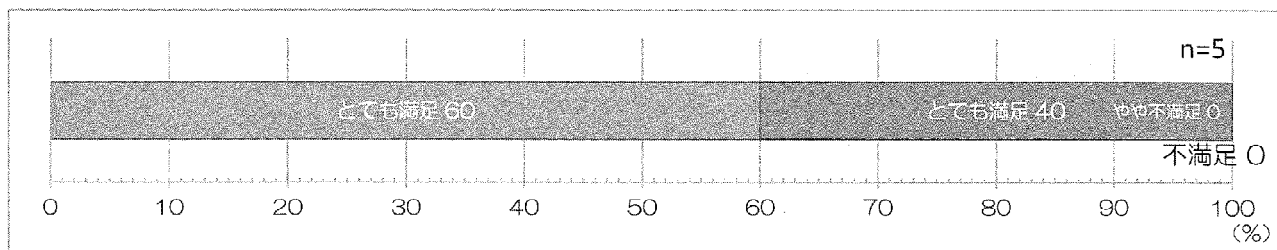


■ 現在の居住地

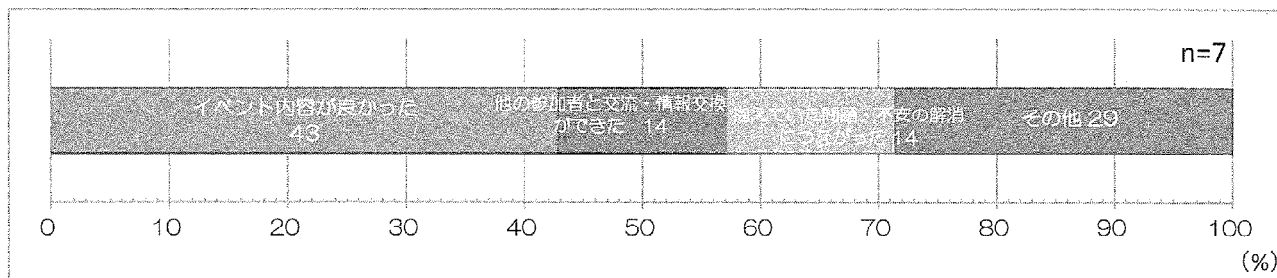


## 《イベントについて》

### A. イベント全体について



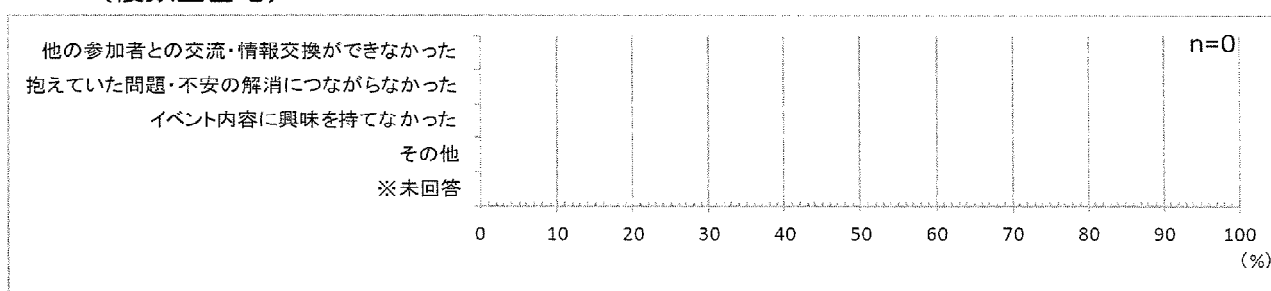
### B. (A.で「とても満足」「満足」を選んだ方) どのような点が良かったですか。(複数回答可)



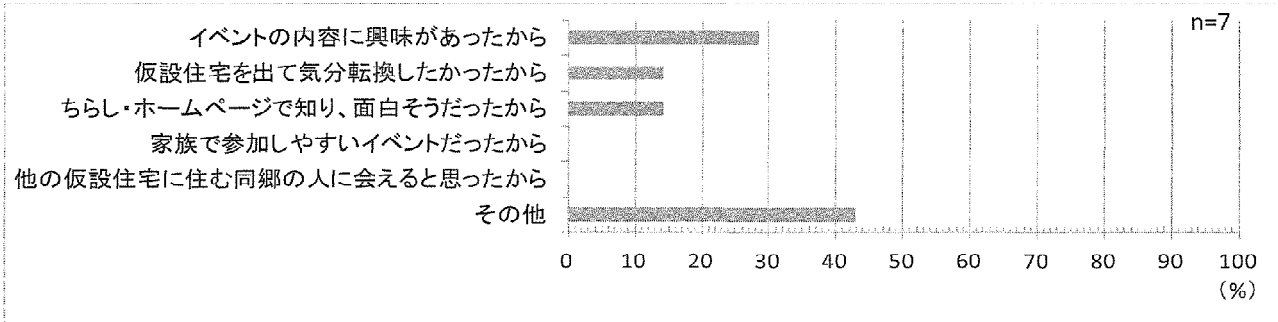
#### ■その他

- ・とても良かった。笑うことを忘れていましたが、今日は久しぶりに皆と笑い話ができ嬉しかったです。
- ・風化しつつある原発問題が、他県の方と話が出来て大変嬉しかったです。また機会がありましたら参加したいです。

### C. (A.で「やや不満足」「不満足」を選んだ方) どのような点が良くなかったですか。(複数回答可)



## D. 今回のイベントへの参加理由を教えてください。

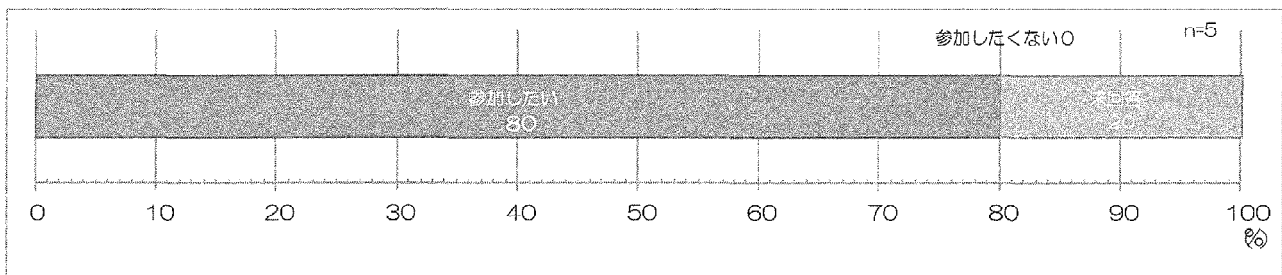


※複数回答者あり

## ■その他

- ・ 借り上げ住宅での生活ですので情報が無く、寂しい思いをすることが多いです。
- ・ 誘われてきましたが、来て良かった。
- ・ 友達に誘われたから。

## E. 次回も同様のイベントを開催した場合、参加したいですか？





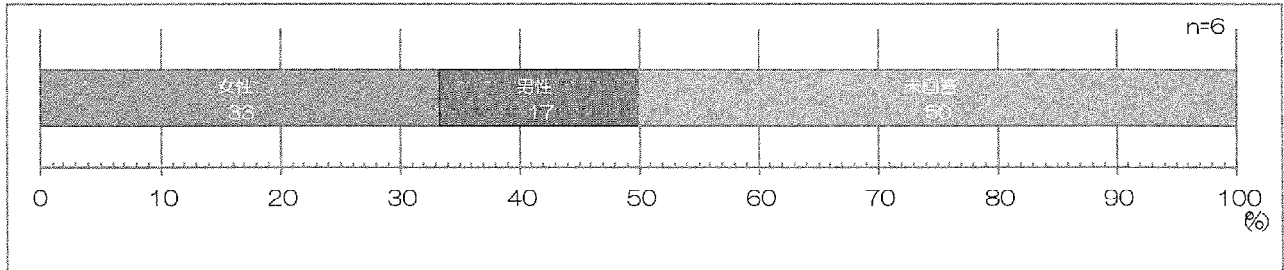
## 【第4回 コミュニティイベント（福島県須賀川市）】 2012年12月23日

## 《回答者の構成》

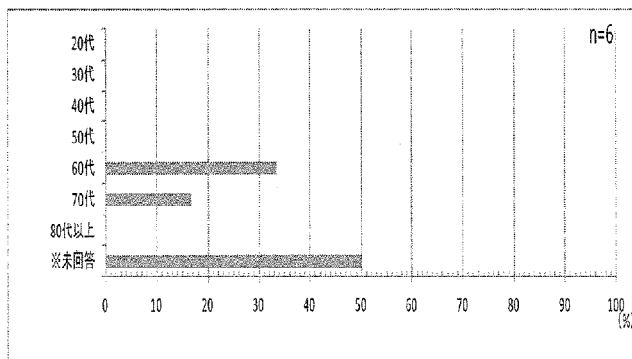
## ■ アンケート回答数

- ・ イベント参加者数：100名
- ・ アンケート回答者数：6名

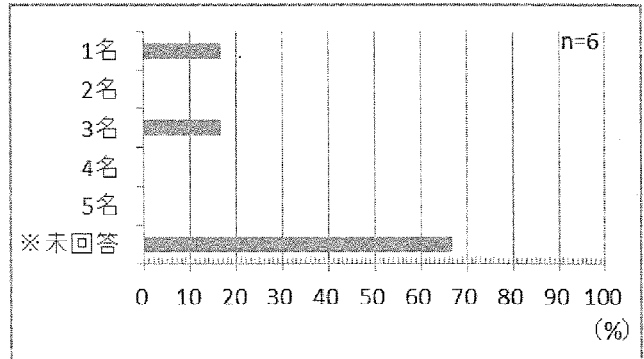
## ■ 性別



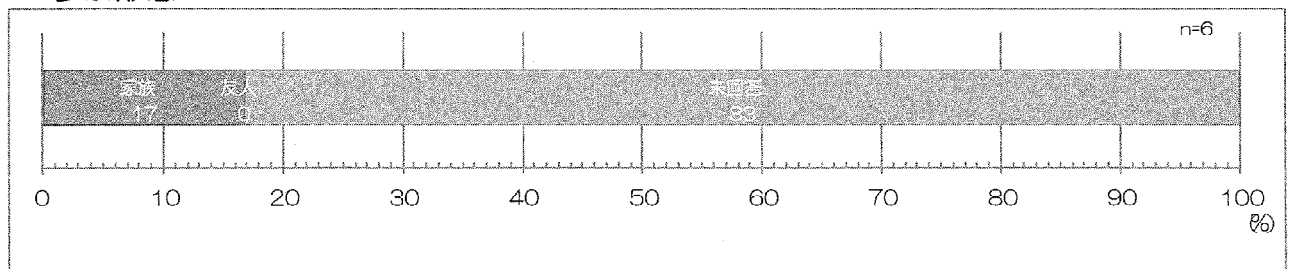
## ■ 年代



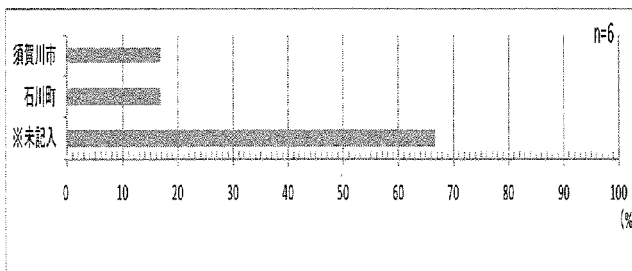
## ■ 参加人数



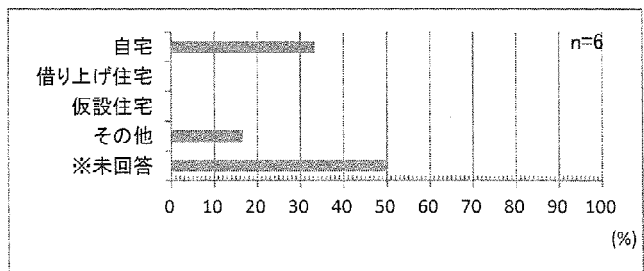
## ■ 参加形態



## ■ 避難前居住地

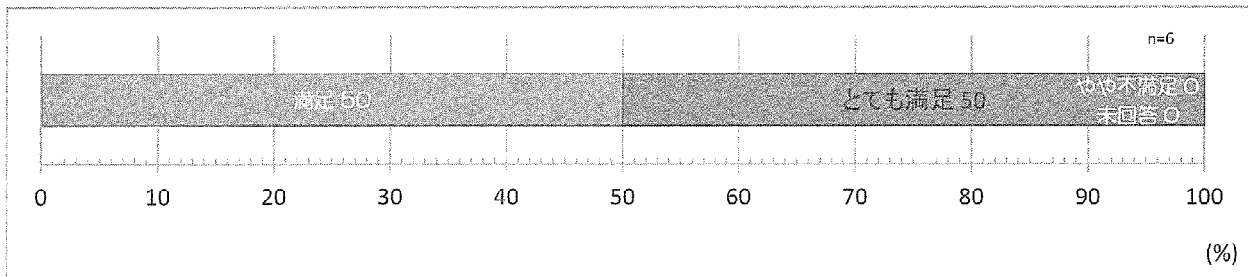


## ■ 現在のお住まい

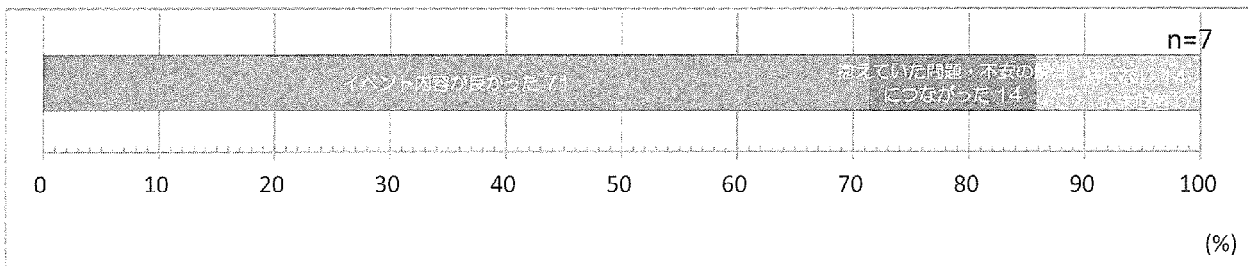


## 《イベントについて》

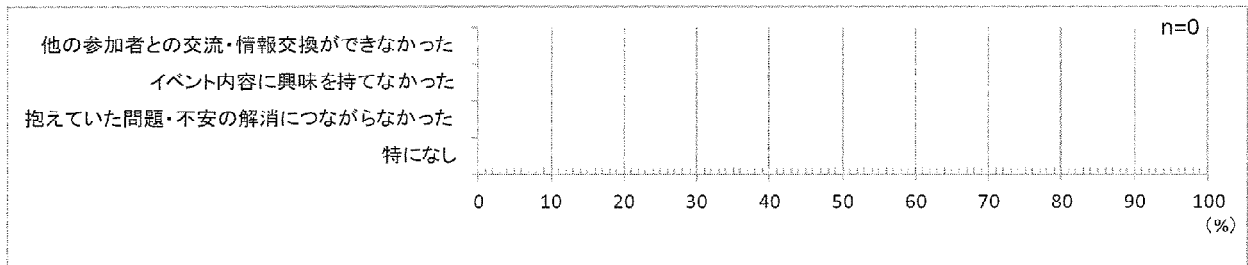
### A. イベント全体について



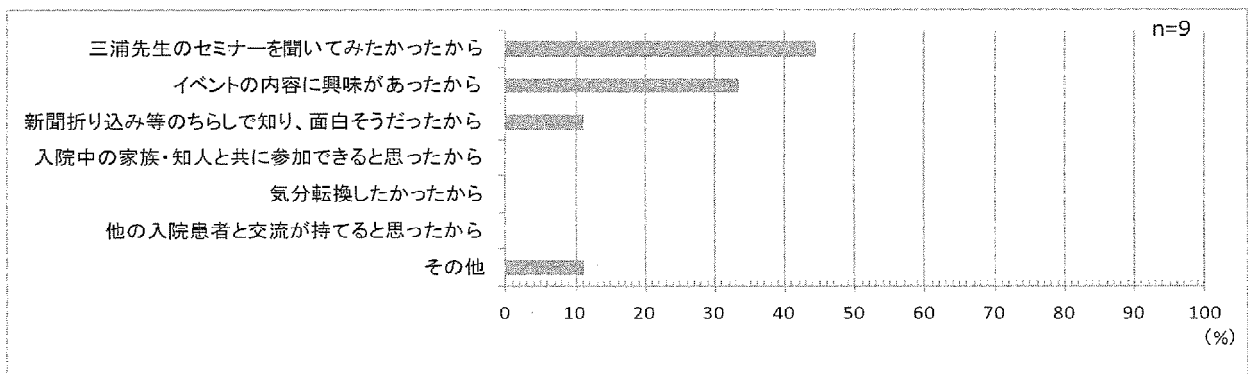
### B. どのような点が良かったですか。(複数回答可)



### C. どのような点が良くなかったですか。(複数回答可)



### D. 今回のイベントへの参加理由を教えてください。

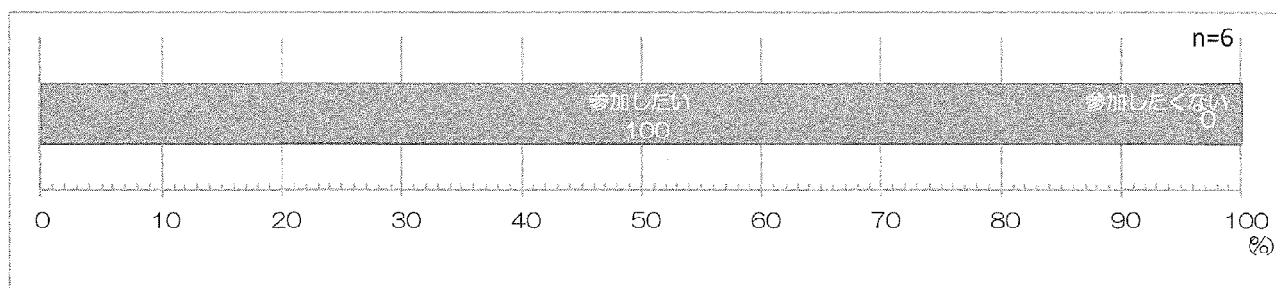


※複数回答者あり

#### ■その他

・イベントのある事を知りませんでした。入院者の面会できて、イベントを知りました。もっと多くの方に知ってもらう方法ないかしら。

E. 次回も同様のイベントを開催した場合、参加したいですか？



■ 今回のイベントに関するご感想をお聞かせ下さい。

～主な回答～

- ・とても良かった。
- ・ボランティアの人たちが優しかった。
- ・思いがけず立ち寄らせて頂きました。お医者様のお話しなかなか聞けませんけれどとても良かったです。
- ・イベントの目的をはっきり知りたかった。
- ・大変良かった。
- ・専門的な内容の所が多、今まで遠くから見ている事が直接できた事、院長先生のお話が聞けた事・・・

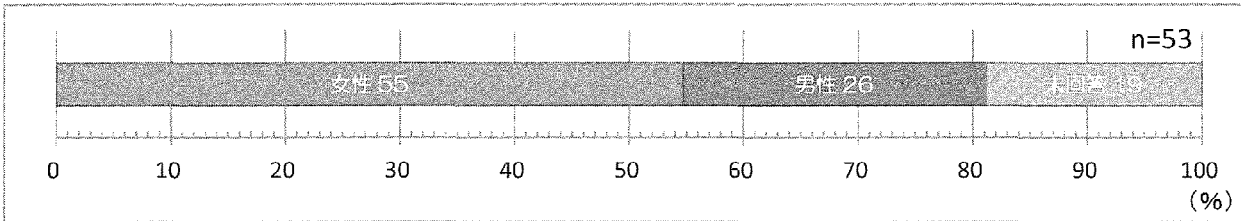
【第5回 コミュニティイベント（新潟県新潟市）】 2013年1月20日

《回答者の構成》

■ アンケート回答数

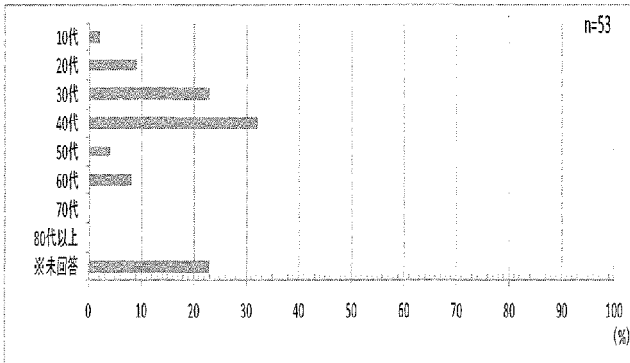
- ・ イベント参加者数：200名
- ・ アンケート回答者数：52名

■ 性別



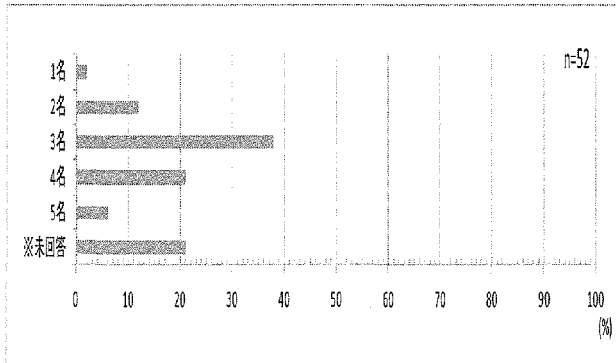
※複数回答者あり

■ 年代

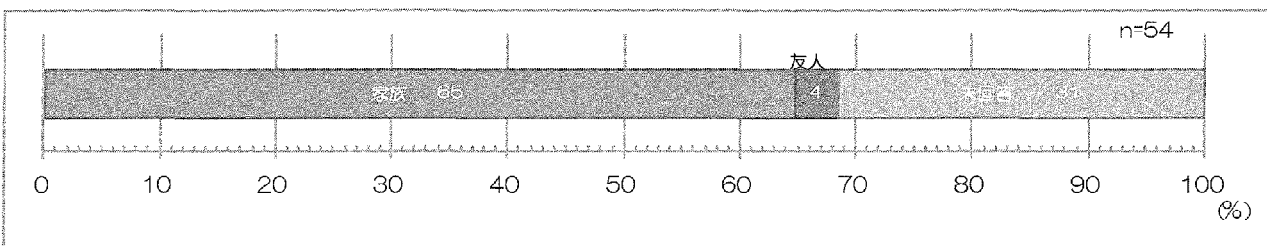


※複数回答者あり

■ 参加人数

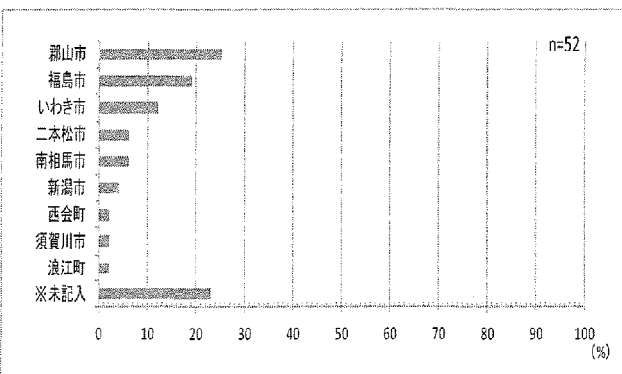


■ 参加形態



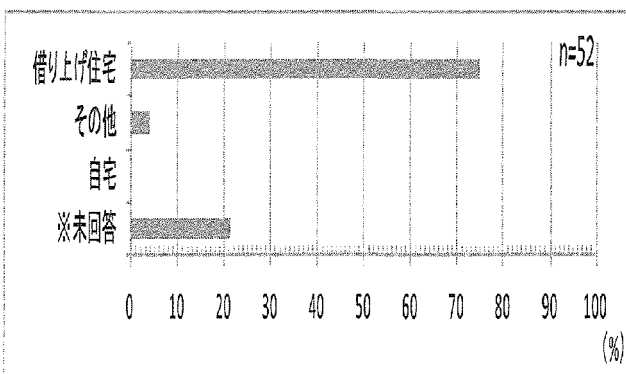
※複数回答者あり

■ 避難前居住地



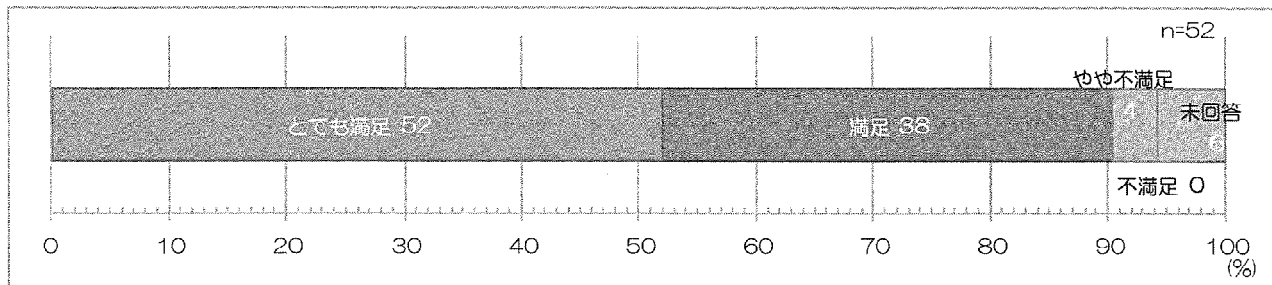
※家族での参加のうち、子ども数37名

■ 現在のお住まい

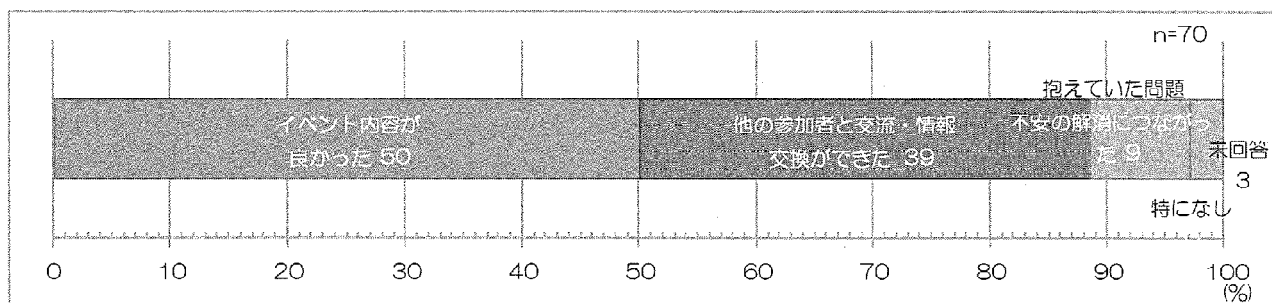


## 《イベントについて》

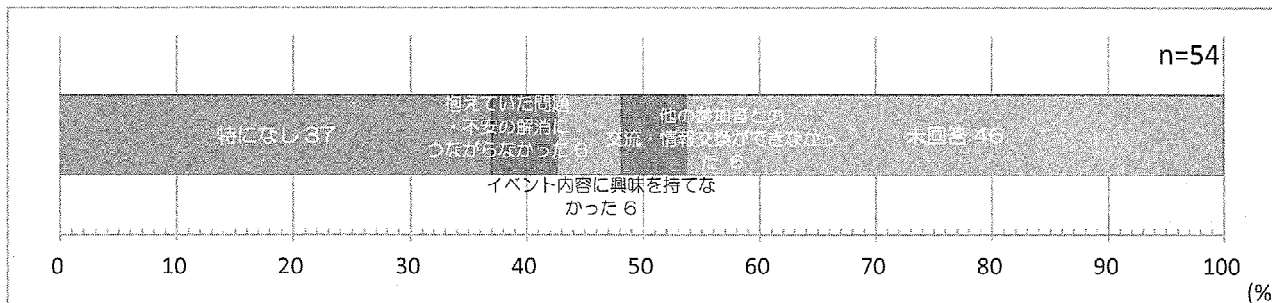
### A. イベント全体について



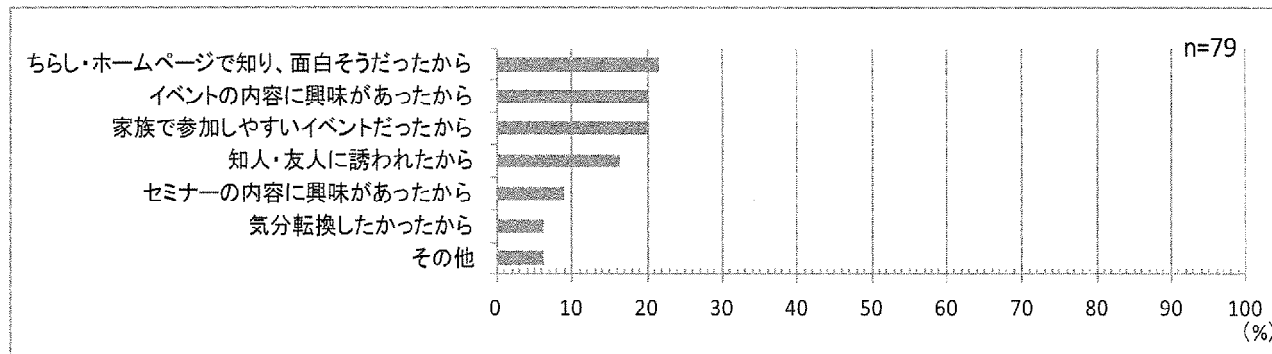
### B. どのような点が良かったですか。(複数回答可)



### C. どのような点が良くなかったですか。(複数回答可)



### D. 今回のイベントへの参加理由を教えてください。



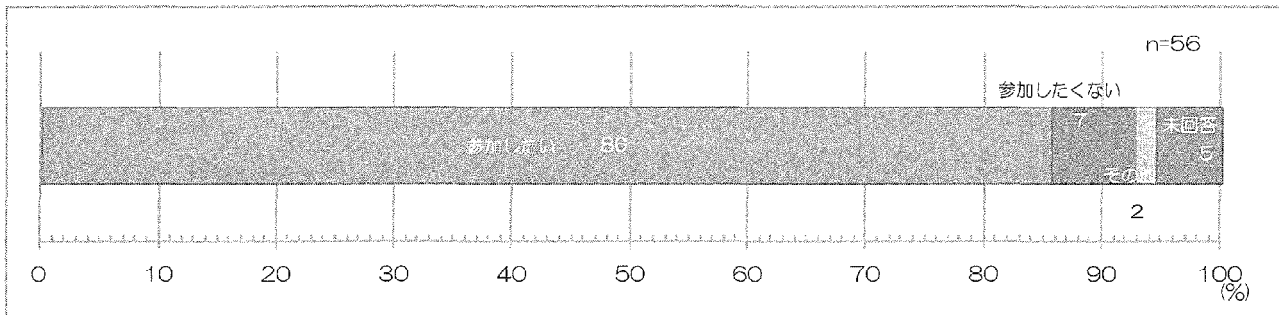
※複数回答者あり

■その他（主な回答）

- ・近所だったから。ありがとうございました。
- ・子供も楽しめそうだったから。

- ・ファッションショーに参加させて頂きました。
- ・交流・情報交換、期待しての参加

### E. 次回も同様のイベントを開催した場合、参加したいですか？



#### ～理由～

(一部抜粋)

#### ■参加したい

- ・次のイベントに期待しているから
- ・全般的に楽しいイベントが多かったから。
- ・イベントが想像以上に良かった！とても楽しかったから。
- ・色々な方と交流できて、リフレッシュできるから。
- ・お友達とわきあいあい、楽しく一日が過ごせました。
- ・家族で楽しい時間を過ごせる。
- ・子供と2人なので、休日にイベントをしてもらえると嬉しいです。
- ・子供が楽しそうだったので。
- ・ファッションショー出れば良かった～！ので。
- ・ファッションショーに出ました。子供と3人で楽しい思い出ができました、有難うございました。
- ・娘と共に楽しい思い出をさせていただき、感謝しております。
- ・とても貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。
- ・毎日の悩みを一時的に忘れる事ができました。

#### ■その他

- ・イベント内容によって決めたい。

#### ■その他に現在の生活での課題をお聞かせください。

～主な回答～ (一部抜粋)

- ・今後の生活
- ・いつ福島に戻るか決められずにいる。子供の健康に影響のない線量といくら言われても、ゼロではないので、その低線量が5年後、10年後、本当に子供は健康でいられるかと考えると戻る決心がつかない。
- ・私のみ郡山に残り週末に会いに来てますが、できれば家族一絡が良いと思っております。今年41歳という事を考えると再就職ができるかどうか不安材料です。
- ・経済的負担が非常に大きい。
- ・金銭的なこと、住居の狭さ、仕事沢山あります。
- ・母親の就業、子育て(進学の際)の習い事への余裕、健康面への不安
- ・家族との時間
- ・父親となかなか会えない。金銭的に苦しい。
- ・高速道路料金の無料化再開をお願いします。
- ・新潟までの交通費用。バス代の補助の期間延長
- ・仕事を見つける事、子供がいても働ける職場、地元の事をもっと知りたい、友人を増やしたい。
- ・長い避難生活が続くので3人で2DKの間取りでは狭く感じてきました。
- ・借上げが終了したあとの生活が不安。福島へ帰れるとは思えないけれど、マイホームもあり、ローンも抱えている。
- ・子供の健康、自分の健康。
- ・寒い時、雪が多くて出るのが億劫です。

資料

## 広報・告知活動

広報・告知

【第1回コミュニティイベント】2012年6月24日

■江東区東雲住宅の入居者へのポスティング  
およびポスター掲示

■江戸川区県外避難者へのDM発送

■新宿区社会福祉協議会による告知協力  
協力内容：新宿区内の県外避難者を対象と  
する広報紙「交流サロン通信」への告知掲載

■中野区社会福祉協議会による告知協力  
協力内容：◇中野区内の県外避難者を対象と  
する広報紙「Smile!」への告知掲載

◇当センター作成のチラシを中野区内の県外  
避難者に対しDM発送

◇交流サロン”来らっせいらさぎ”での  
ポスター掲示

■行政による告知協力

協力行政：福島県双葉町、浪江町、富岡町、  
大熊町、南相馬市

協力内容：◇ホームページへの掲載

◇メールマガジン、フォトビジョン  
による配信等

**6/24(日) 12:00** 浪江町 くらひらに明を

**こっちゃん来たらいいべえ**

日本赤十字会 7階会議室  
〒260-0801 東京都江東区東雲1-1-1  
TEL 03-5570-0100 (受付) FAX 03-5570-0101

6月24日(日) 12:00開演～15:00  
浪江町 くらひらに明を  
浪江町 くらひらに明を

お母と赤ちゃんが笑顔で過ごせる  
お母と赤ちゃんが笑顔で過ごせる  
お母と赤ちゃんが笑顔で過ごせる

お問い合わせ先  
TEL 03-6488-2852 (受付: 浪江町)

**Smile!**

月に1回、区内各団体  
集って話し合おう!

災害被害の支援センター  
〒201-8501 東京都中野区中野1-1-1  
TEL 03-6488-2852 (受付: 中野区)

新宿区社会福祉協議会発行 広報紙「交流サロン通信」

中野区社会福祉協議会発行 広報紙「Smile!」

**南相馬市**  
南相馬市ホームページ

**浪江町**  
浪江町ホームページ

**福島県双葉町**  
双葉町ホームページ

**大熊町役場 Okuma Town**  
大熊町ホームページ

**富岡町**  
富岡町ホームページ

富岡町ホームページ



# 【第2回コミュニティイベント】2012年10月21日

## ■江東区

- ・東雲住宅に入居する避難者へのちらしのポスティング
- ・東雲住宅内掲示版へのポスターの掲示
- ・東雲住宅の交流サロンでの案内

## ■江戸川区

- ・避難者へのちらしのDM発送  
(過去、医療ネットワーク支援センターの支援活動の連絡・案内目的で、連絡先を伺った方々が対象)

## ■新宿区

- ・社会福祉協議会による避難者へのちらしのDM発送の協力
- ・社会福祉協議会による交流サロンでの広報協力

## ■中野区

- ・社会福祉協議会による避難者へのちらしのDM発送の協力
- ・社会福祉協議会による交流サロンでの広報協力
- ・社会福祉協議会による広報紙「Smile!」(中野区内の避難者を対象とする広報紙)での告知協力

## ■被災自治体による告知協力

- ・協力自治体/双葉町、浪江町、富岡町、大熊町、南相馬市
- ・協力内容/ホームページへの掲載、メールマガジン、フォトビジョンによる配信等

**10/21日 15時** **こっちゃん来たらいいべえ**

国立科学博物館 日本館 4階大会議室  
東京都千代田区千代田 3-1-8

日時 10月21日(日) 12:00～15:00  
会場 国立科学博物館 日本館4階 会議室  
〒100-8602 東京都千代田区千代田 3-1-8

お問い合わせ 024-035-3332 (TEL) 03-5201-1200 (FAX)  
e-mail: D0181021@ic-net.jp  
http://www.ic-net.jp/20121021.html

# 【第3回コミュニティイベント】2012年11月4日

## ■被災自治体による告知協力（計2,400部）

- ・ホームページ等への掲載
  - －協力自治体／双葉町、浪江町、富岡町、大熊町、楡葉町、葛尾村
  - －協力内容／ホームページへの掲載
- ・メールマガジン、フォトビジョンによる配信等
- ・仮設住宅の集会所、町役場支所へのちらしの配置、ポスターの掲示
  - －協力自治体／双葉町（270部）、浪江町（480部）、富岡町（1,300部）、川内村（350部）

## ■郡山市社会福祉協議会（300部）

- ・借上げ住宅を対象にした交流サロンでのちらしの配置・ポスター掲示
- ・生活相談員に対するイベント告知・告知の協力依頼
- ・自治体担当・各地域社協などにイベント告知・告知の協力依頼
- ・ボランティアセンターにてボランティア募集の協力

## ■富岡町社会福祉協議会（50部）

- ・災害FM放送でのイベント告知
- ・交流サロンでのイベント案内、ちらしの配置、ポスターの掲示
- ・イベント当日、会場近くの仮設住宅への送迎バスに同乗、案内の協力

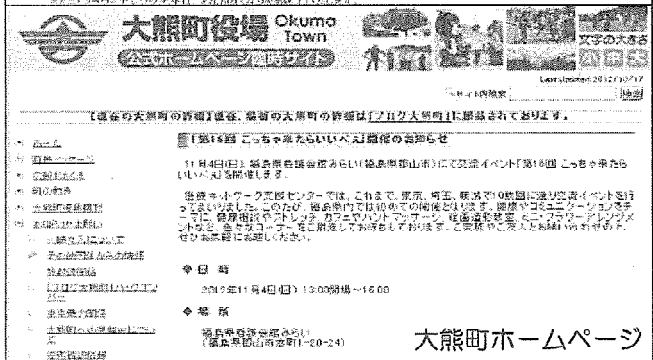
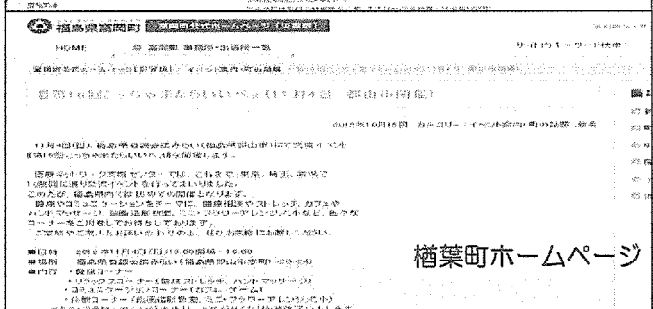
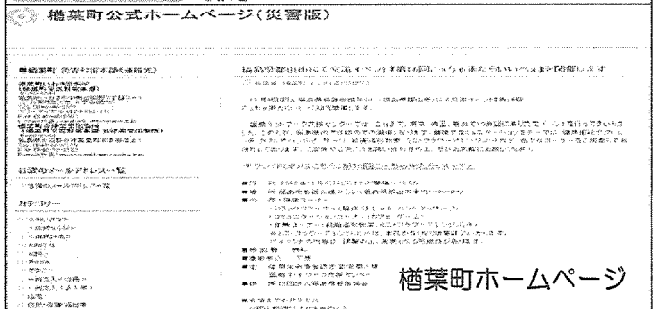
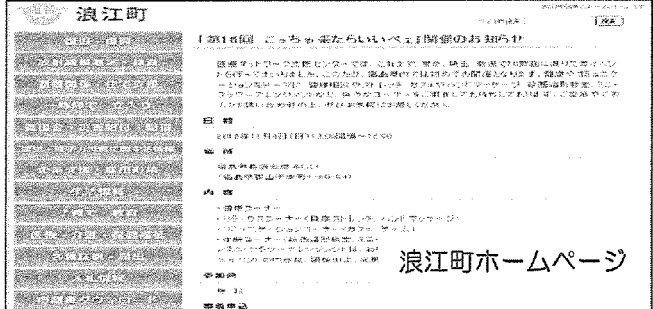
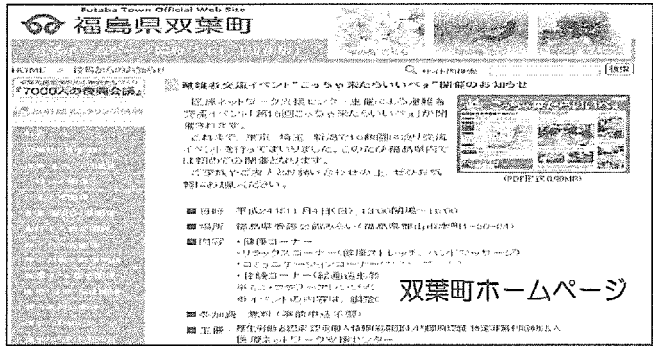
## ■福島県看護協会（200部）

- ・ちらしの配置・ポスター掲示
- ・ボランティア募集の協力

## ■NPO法人 ビーンズふくしま（50部）

- ・巡回先でのイベント案内

※ ボランティア募集の協力は、送付したちらしの枚数



## 【第4回・第5回コミュニティイベント】

## 《第4回こっちゃん来たらいいべえ》 2012年12月23日

■須賀川市社会福祉協議会による告知協力  
(200部)

- ・仮設住宅入居者へのちらしのポスティング

## ■公立岩瀬病院による告知協力(200部)

- ・須賀川市内へのちらしの配置、ポスターの掲示

## ■新聞へのちらし折り込み(岩瀬病院の近隣の購読者に対し、計4,000部)

- ・福島民報(2,000部)
- ・福島民友(2,000部)

※( )内の数字は、送付したちらしの枚数



## 《第5回こっちゃん来たらいいべえ》 2013年1月20日

## ■新潟県 県民生活・環境部 広域支援対策課による告知協力(2,500部)

- ・新潟市内の県外避難者に対するちらしの送付

## ■新潟県内の子育て支援団体による告知協力(300部)

- ・新潟NPO協会/新潟市避難者交流所「ふりっぷはうす」でのイベント案内およびちらしの配布(100部)
- ・子育て応援施設「ドリームハウス」/「ドリームハウス」でのイベント案内およびちらしの配布(100部)
- ・NPO法人ヒューマン・エイド22/にいつ子育て支援センター「育ちの森」でのイベント案内およびちらしの配布(100部)

## ■新潟県美容業生活衛生同業組合による告知協力(1,800部)

- ・須賀川市内に配られる新聞

※( )内の数字は、送付したちらしの枚数



新潟NPO協会発行情報誌「Flip」でのチラシ掲載



## 協力先一覧

## 活動協力団体・企業一覧

活動協力		物資協力	
1	株式会社アイ・シー・ピー	1	アサヒグループホールディングス株式会社
2	アサヒグループホールディングス株式会社	2	井筒まい泉株式会社
3	アスクール株式会社	3	株式会社イデアインターナショナル
4	有山緑化繁殖株式会社	4	株式会社伊藤園
5	株式会社イオンフォレスト	5	認定特定非営利活動法人イーパーツ
6	株式会社大塚商会	6	株式会社エテュゼ
7	貝印株式会社	7	株式会社F・O・インターナショナル
8	株式会社キュラース	8	オムロンヘルスケア株式会社
9	京都大学大学院医学研究科 健康情報学分野	9	花王株式会社
10	近畿日本ツーリスト株式会社	10	ガシー・レンカー・ジャパン株式会社
11	株式会社芸術道形研究所	11	株式会社柏屋
12	公立岩瀬病院	12	カルビー株式会社
13	独立行政法人国立健康・栄養研究所	13	株式会社グランパー東京ラスク
14	公益社団法人埼玉県看護協会	14	ゴディパ ジャパン株式会社
15	株式会社ジェーシービー	15	株式会社ジェニィ
16	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	16	塩野義製薬株式会社
17	株式会社セガトイズ	17	有限会社STAY FREE
18	ソニー株式会社	18	株式会社セガトイズ
19	第一生命保険株式会社	19	田辺三菱製薬株式会社
20	株式会社大和証券グループ本社	20	社団法人日本玩具協会
21	鶴見大学歯学部附属病院	21	一般財団法人日本口腔保健協会
22	東京海上日動メディカルサービス株式会社	22	株式会社パーク・コーポレーション
23	東京トヨペット株式会社	23	株式会社フルボン
24	トヨタ自動車株式会社	24	株式会社ベルーナ
25	富山大学附属病院専門医養成支援センター	25	株式会社文明堂東京
26	子育て応援施設「ドリームハウス」	26	ボシュロム・ジャパン株式会社
27	株式会社99Labs	27	マテル・インターナショナル株式会社
28	特定非営利活動法人新潟NPO協会	28	株式会社明治
29	公益社団法人新潟県看護協会	29	株式会社ライトオン
30	新潟県美容業生活衛生同業組合	30	株式会社ラッシュジャパン
31	日本アートクラフト協会	31	日本ランズエンド株式会社
32	一般財団法人日本口腔保健協会	32	株式会社リクルートホールディングス
33	特定非営利活動法人日本臨床美術協会	33	ロート製薬株式会社
34	株式会社パソナ		
35	八大株式会社		
36	特定非営利活動法人ビーンズふくしま		
37	特定非営利活動法人ヒューマン・エイド22		
38	社団法人福島県看護協会		
39	株式会社ザ・フランス		
40	株式会社ブリヂストン		
41	ポピュラサイズ有志の皆様		
42	本田技研工業株式会社		
43	明治安田生命保険相互会社		
44	森永乳業株式会社		
45	株式会社ユーラシア旅行社		
46	株式会社ラッシュジャパン		
47	株式会社リクルートキャリアコンサルティング		



<発行>

厚生労働省認定 認定個人情報保護団体  
特定非営利活動法人

**医療ネットワーク支援センター**

東京都渋谷区千駄ヶ谷3-12-1-302

TEL. 03-6438-2852

<http://www.medical-bank.org/>

専用サイト <http://h-aid.jp/>